

日本における医療情報システムの標準化に係わる
実態調査研究
報告書

令和2年3月

株式会社シード・プランニング

目次

第1章 調査概要

1. 調査の背景	3
2. 調査の目的	3
3. 調査の内容	4
(1) 調査対象	4
(2) 調査方法	5
(3) 調査項目	5
(4) 調査期間	5

第2章 調査結果サマリー

1. 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装・活用状況	6
2. 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装・活用状況	7
3. 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装・活用状況	9
4. 厚生労働省標準規格の実装・活用状況	11
5. マイナンバーカードの活用状況	13

第3章 調査結果

1. 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	14
(1) 医事会計システムの導入状況	14
(2) 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	15
(3) 医事会計システムにおける実装している厚労省標準規格の活用事例	18
(4) 医事会計システムにおける実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由	25
2. 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	30
(1) 電子カルテシステムの導入状況	30
(2) 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	31
(3) 電子カルテシステムにおける実装している厚生労働省標準規格の活用事例	37
(4) 電子カルテシステムにおける実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由	51
3. 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装状況	58
(1) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)の導入状況	58
(2) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装状況	59
(3) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における実装している厚労省標準規格の活用事例	65
(4) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由	78
4. マイナンバーカードの活用状況	85
(1) 診察券の種類	85

(2) マイナンバーカードの活用状況	85
(3) マイナンバーカードの活用用途	86
5. 医療機関への電話ヒアリング調査結果	87
(1) 厚生労働省標準規格の活用状況について	87
(2) マイナンバーカードの医療機関での活用状況について	88

【別添資料】

1. アンケート調査票
2. 単純集計結果
 2. 1. 施設種別
 2. 2. 導入している医療情報システム
 2. 3. 導入している医療情報システムのメーカー
 - (1) 医事会計システム
 - (2) 電子カルテシステム
 - (3) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)
 2. 4. 導入している医事会計システムについて
 - (1) 実装している厚生労働省標準規格
 - (2) 実装している厚生労働省標準規格の活用状況
 - (3) 厚生労働省標準規格を活用していない理由
 2. 5. 導入している電子カルテシステムについて
 - (1) 実装している厚生労働省標準規格
 - (2) 実装している厚生労働省標準規格の活用状況
 - (3) 厚生労働省標準規格を活用していない理由
 2. 6. 導入している一体型システム(医事会計・電子カルテ)について
 - (1) 実装している厚生労働省標準規格
 - (2) 実装している厚生労働省標準規格の活用状況
 - (3) 厚生労働省標準規格を活用していない理由
 2. 7. 診察券について
 - (1) 診察券の種類
 - (2) マイナンバーカードの活用状況
 - (3) マイナンバーカードの具体的な活用状況
 2. 8. 回答者属性

第1章 調査概要

1. 調査の背景

技術革新が進む中で、医療分野において医療情報システムを積極的に活用し、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築を進めることは急務である。「経済財政運営と改革の基本方針 2019」においても、「レセプトに基づく薬剤情報や特定健診情報といった患者の保健医療情報を、患者本人や全国の医療機関等で確認できる仕組みに関し、特定健診情報は 2021 年3月を目途に、薬剤情報については 2021 年 10 月を目途に稼働させる。さらに、その他のデータ項目を医療機関等で確認できる仕組みを推進するため、これまでの実証結果等を踏まえ、情報連携の必要性や技術動向、費用対効果等を検証しつつ、医師や患者の抵抗感、厳重なセキュリティと高額な導入負担など、推進に当たっての課題を踏まえた対応策の検討を進め、2020 年夏までに工程表を策定する。あわせて、医療情報化支援基金の使途や成果の見える化を図りつつ、電子カルテの標準化を進めていく。」こととしており、医療情報システムの普及と標準化が必要とされている。

現在、電子カルテの普及率は年々上昇しており、平成29年度の医療施設調査(H29.10.1 現在)では、400床以上の一般病院においては約8割強となっている。一方、医療機関にとっては、医療情報システムの標準化が図られていないため、各医療機関でシステム開発をカスタムメイド(個々の医療機関の要求に応じた独自の仕様)で行うこととなり、システムの導入及び入替のコストが膨大となっている等、経営面等でのメリットが感じにくいという指摘がある。

医療情報システムの標準化は、医療関係者やベンダに対する直接的な利点(コスト低減等)に加えて、医療政策や研究開発の促進にも資するという間接的な利点からも重要な取組であり、厚生労働省としては、保健医療情報の標準規格を定めることにより、医療情報の標準化を推進してきたところである。さらに、2019 年 10 月に創設された医療情報化支援基金の活用やその他政策等により技術動向を踏まえた電子カルテの標準化を加速していくこととしている。

2. 調査の目的

厚生労働省は、保健医療分野の適切な情報化を進めることを目的に、平成 22 年より保健医療分野において必要な厚生労働省標準規格を策定し、その採用を推進している。

患者の医療情報を全国の医療機関で確認できる仕組みの構築のためには、医療情報の標準化の更なる促進が必要であることから、本事業では日本の医療機関(病院、診療所、歯科診療所)における厚生労働標準規格の実装や活用状況について、その実態把握を行うために実施した。

3. 調査の内容

(1) 調査対象

本調査は、医療現場における医療情報システムの厚生労働省標準規格の実装状況や活用状況を把握するために、全国の病院8,412施設、診療所101,471、歯科診療所68,609施設のうち、各400施設の有効回答を得ることを目標に、それぞれ2,400施設を対象に調査依頼を行った。

○ 調査対象の選定方法・選定手順

<病院>

病院の選定については、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州沖縄の八地方に区分して施設数に応じて割付を行い、さらに病床規模別(大規模:400床以上、中規模:200床~399床、小規模:199床以下)に区分し、無作為抽出により調査対象を選定した。

<診療所・歯科診療所>

診療所および歯科診療所の選定については、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州沖縄の八地方に区分して施設数に応じて割付を行い、無作為抽出により調査対象を選定した。

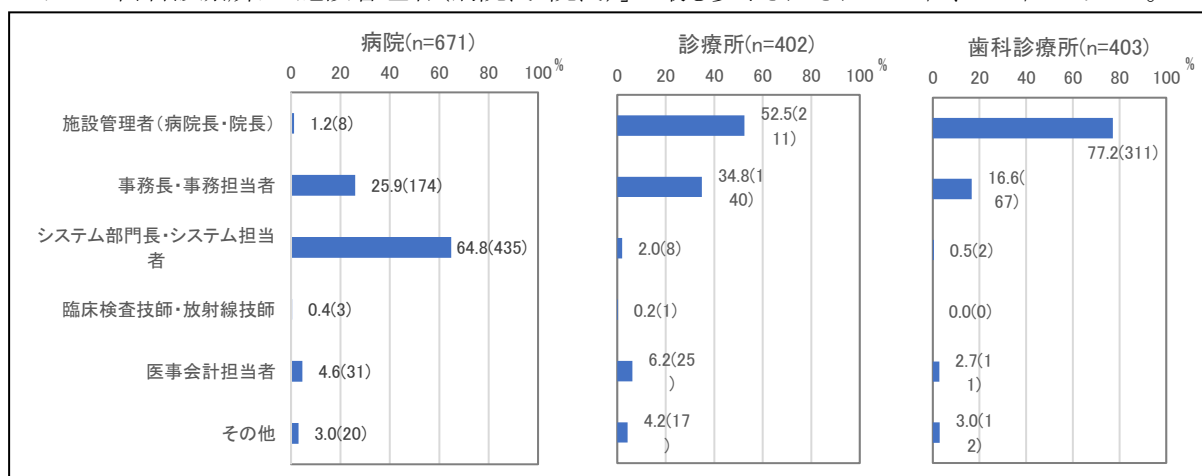
○ 回収結果

回収結果は以下のとおりである。

	配布数	回収数	回収率
病院	2,400 施設	671 施設	28.0%
診療所	2,400 施設	402 施設	16.8%
歯科診療所	2,400 施設	403 施設	16.8%

○ 回答者の職種

回答者の職種は、病院では「システム部門長・システム担当者」が最も多く65.8%であった。診療所および歯科診療所は「施設管理者(病院長・院長)」が最も多くそれぞれ54.8%、83.0%であった。



(その他の回答)

病院	・ 診療情報管理士(5件)、勤務医(1件)
診療所	・ 副院長(2件)、勤務医(2件)、看護師(2件)、薬剤師(2件)
歯科診療所	・ 副院長(1件)、勤務歯科医(3件)、歯科衛生士(4件)、歯科助手(1件)

(2) 調査方法

WEB アンケート調査を主体に郵送アンケート調査も併用して実施した。

(3) 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

調査項目(病院・診療所・歯科診療所共通)

区分	調査内容
医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	<ul style="list-style-type: none">・ 医事会計システムの導入状況・ 導入システムのメーカー名・ 厚生労働省標準規格の実装状況・ 実装している厚生労働省標準規格の活用状況・ 実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由
電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装状況	<ul style="list-style-type: none">・ 電子カルテシステムの導入状況・ 導入システムのメーカー名・ 厚生労働省標準規格の実装状況・ 実装している厚生労働省標準規格の活用状況・ 実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由
一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装状況	<ul style="list-style-type: none">・ 一体型システムの導入状況・ 導入システムのメーカー名・ 厚生労働省標準規格の実装状況・ 実装している厚生労働省標準規格の活用状況・ 実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由
マイナンバーカード	<ul style="list-style-type: none">・ 診察券の種類(磁気カード、IC カード、紙またはプラスチックカード)・ マイナンバーカードの活用状況・活用予定・ マイナンバーカードの具体的な活用状況
施設・回答者属性	<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関名・ 回答者名・ 所属・ 連携している地域医療連携ネットワークの名称

(4) 調査期間

2020年1月27日～2020年2月28日

第2章 調査結果サマリー

1. 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装・活用状況

医事会計システムそのものの導入率は、病院 95.7% (n=642/671)、診療所 86.1% (n=346/402)、歯科診療所 65.0% (n=262/403)であった。

導入している医事会計システムの厚生労働省標準規格の実装状況は、病院、診療所、歯科診療所ともに、「データ形式」よりも「コード・用語」に関するものの方が「実装していて活用している」傾向が多く見られた。

「実装していて活用している」事例としては、「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」や「院外処方箋の作成に使用」といった回答が多く、実用性が高い規格が実際に活用されているようである。

「実装しているが活用していない」理由としては「必要ない」という回答が多い傾向であった。

① コード・用語

	8つの標準規格のうち 「実装していて活用している」もの上位3位	主な活用事例
病院	1位:「HS005 標準病名マスター」 71.2% (n=280/393)	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」 89.3% (n=250/280)
	2位:「HS013 標準歯科病名マスター」 28.0% (n=110/393)	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」 88.2% (n=97/110)
	3位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 14.2% (n=56/393)	「院外処方箋の作成に使用」 71.4% (n=40/56)
診療所	1位:「HS005 標準病名マスター」 79.2% (n=156/197)	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」 89.1% (n=139/156)
	2位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 42.6% (n=84/197)	「院外処方箋の作成に使用」 67.9% (n=57/84)
	3位:「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」 31.0% (n=61/197)	「院外処方箋の作成に使用」 90.2% (n=55/61)
歯科診療所	1位:「HS013 標準歯科病名マスター」 45.4% (n=66/145)	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」 92.4% (n=61/66)
	2位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 23.4% (n=34/145)	「診療報酬請求の際の薬剤コード変換に使用」 70.6% (n=24/34)
	3位:「HS005 標準病名マスター」 20.7% (n=30/145)	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」 86.7% (n=26/30)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装していて活用している」と回答した施設のみを対象とした

② データ形式

	3つの標準規格のうち 最も「実装していて活用している」もの	主な活用事例
病院	「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」6.1% (n=24/393)	「院外処方箋の作成に使用」83.3% (n=20/24)
診療所	「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」11.2% (n=22/197)	「院外処方箋の作成に使用」90.9% (n=20/22)
歯科診療所	「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」4.1% (n=6/145)	「院外処方箋の作成に使用」100.0% (n=6/6)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装していて活用している」と回答した施設のみを対象とした

2. 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装・活用状況

電子カルテシステムそのものの導入率は、病院 92.5% (n=621/671)、診療所 50.7% (n=204/402)、歯科診療所 44.2% (n=178/403)であった。

導入している電子カルテシステムの厚生労働省標準規格の実装状況について、病院・診療所において「実装していて活用している」標準規格は「HS005 標準病名マスター」が最も高く、病院 86.6%、診療所 72.7%であった。その他の規格はいずれも4割未満であった。歯科診療所で「実装していて活用している」標準規格は、「HS013 標準歯科病名マスター」、「HS033 標準歯式コード仕様」については半数以上であったが、その他の規格は4割未満であった。

「実装していて活用している」事例については、「コード・用語」に関して病院、診療所、歯科診療所ともに、カルテ情報における病名・病名コードや薬剤コード、用法コード、検査コード、歯式コードとして使用しているケースが多く見られた。「データ形式」に関しては、カルテ情報における「放射線検査兼結果データ」・「処方・調剤情報」・「検査依頼・検査結果情報」として使用されているケースや、「患者への診療情報開示」、「他の医療機関等への診療情報提供書」として使用されているケースが多く見られた。「データ交換」に関しては、「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」や「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」に使用されているケースが多く見られた。

「実装しているが活用していない」理由としては、「HS009 IHE 統合プロフィール」「可搬型医用画像」およびその運用指針を除くほぼすべての標準規格について半数以上が「必要ない」という回答であった。

① コード・用語

	8つの標準規格のうち 「実装していて活用している」もの上位3位	主な活用事例
病院	1位:「HS005 標準病名マスター」 86.6% (n=322/372)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 90.7% (n=292/322)
	2位:「HS013 標準歯科病名マスター」 36.3% (n=135/372)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 90.4% (n=122/135)
	3位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 28.5% (n=106/372)	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」 54.7% (n=58/106)
診療所	1位:「HS005 標準病名マスター」 72.7% (n=40/55)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 85.0% (n=34/40)
	2位:「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」 40.0% (n=22/55)	「カルテ情報における用法コードとして使用」 77.3% (n=17/22)
	3位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 38.2% (n=21/55)	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」 81.0% (n=17/21)
歯科診療所	1位:「HS033 標準歯式コード仕様」 60.7% (n=37/61)	「カルテ情報における歯式コードとして使用」 91.9% (n=34/37)
	2位:「HS013 標準歯科病名マスター」 57.4% (n=35/61)	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」 97.1% (n=34/35)
	3位:「HS005 標準病名マスター」 36.1% (n=22/61)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 81.8% (n=18/22)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装していて活用している」と回答した施設のみを対象とした

② データ形式

	8つの標準規格のうち 「実装して活用している」もの上位3位	主な活用事例
病院	1位:「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」 20.4% (n=76/372)	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」77.6% (n=59/76)
	2位:「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」 18.5% (n=69/372)	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」 47.8% (n=33/69)
	3位:「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」 18.0% (n=67/372)	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」49.3% (n=33/67)
診療所	1位:「HS008 診療情報提供書」 40.0% (n=22/55)	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」 90.9% (n=20/22)
	2位:「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」29.1% (n=16/55)	「患者への診療情報開示に使用」 68.8% (n=11/16)
	3位:「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」 18.2% (n=10/55)	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」80.0% (n=8/10)
歯科診療所	1位:「HS008 診療情報提供書」 49.2% (n=30/61)	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」 93.3% (n=28/30)
	2位:「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」26.2% (n=16/61)	「患者への診療情報開示に使用」81.3% (n=13/16)
	3位:「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」 14.8% (n=9/61)	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」66.7% (n=6/9)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設のみを対象とした

③ データ交換

	4つの標準規格のうち 最も「実装して活用している」もの	主な活用事例
病院	「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」40.9% (n=152/372)	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」 74.3% (n=113/152)
診療所	「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)」7.3% (n=4/55)	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」 75.0% (n=3/4)
歯科診療所	HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)」4.9% (n=3/61)	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」 100.0% (n=3/3)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設のみを対象とした

3. 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装・活用状況

一体型システムそのものの導入率は、病院 37.1% (n=249/671)、診療所 37.1% (n=149/402)、歯科診療所 29.0% (n=117/403)であった。

導入している一体型システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、病院および診療所において「実装していて活用している」標準規格は「HS005 標準病名マスター」が最も高く、病院 94.8%、診療所 74.5%であったが、その他の規格は4割以下であった。歯科診療所で「実装していて活用している」標準規格は、「HS013 標準歯科病名マスター」、「HS033 標準歯式コード仕様」については6割を超えたが、その他の規格は4割以下であった。

「実装していて活用している」事例としては、病院、診療所、歯科診療所ともに、「コード・用語」に関してはカルテ情報における病名コードや薬剤コード、検査コード、歯式コードとして使用されているケースが多く見られた。「データ形式」に関しては、カルテ情報における「放射線検査兼結果データ」・「検査依頼・検査結果情報」・「処方・調剤情報」として使用されているケースや、「患者への診療情報開示」、「他の医療機関等への診療情報提供書」として使用されているケースが多く見られた。「データ交換」に関しては、「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」や「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」に使用されているケースが多く見られた。

「実装しているが活用していない」理由としては、病院および歯科診療所では、「使い方が分からない」より「必要ない」との回答が多い傾向であったが、歯科診療所においては特に「データ交換」に関する各規格について「使い方が分からない」という回答が多く見られた。

① コード・用語

	8つの標準規格のうち 「実装していて活用している」もの上位3位	主な活用事例
病院	1位:「HS005 標準病名マスター」 94.8% (n=236/249)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 94.5% (n=223/236)
	2位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 41.4% (n=103/249)	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」 75.7% (n=78/103)
	3位:「HS013 標準歯科病名マスター」 40.6% (n=101/249)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 90.1% (n=91/101)
診療所	1位:「HS005 標準病名マスター」 74.5% (n=111/149)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 82.9% (n=92/111)
	2位:「HS001 医薬品 HOT コードマスター」 37.6% (n=56/149)	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」 82.1% (n=46/56)
	3位:「HS014 臨床検査マスター」 36.9% (n=55/149)	「カルテ情報の検査コードとして使用」 81.8% (n=45/55)
歯科診療所	1位:「HS013 標準歯科病名マスター」 68.4% (n=80/117)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 85.0% (n=68/80)
	2位:「HS033 標準歯式コード仕様」 65.0% (n=76/117)	「カルテ情報における歯式コードとして使用」 88.2% (n=67/76)
	3位:「HS005 標準病名マスター」 44.4% (n=52/117)	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」 76.9% (n=40/52)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装していて活用している」と回答した施設のみを対象とした

② データ形式

	8つの標準規格のうち 「実装して活用している」もの上位3位	主な活用事例
病院	1位:「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」 28.9% (n=72/249)	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」81.9% (n=59/72)
	2位:「HS008 診療情報提供書」 23.3% (n=58/249)	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」 96.6% (n=56/58)
	3位:「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」 22.5% (n=56/249)	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」76.8% (n=43/56)
診療所	1位:「HS008 診療情報提供書」 34.2% (n=51/149)	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」 98.0% (n=50/51)
	2位:「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」 22.1% (n=33/149)	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」90.9% (n=30/33)
	3位:「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」18.1% (n=27/149)	「患者への診療情報開示に使用」 70.4% (n=19/27)
歯科診療所	1位:「HS008 診療情報提供書」 31.6% (n=37/117)	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」 97.3% (n=36/37)
	2位:「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」22.2% (n=26/117)	「患者への診療情報開示に使用」 73.1% (n=19/26)
	3位:「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」 9.4% (n=11/117)	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」81.8% (n=9/11)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設のみを対象とした

③ データ交換

	4つの標準規格のうち 最も「実装して活用している」もの	主な活用事例
病院	「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」37.3% (n=93/249)	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」 65.6% (n=61/93)
診療所	「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」8.1% (n=12/149)	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」 66.7% (n=8/12)
歯科診療所	HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)」7.7% (n=9/117)	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」 66.7% (n=6/9)

※主な活用事例は各厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設のみを対象とした

4. 厚生労働省標準規格の実装・活用状況

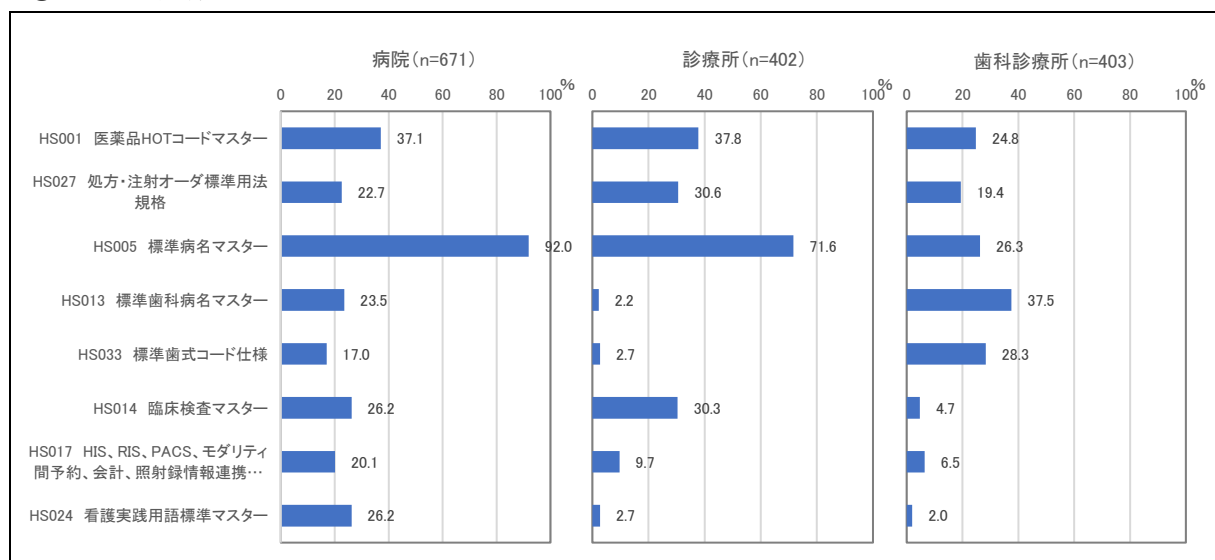
20 種類の各厚生労働省標準規格について、医事会計システム、電子カルテシステム、一体型システムの3つのシステムいずれか1つでも「実装して活用している」と回答した結果を病院、診療所、歯科診療所別に下図に示す。

「コード・用語」に関しては、病院、診療所は「HS005 標準病名マスター」が最も多く、それぞれ92.0% (n=617)、診療所 71.6% (n=288)であった。歯科診療所は「HS013 標準歯科病名マスター」が最も多く37.5% (n=151)であった。その他のコードについてはいずれの施設においても4割未満であった。

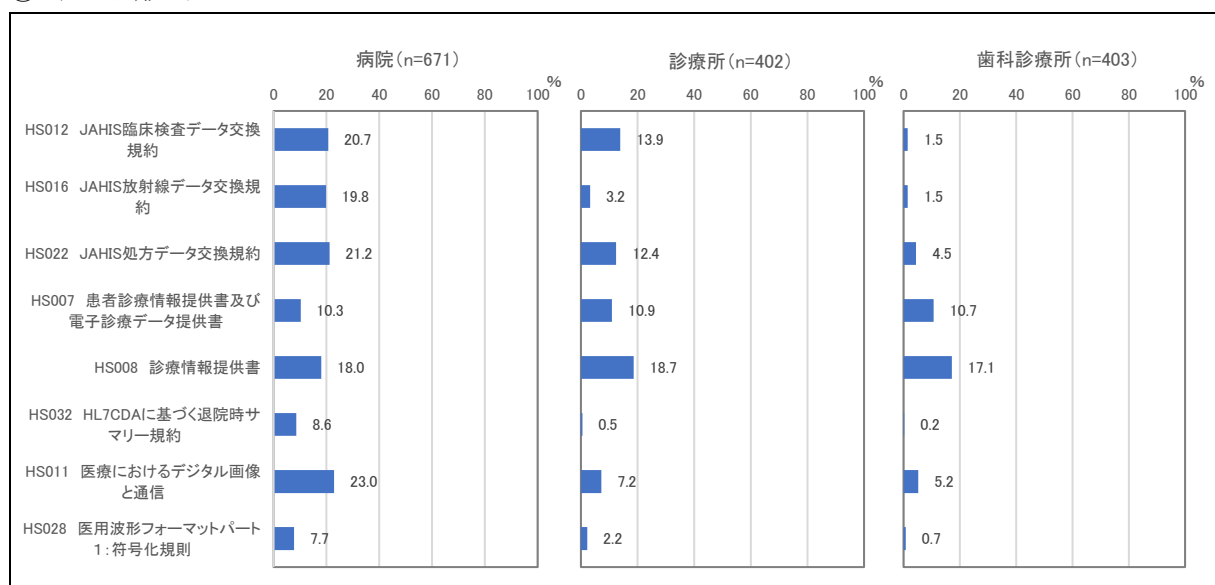
「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も数%から最大でも23%程度であった。

「データ交換」に関しては、病院において「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」が最も多く37.3% (n=250)であったが、その他の標準規格は数%から最大でも15%程度であった。

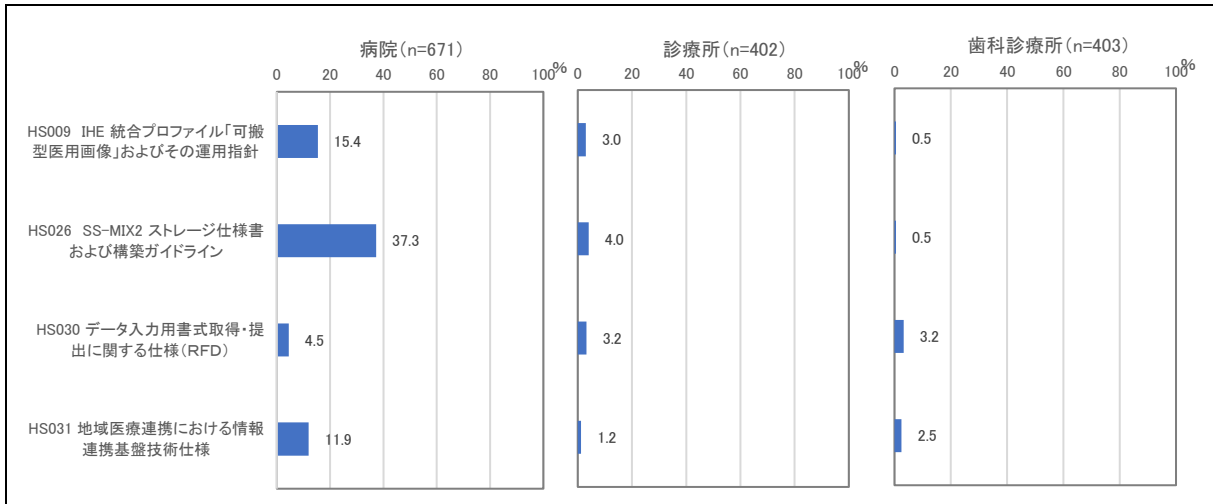
① コード・用語



② データ形式



③ データ交換

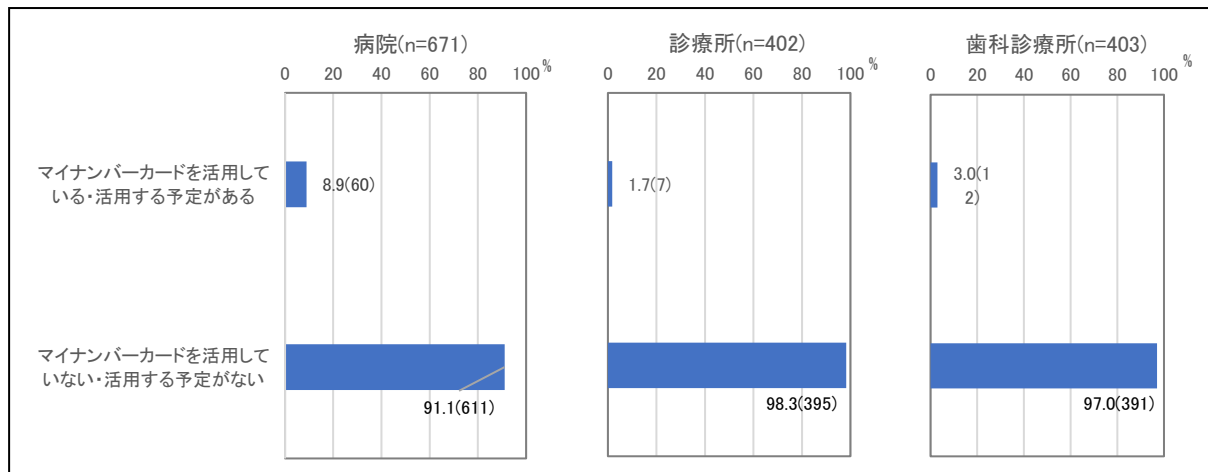


5. マイナンバーカードの活用状況

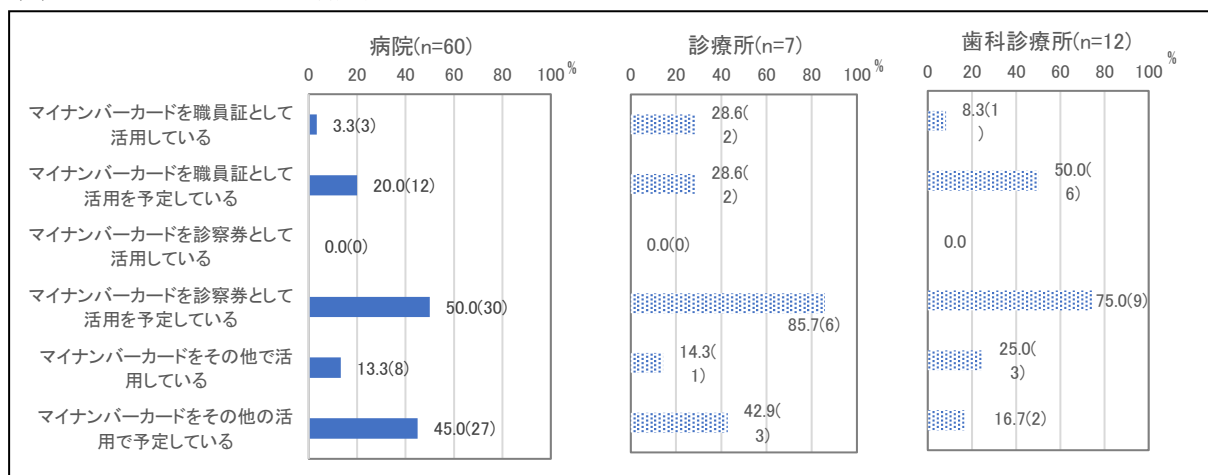
マイナンバーの活用状況は、病院、診療所、歯科診療所ともに、9割以上がマイナンバーカードを活用していない、または活用する予定がないとの回答であった。

「マイナンバーカードを活用している・活用している予定がある」と回答した施設の活用用途としては、「診察券として活用を予定している」との回答が最も多く、病院 50.0% (n=30)、診療所 85.7% (n=6)、歯科診療所 75.0% (n=9)であった。

(1) マイナンバーカードの活用状況



(2) マイナンバーカードの活用用途



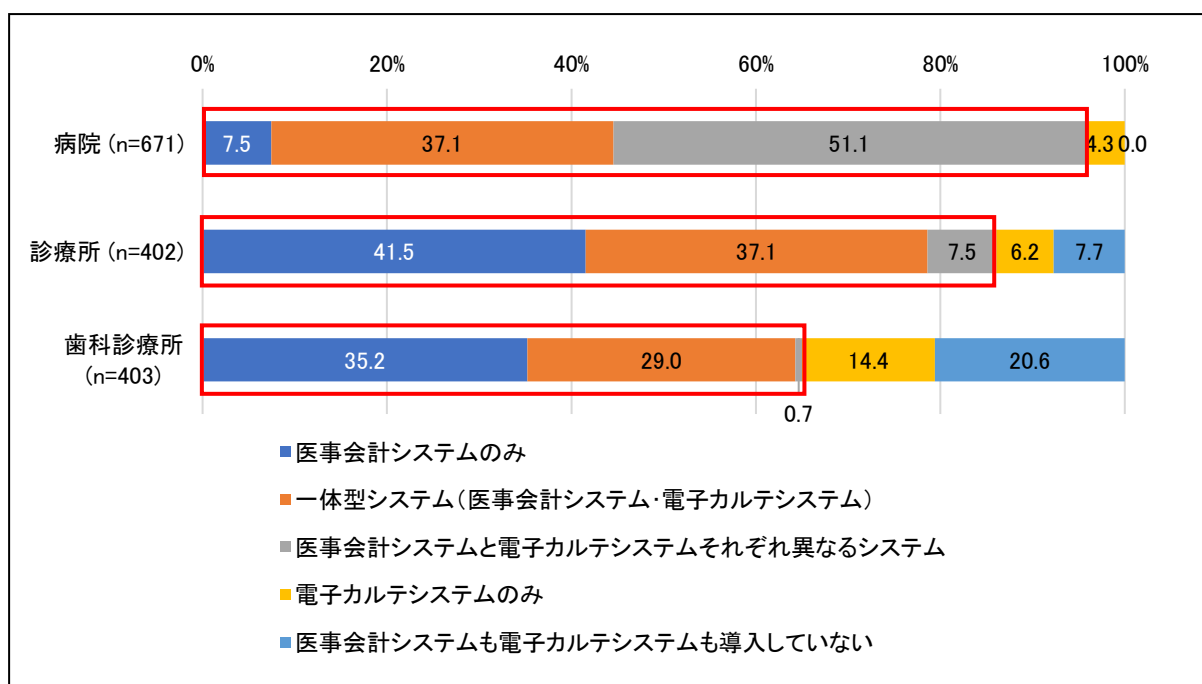
※n=20 未満は網掛け表示、()内は n 数

第3章 調査結果

1. 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装状況

(1) 医事会計システムの導入状況(単数回答)

医事会計システムの導入率は、「医事会計システムのみ」、「一体型システム(医事会計システム・電子カルテシステム)」、「医事会計システムと電子カルテシステムそれぞれ異なるシステム」を合わせると、病院については95.7%(n=671)、診療所86.1%(n=402)、歯科診療所64.9%(n=403)であった。



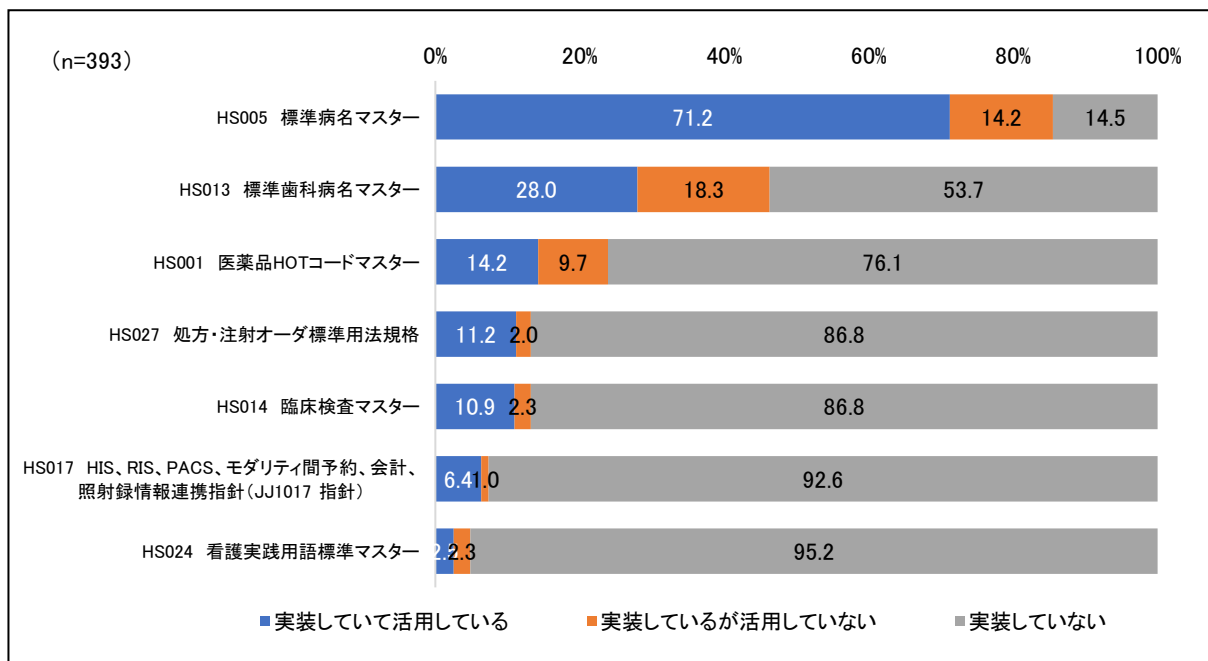
(2) 医事会計システムにおける厚生労働省標準規格の実装状況

< 病院 >

病院における医事会計システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(71.2%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS013 標準歯科病名マスター(28.0%)」、「HS001 医薬品HOTコードマスター(14.2%)」であった。

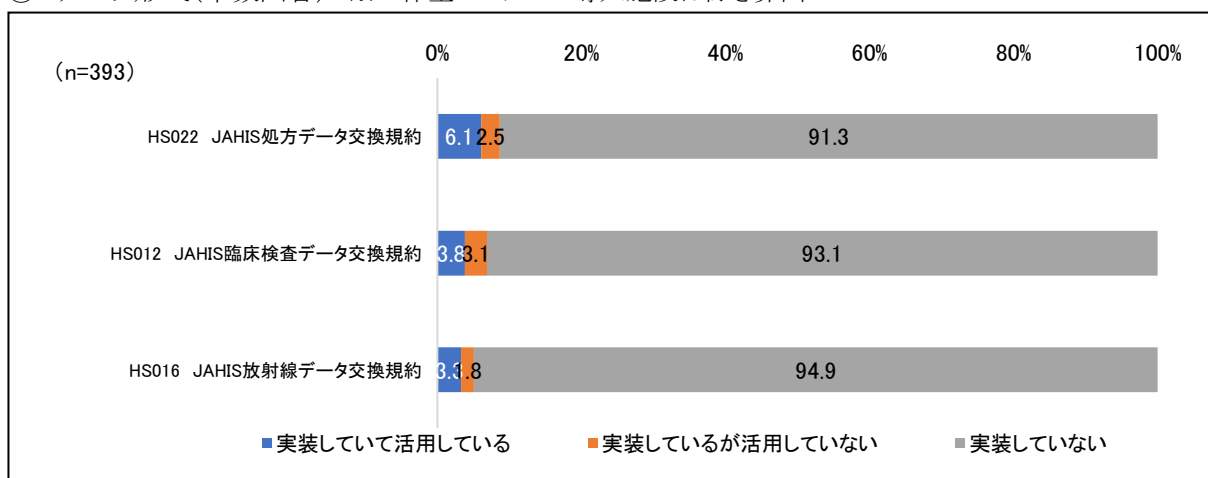
「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も実装して活用されているのは5%前後であった。

① コード・用語(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答) ※一体型システムの導入施設は除き算出



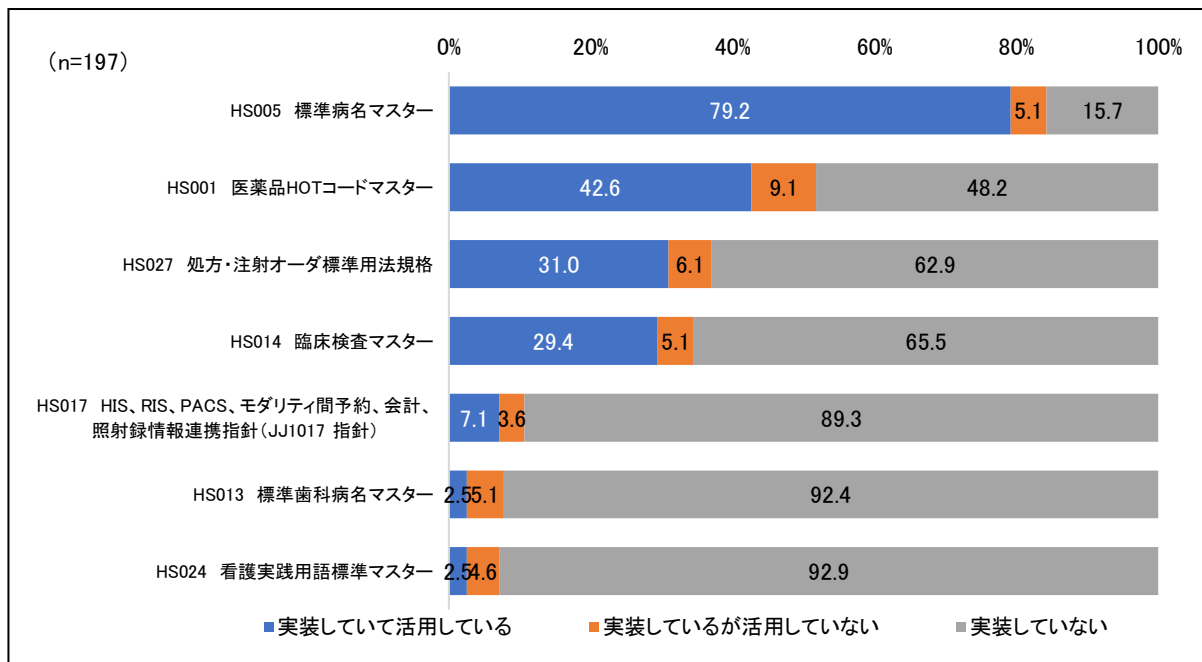
※一体型システムの導入施設は除き算出

<診療所>

診療所における医事会計システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(79.2%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS001 医薬品HOTコードマスター(42.6%)」、「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格(31.0%)」であった。

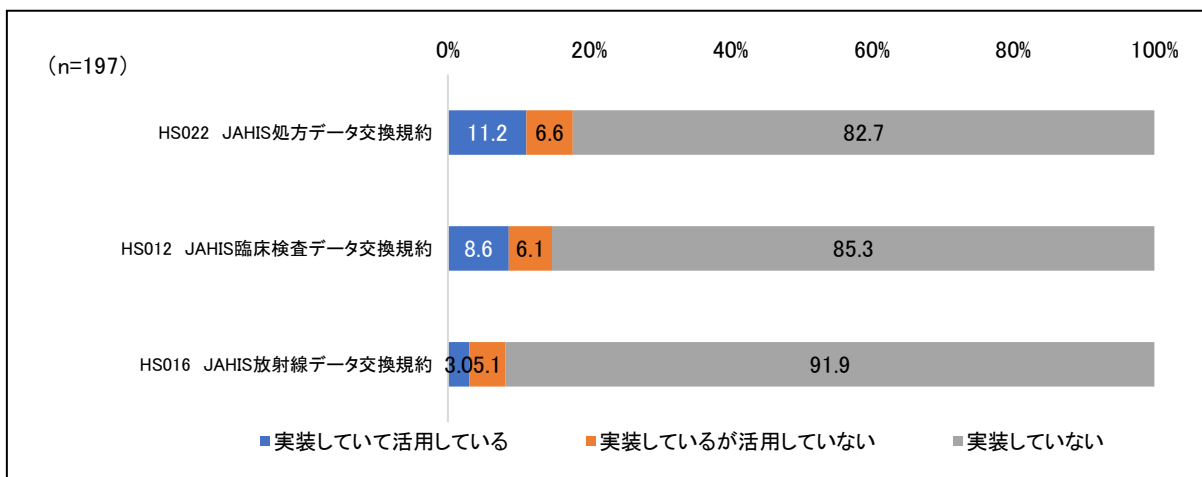
「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も実装して活用されているのは10%前後であった。

① コード・用語(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答)



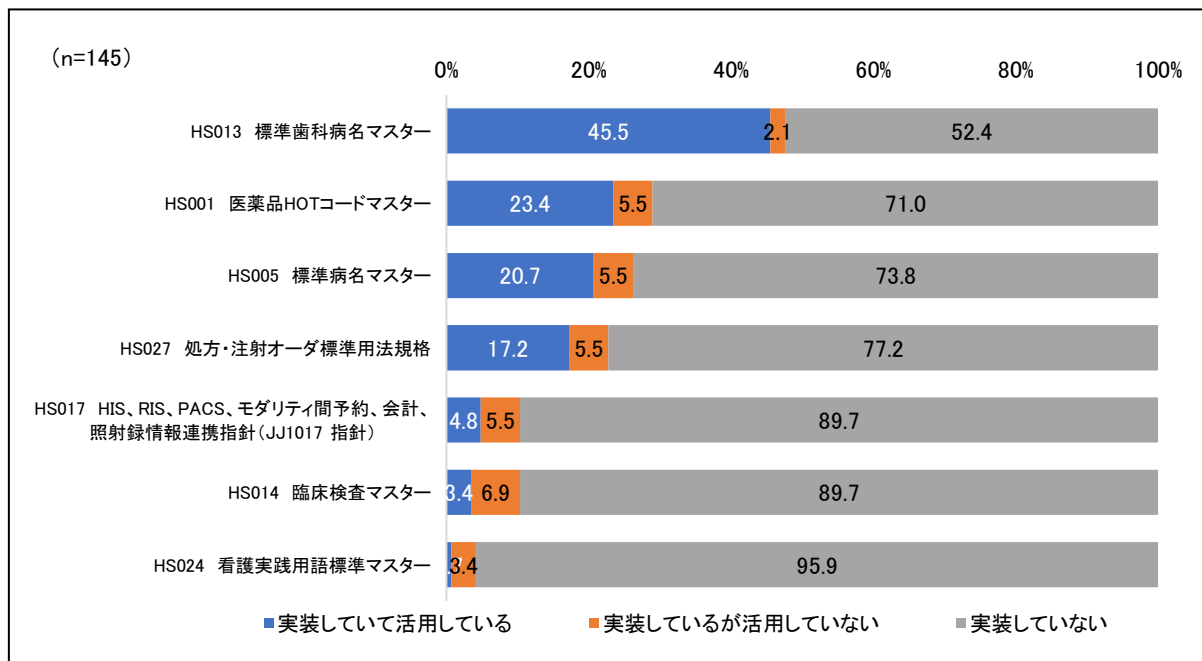
※一体型システムの導入施設は除き算出

< 歯科診療所 >

歯科診療所における医事会計システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS013 標準歯科病名マスター(45.5%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS001 医薬品HOTコードマスター(23.4%)」、「HS005 標準病名マスター(20.7%)」であった。

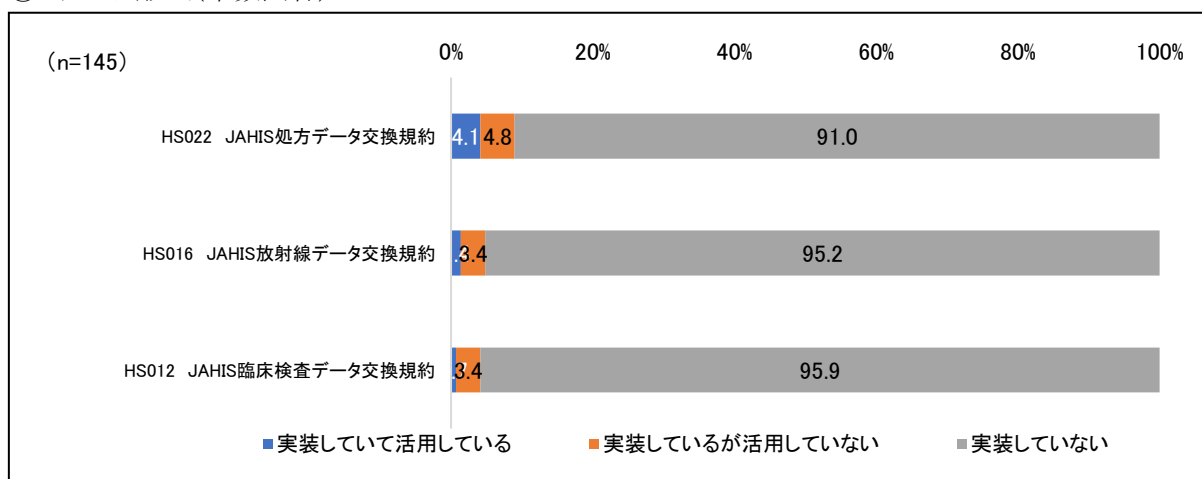
「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も実装して活用しているものは数%程度であった。

① コード・用語(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

(3) 医事会計システムにおける実装している厚生労働省標準規格の活用事例

医事会計システムにおいて厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設を対象に、その主な活用事例について確認した。以下の表は「コード・用語」に関する標準規格ごとの主な活用方法であるが、「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」や「院外処方箋の作成に活用」されるケースが多く見られた。

1) コード・用語(複数回答)

① 医事会計システムにおける「HS001 医薬品 HOT コードマスター」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際の薬剤コード変換に使用」(56 件中 40 件、71.4%)
診療所	「診療報酬請求の際の薬剤コード変換に使用」(84 件中 57 件、67.9%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際の薬剤コード変換に使用」(34 件中 24 件、70.6%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計時の分類に使用(2 件) ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1 件) ・ システムマスターコードとの紐付け(1 件) ・ 薬剤情報システム連携に使用のため(1 件) ・ 一般名処方加算の判定(1 件) ・ 地域医療連携等に使用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

② 医事会計システムにおける「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」の主な活用事例

病院	「院外処方箋の作成に使用」(44 件中 39 件、88.6%)
診療所	「院外処方箋の作成に使用」(61 件中 55 件、90.2%)
歯科診療所	「院外処方箋の作成に使用」(25 件中 23 件、92.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計及びレセプト(1 件) ・ 電子カルテと連携(1 件) ・ 院内処方の作成に使用(1 件) ・ 診療報酬請求(1 件) ・ カルテ情報における用法コードとして使用、薬剤部門システムとの薬剤情報の連携に使用(1 件) ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1 件)
診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内処方(3 件) ・ 適切な処方の確認(1 件)
歯科診療所	・ 院内処方(2 件)

③ 医事会計システムにおける「HS005 標準病名マスター」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(280 件中 250 件、89.3%)
診療所	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(156 件中 139 件、89.1%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(30 件中 26 件、86.7%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計時の分類(3 件) ・ カルテ情報の病名及びコードとして使用(2 件) ・ 病名チェック、統計など(1 件) ・ DPC 様式調査(1 件) ・ コードから ICD-10 への変換機能を有している(5 件)
診療所	・ 病名チェック、統計などに使用(9 件)
歯科診療所	・ なし

④ 医事会計システムにおける「HS013 標準歯科病名マスター」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(110 件中 97 件、88.2%)
診療所	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(5 件中 4 件、80.0%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際の病名コード変換に使用」(66 件中 61 件、92.4%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ カルテ情報の病名及びコードとして使用(2 件) ・ 統計時の分類(1 件) ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ カルテ入力(1 件)

⑤ 医事会計システムにおける「HS014 臨床検査マスター」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求における検査コードの変換に使用」(43 件中 42 件、97.7%)
診療所	「診療報酬請求における検査コードの変換に使用」(58 件中 58 件、100.0%)
歯科診療所	「診療報酬請求における検査コードの変換に使用」(5 件中 4 件、80.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1 件) ・ 表示する診療行為はマスターに準拠(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

⑥ 医事会計システムにおける「HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の作成の際に使用」(25 件中 25 件、100.0%)
診療所	「診療報酬請求の作成の際に使用」(14 件中 13 件、92.9%)
歯科診療所	「診療報酬請求の作成の際に使用」(7 件中 7 件、100.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1 件) ・ 電子カルテと放射線部門システムの連携コードとして使用(1 件)
診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計で使用(1 件)
歯科診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし

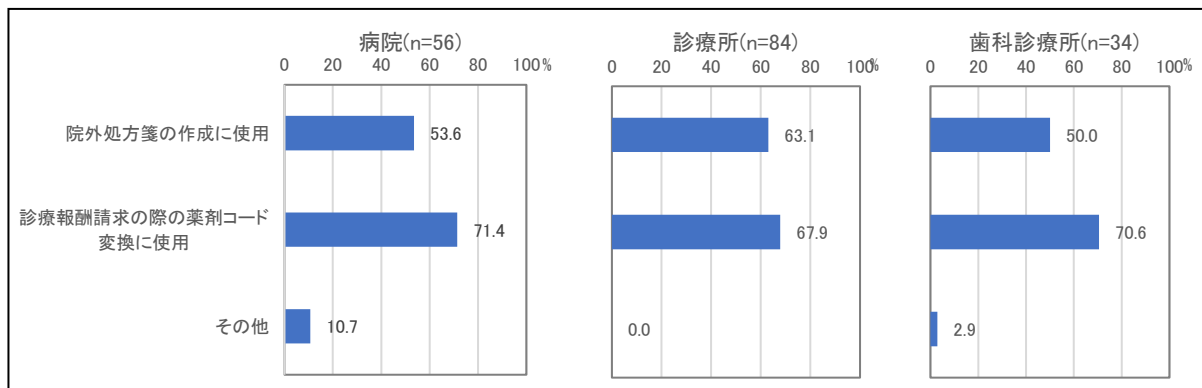
⑦ 医事会計システムにおける「HS024 看護実践用語標準マスター」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際に使用」(10 件中 10 件、100.0%)
診療所	「診療報酬請求の際に使用」(5 件中 4 件、80.0%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際に使用」(1 件中 1 件、100.0%)

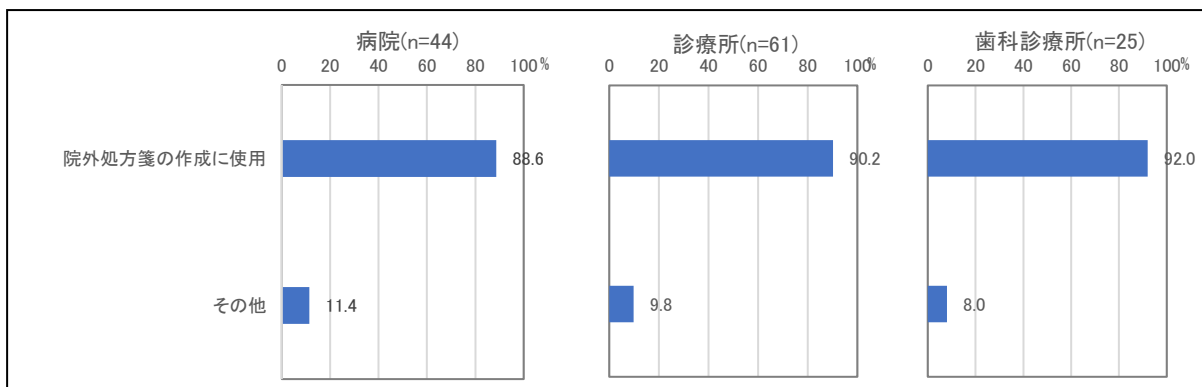
(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護記録で使用(1 件) ・ 看護計画で使用(1 件)
診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし
歯科診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし

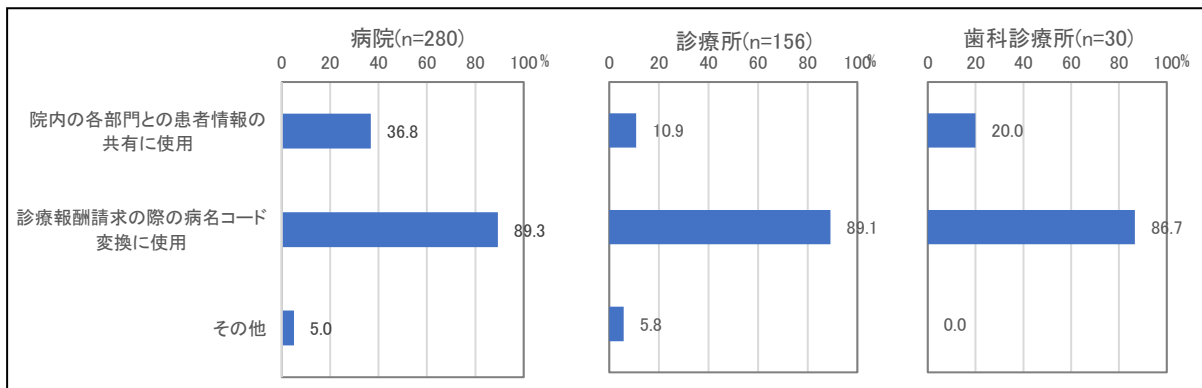
① HS001 医薬品 HOT コードマスター



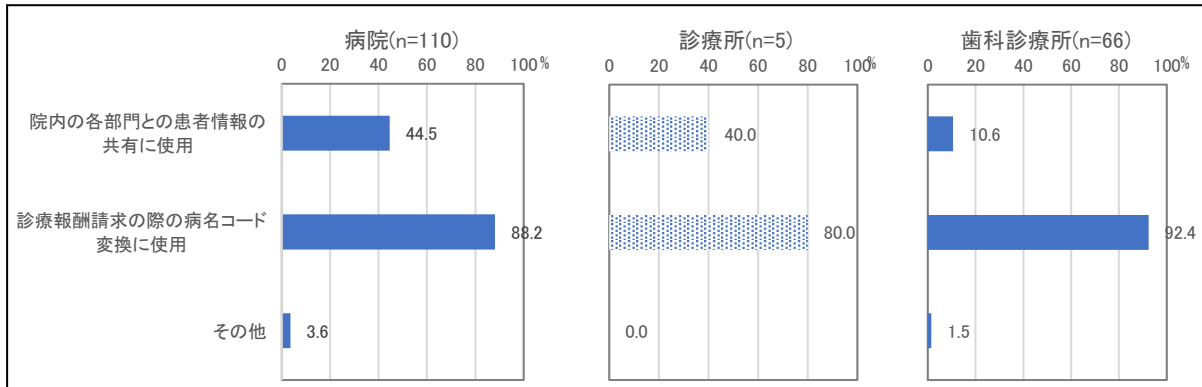
② HS027 処方・注射オーダ標準用法規格



③ HS005 標準病名マスター

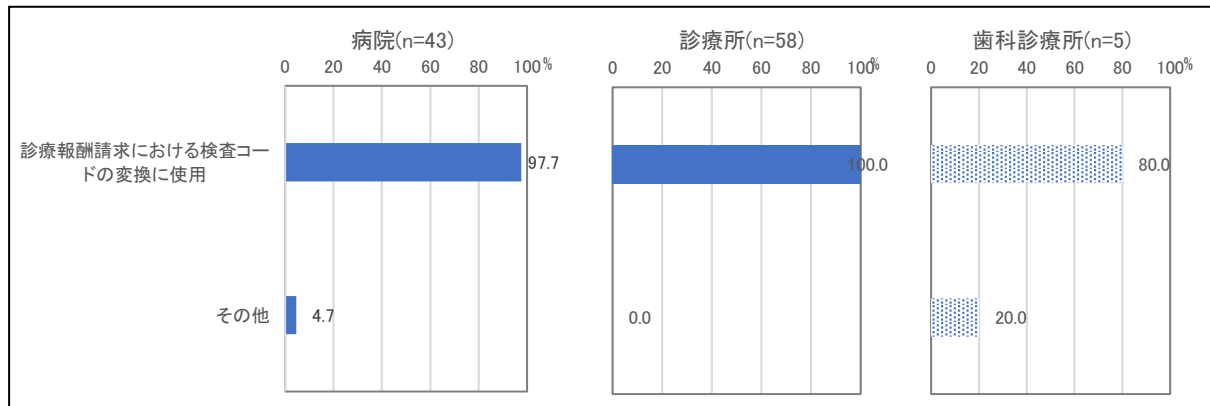


④ HS013 標準歯科病名マスター

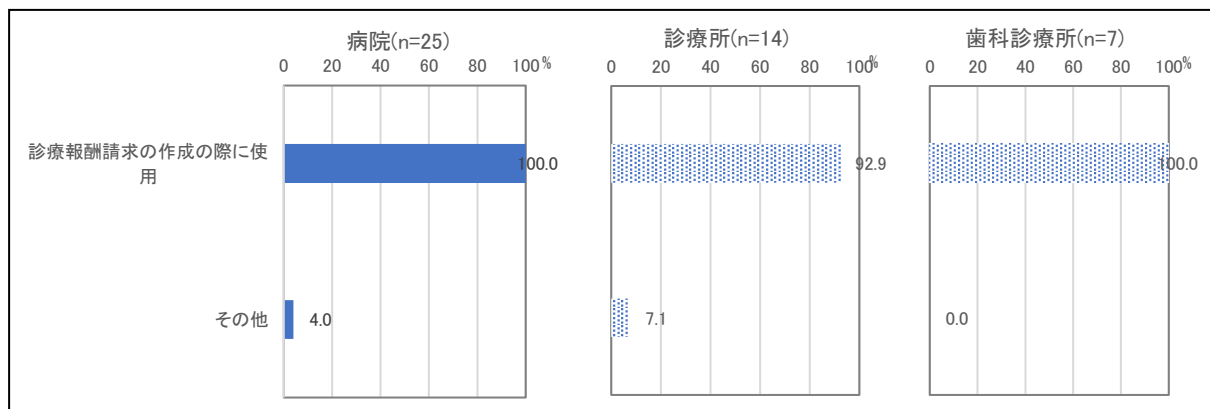


※ n=20 未満は網掛け表示

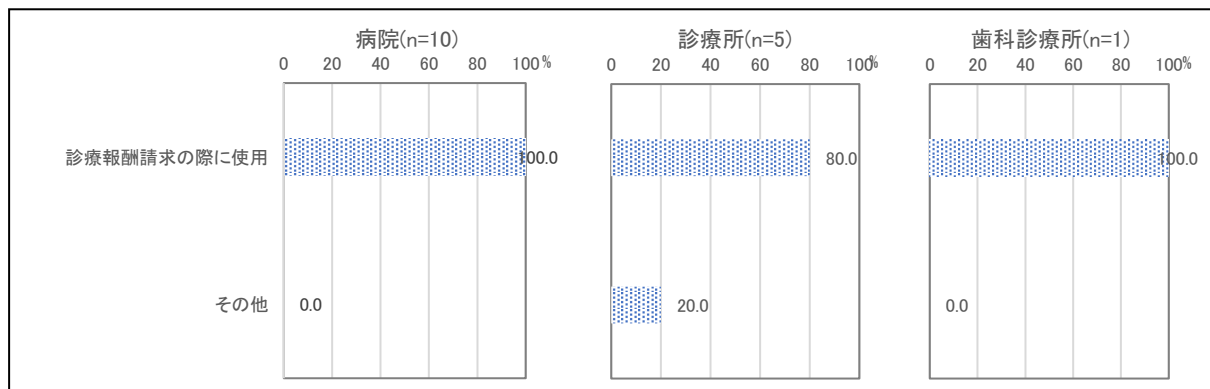
⑤ HS014 臨床検査マスター



⑥ HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針 (JJ1017 指針)



⑦ HS024 看護実践用語標準マスター



※ n=20 未満は網掛け表示

2) データ形式(複数回答)

医事会計システムにおける「データ形式」に関する各標準規格の主な活用方法は、「診療報酬請求の際に使用」や「院外処方箋の作成に使用」との回答であった。

① 医事会計システムにおける「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際に使用」(15件中15件、100.0%)
診療所	「診療報酬請求の際に使用」(17件中17件、100.0%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際に使用」(1件中1件、100.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1件) ・ 地域医療連携等他外部への診療情報の提供に使用(1件) ・ 地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

② 医事会計システムにおける「HS016 JAHIS 放射線データ交換規約」の主な活用事例

病院	「診療報酬請求の際に使用」(13件中13件、100.0%)
診療所	「診療報酬請求の際に使用」(6件中6件、100.0%)
歯科診療所	「診療報酬請求の際に使用」(2件中2件、100.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1件) ・ 地域医療連携等他外部への診療情報の提供に使用(1件) ・ 地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

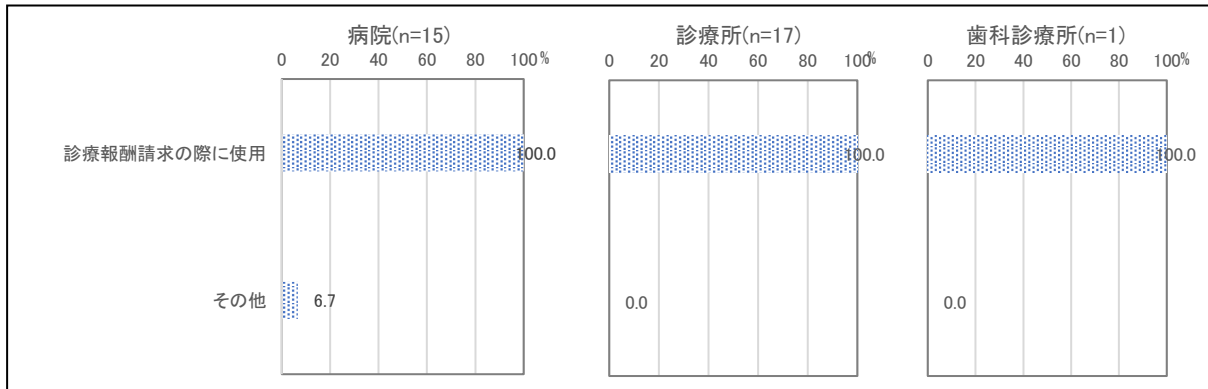
③ 医事会計システムにおける「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」の主な活用事例

病院	「院外処方箋の作成に使用」(24件中20件、83.3%)
診療所	「院外処方箋の作成に使用」(22件中20件、90.9%)
歯科診療所	「院外処方箋の作成に使用」(6件中6件、100.0%)

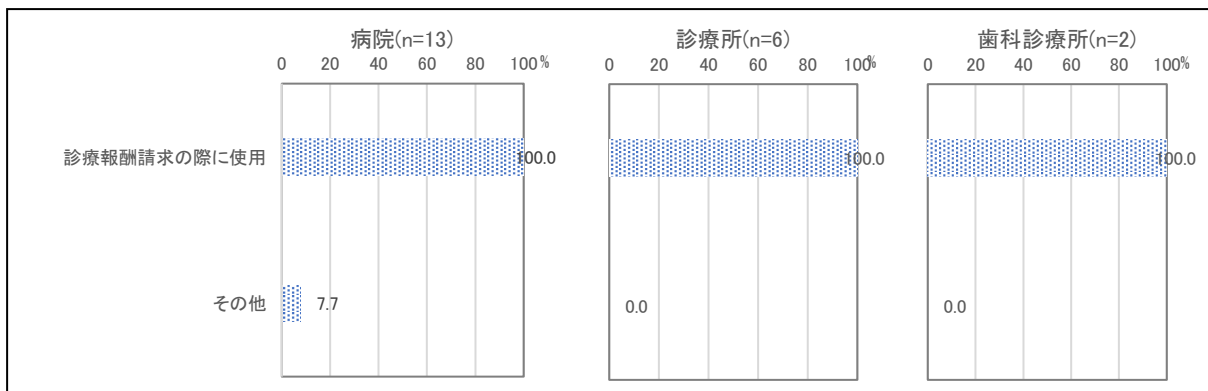
(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院外処方箋の作成に使用(3件) ・ 地域医療連携等に使用(3件) ・ 診療情報システム(オーダーリングシステム)との連携に使用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

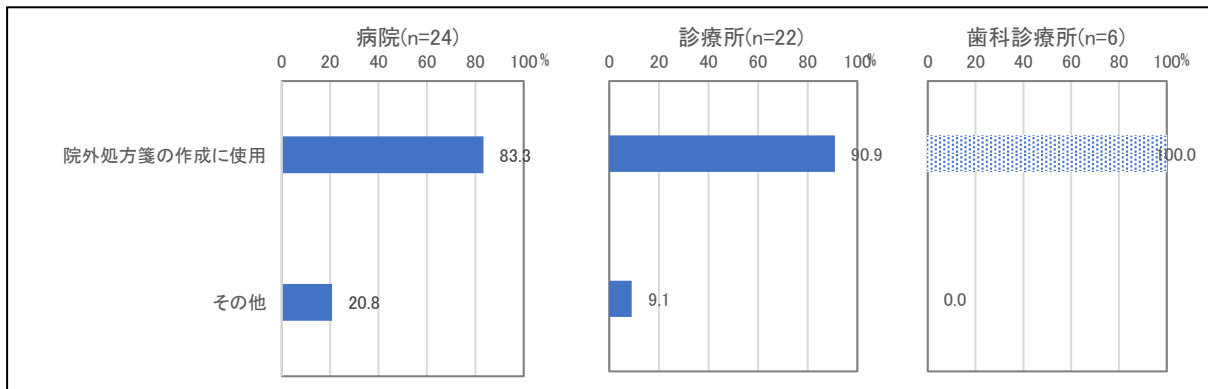
① HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約



② HS016 JAHIS 放射線データ交換規約



③ HS022 JAHIS 処方データ交換規約



※ n=20 未満は網掛け表示

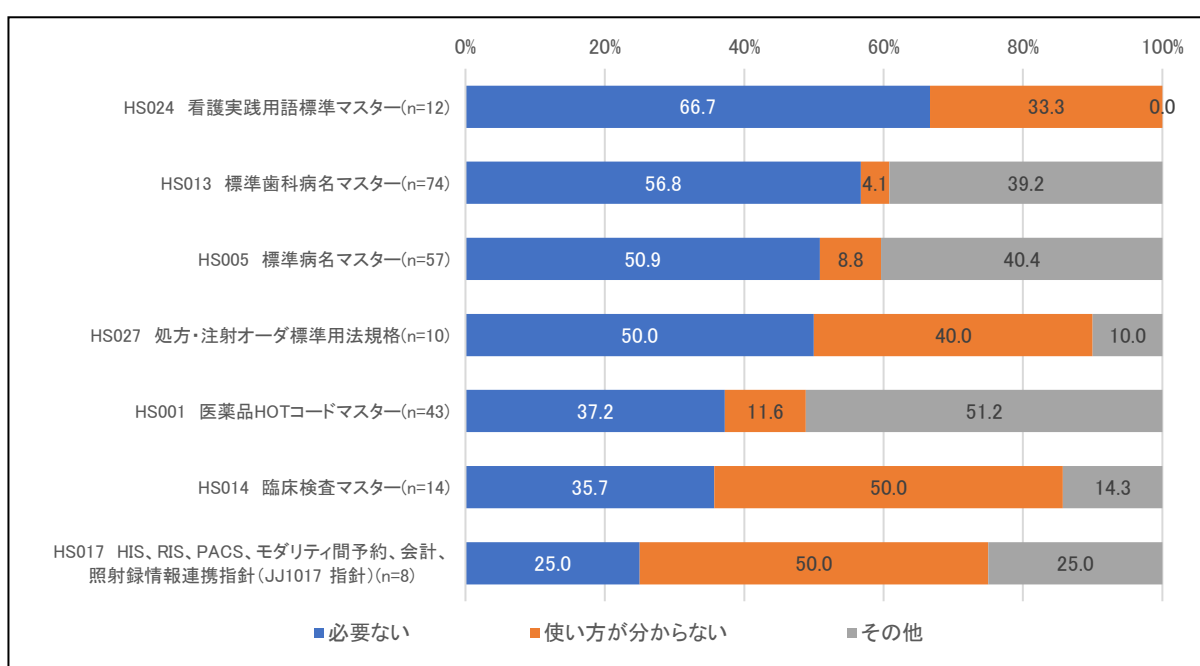
(4) 医事会計システムにおける実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由

< 病院 >

医事会計システムについて厚生労働省標準規格を「実装しているが活用していない」と回答した病院にその理由を確認した。その結果、「コード・用語」に関しては、「HS024 看護実践用語標準マスター」、「HS013 標準歯科病名マスター」、「HS005 標準病名マスター」、「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」は半数以上が「必要ない」という回答であった。「HS014 臨床検査マスター」と「HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)」については「使い方が分からない」が半数を超えた。

「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も約半数が「必要ない」との回答であった。

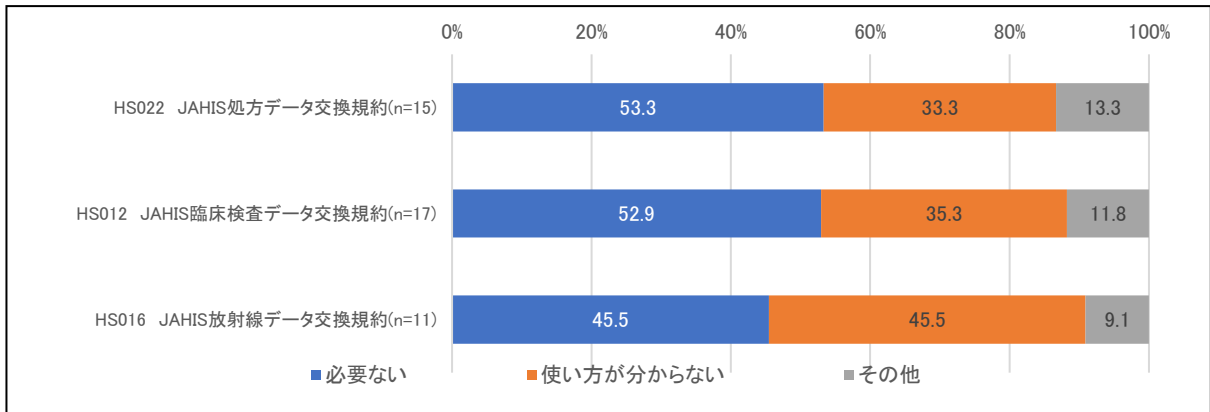
① コード・用語(単数回答)



(その他の回答)

HS024 看護実践用語標準マスター	・ カルテ側の対応が不十分なため(1件)
HS013 標準歯科病名マスター	・ 支払基金レセプト請求用傷病名マスターを使用している(12件) ・ 歯科診療をしていないため(5件) ・ 当該コードを使用するシステム運用を行っていない為(5件)
HS005 標準病名マスター	・ 支払基金レセプト請求用傷病名マスターを使用している(13件) ・ 当該コードを使用するシステム運用を行っていない(5件) ・ 過去病名が多数あり過ぎて変換が困難(1件) ・ 現時点で使用用途が決定していない(1件)
HS027 処方・注射オーダ標準用法規格	・ 薬剤が少ないため(1件)
HS001 医薬品 HOT コードマスター	・ 当該コードを使用するシステム運用を行っていないため(20件)
HS014 臨床検査マスター	・ 健康診断では使うが検査科では必要とされないため(1件)
HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)	・ マスター整備中のため(1件) ・ 実務実体にマスターが追いついていないため(1件)

② データ形式(単数回答)



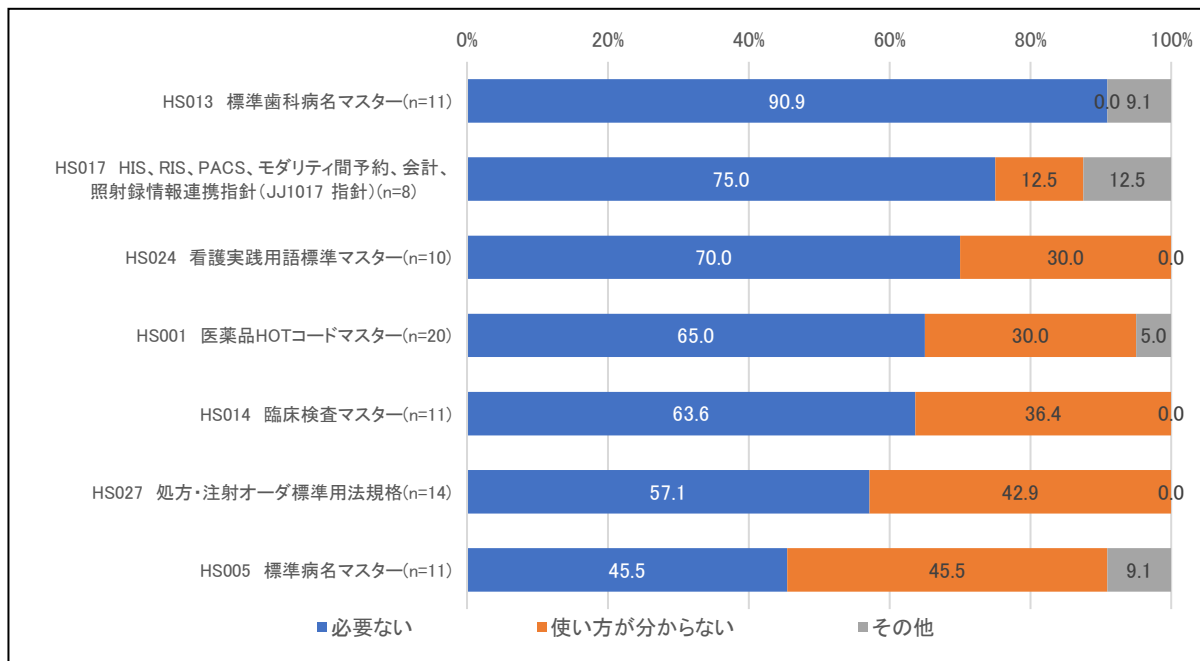
(その他の回答)なし

<診療所>

診療所においては「コード・用語」に関しては「HS005 標準病名マスター」以外は「必要ない」が半数以上であった。「HS005 標準病名マスター」については45.5%が「使い方が分からない」と回答した。

「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も8割以上が「必要ない」と回答した。

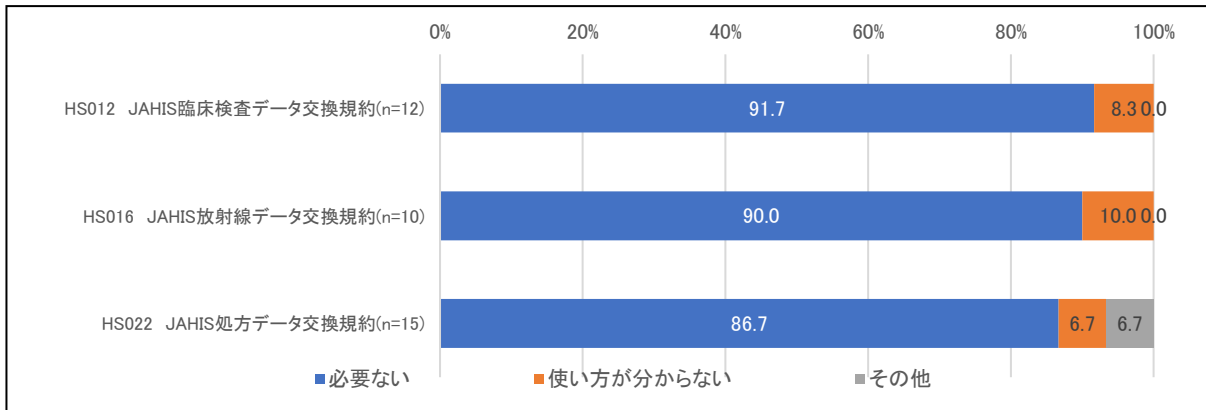
① コード・用語(単数回答)



(その他の回答)

HS005 標準病名マスター	・ 支払基金レセプト請求用標準病名マスターの病名コードを使用しているため(1件)
HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)	・ 部門システムがないため(1件)
HS024 看護実践用語標準マスター	・ なし
HS001 医薬品 HOT コードマスター	・ 医事コードを使用するシステムの運用をしていないため(1件)
HS014 臨床検査マスター	・ なし
HS027 処方・注射オーダ標準用法規格	・ なし
HS013 標準歯科病名マスター	・ 支払基金レセプト請求用標準病名マスターの病名コードを使用しているため(1件)

② データ形式(単数回答)



(その他の回答)

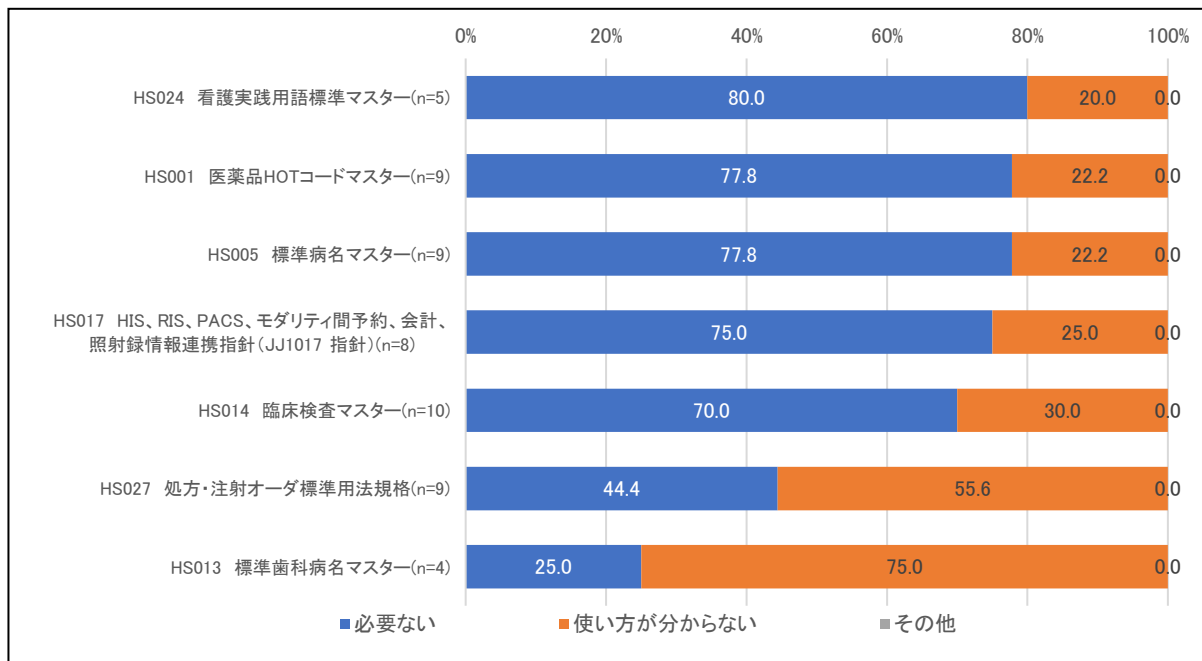
HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約	・ なし
HS016 JAHIS 放射線データ交換規約	・ なし
HS022 JAHIS 処方データ交換規約	・ 門前薬局が採用していないため(1件)

< 歯科診療所 >

歯科診療所においては、「コード・用語」に関しては、「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」および「HS013 標準歯科病名マスター」以外は「必要ない」が6割を超えた。

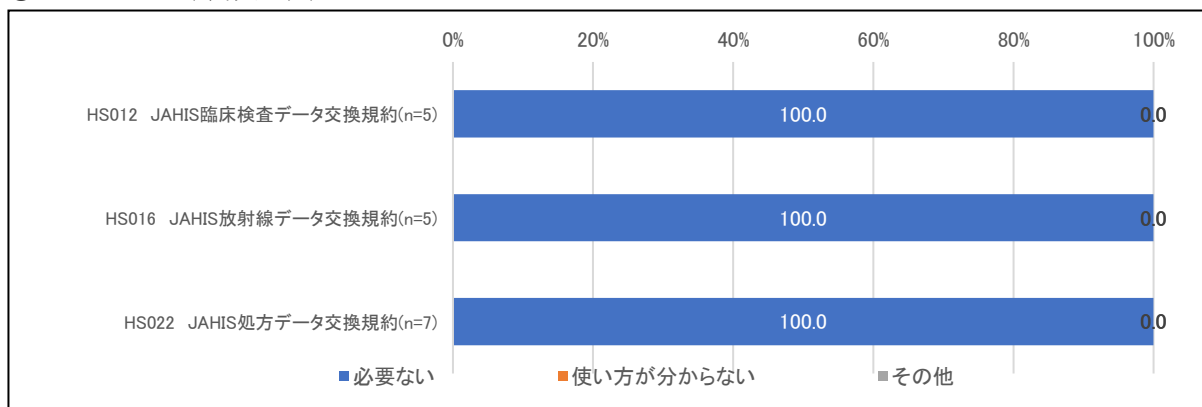
「データ形式」に関しては、いずれの標準規格も回答者全員が「必要ない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)



(その他の回答)なし

② データ形式(単数回答)

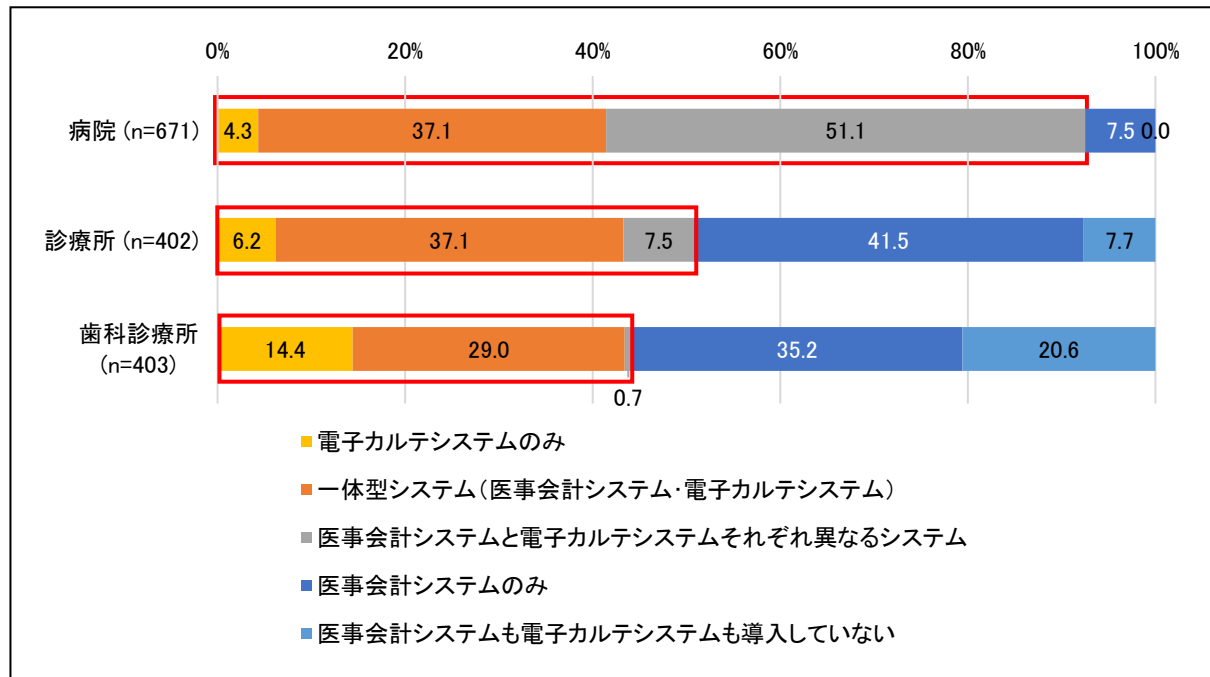


(その他の回答)なし

2. 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装状況

(1) 電子カルテシステムの導入状況(単数回答)

電子カルテシステムの導入率は、「電子カルテシステムのみ」、「一体型システム(医事会計システム・電子カルテシステム)」、「医事会計システムと電子カルテシステムそれぞれ異なるシステム」を合わせると、病院については92.5%(n=671)、診療所50.8%(n=402)、歯科診療所44.1%(n=403)であった。



(2) 電子カルテシステムにおける厚生労働省標準規格の実装状況

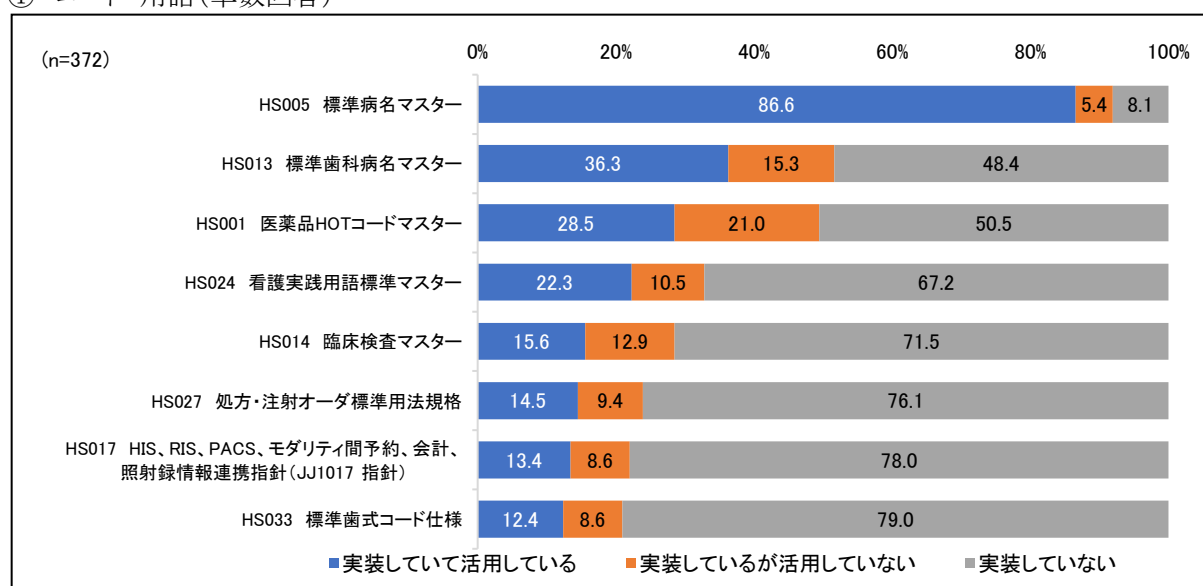
< 病院 >

病院における電子カルテシステムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(86.6%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS013 標準歯科病名マスター(36.3%)」、「HS001 医薬品HOTコードマスター(28.5%)」であった。

「データ形式」に関しては、「HS011 医療におけるデジタル画像と通信(20.4%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS022 JAHIS 処方データ交換規約(18.5%)」、「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約(18.0%)」であった。

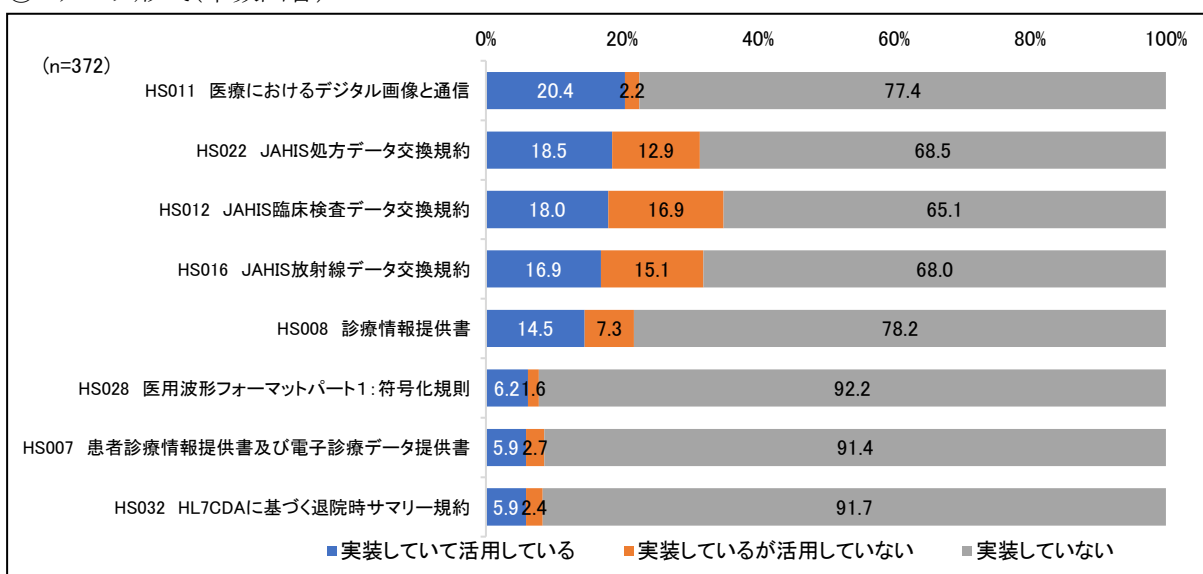
「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン(40.9%)」であった。

① コード・用語(単数回答)



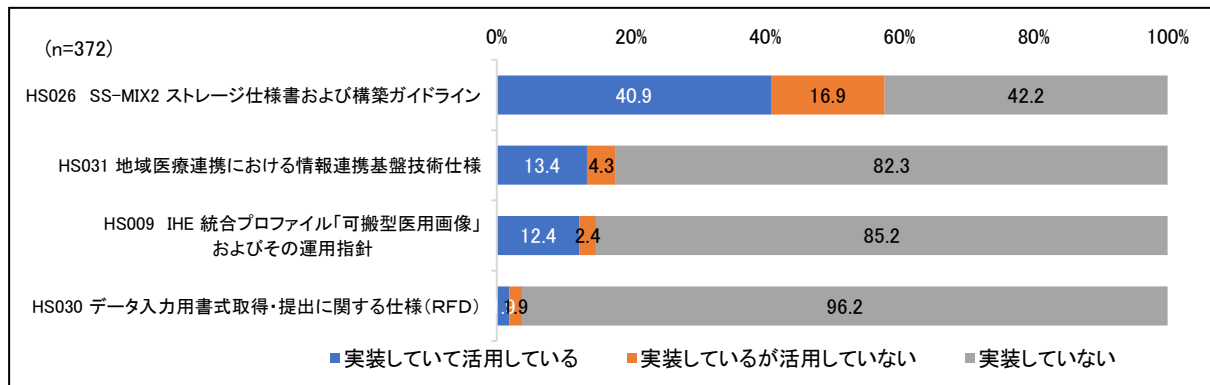
※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

③ データ交換(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

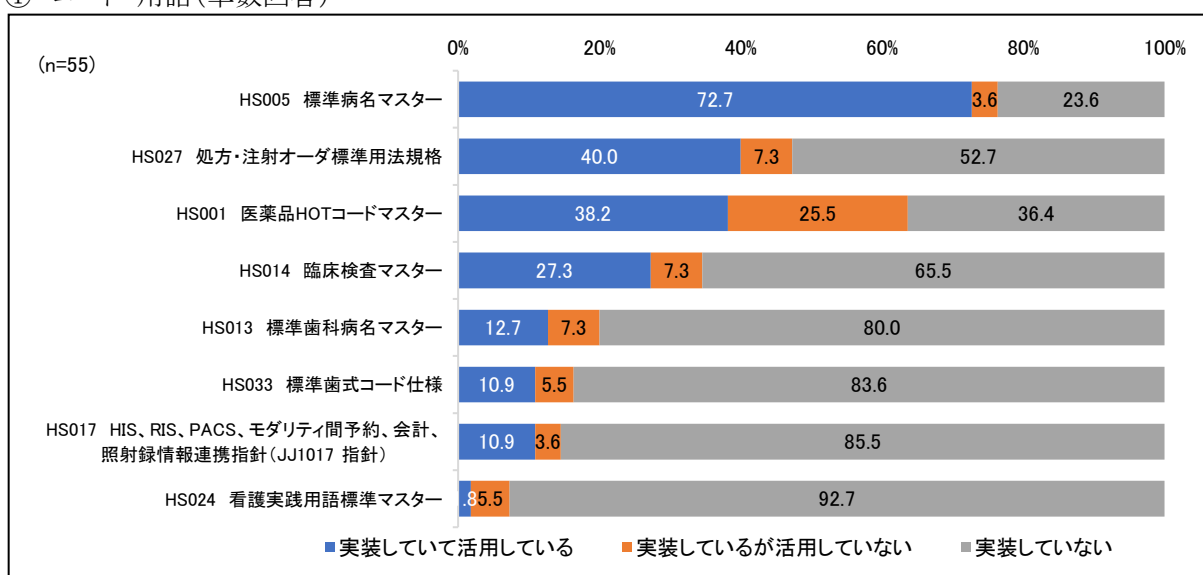
<診療所>

診療所における電子カルテシステムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(72.7%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格(40.0%)」、「HS001 医薬品 HOT コードマスター(38.2%)」であった。

「データ形式」に関しては、「HS008 診療情報提供書(40.0%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(29.1%)」、「HS011 医療におけるデジタル画像と通信(18.2%)」であった。

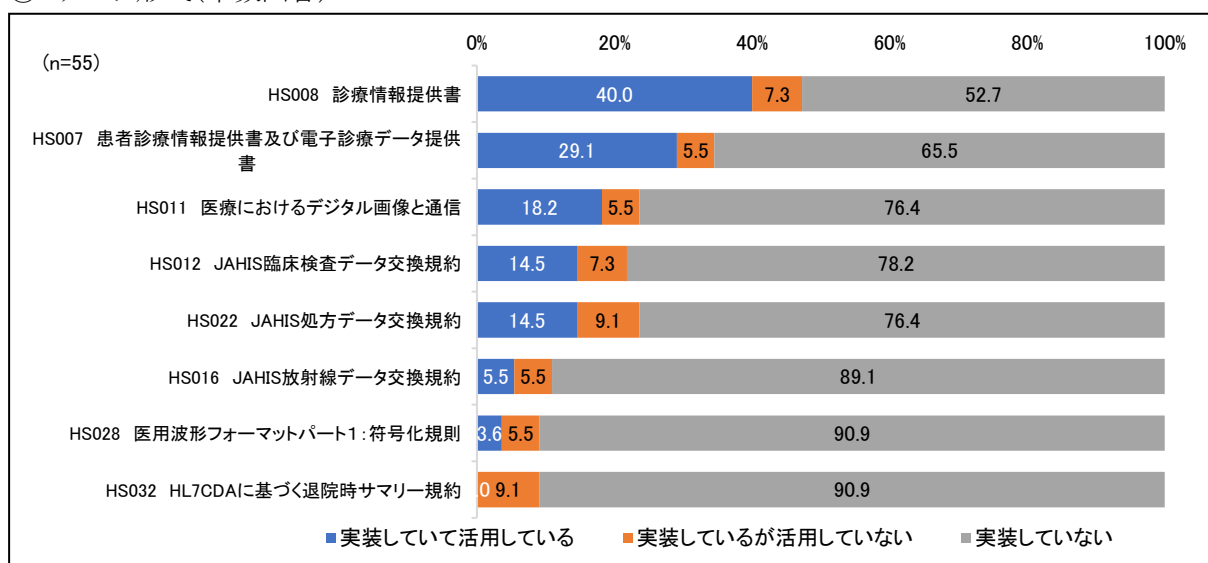
「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」と「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)」がそれぞれ7.3%であった。

① コード・用語(単数回答)



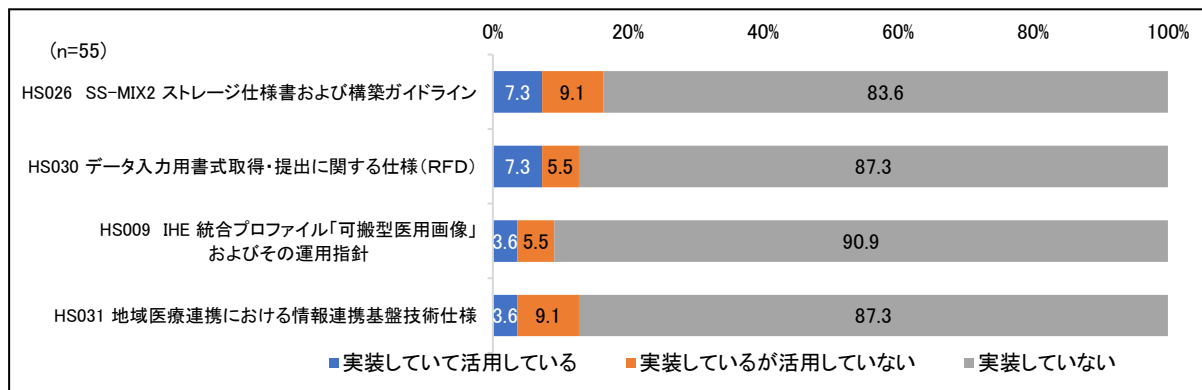
※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

③ データ交換(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

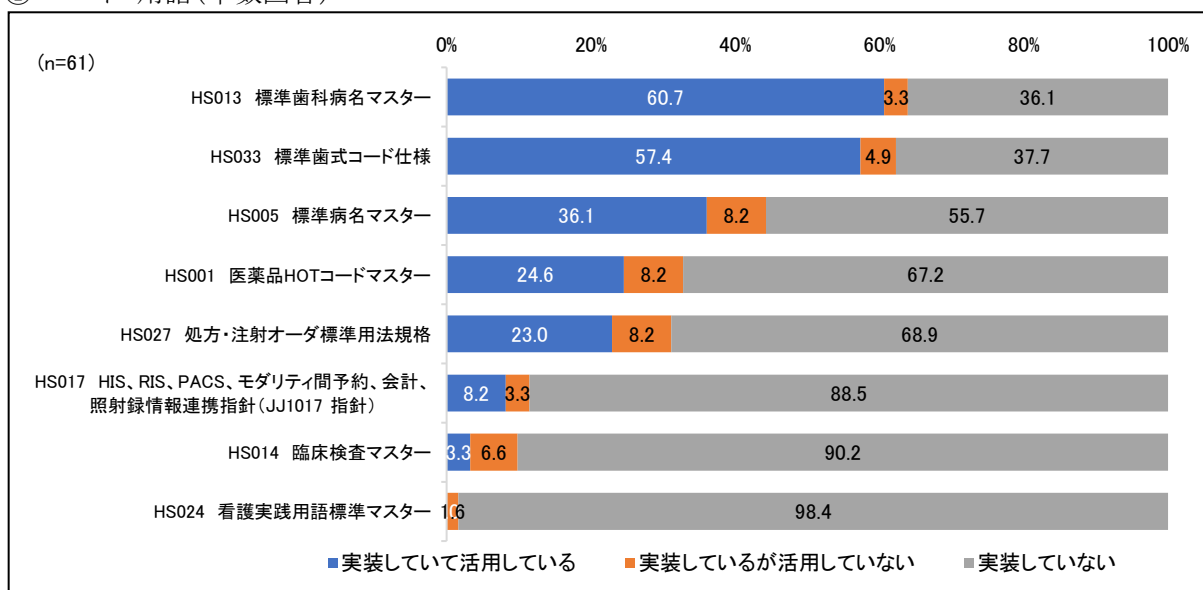
< 歯科診療所 >

歯科診療所における電子カルテシステムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS013 標準歯科病名マスター(60.7%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS033 標準歯式コード仕様(57.4%)」、「HS005 標準病名マスター(36.1%)」であった。

「データ形式」に関しては、「HS008 診療情報提供書(49.2%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(26.2%)」、「HS011 医療におけるデジタル画像と通信(14.8%)」であった。

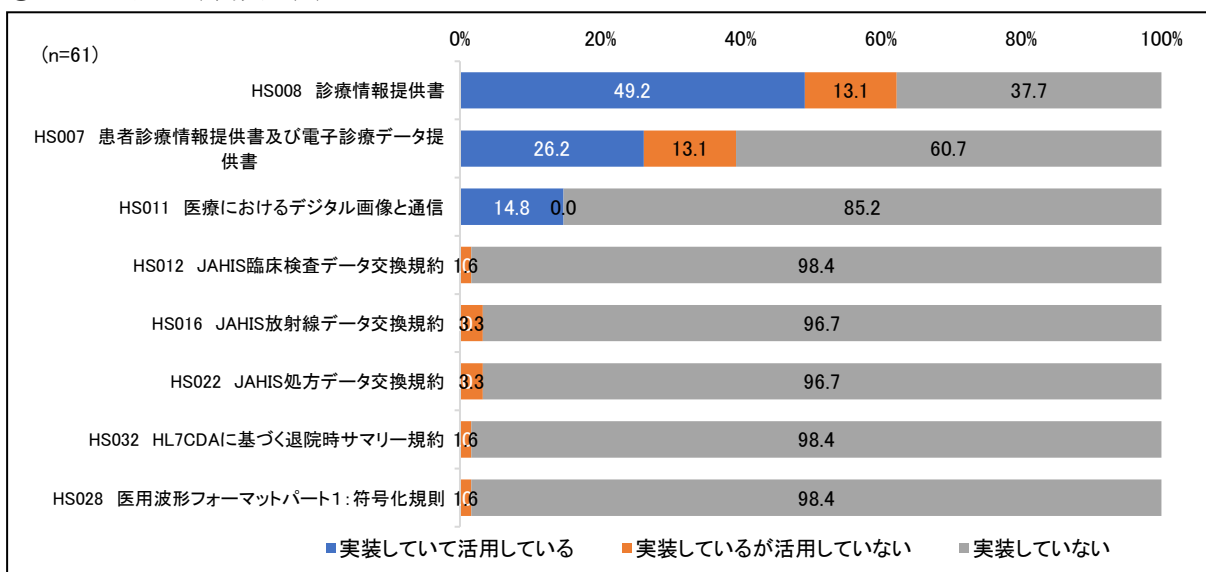
「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)(4.9%)」であった。

① コード・用語(単数回答)



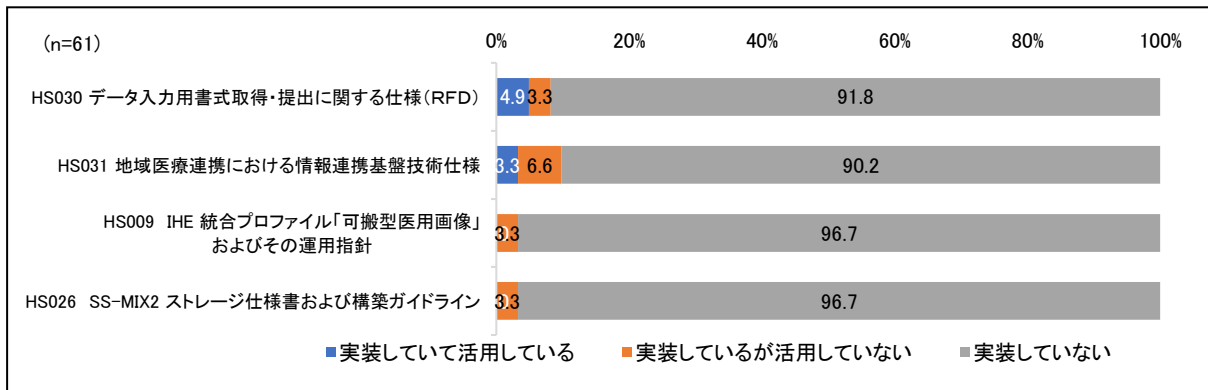
※一体型システムの導入施設は除き算出

② データ形式(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

③ データ交換(単数回答)



※一体型システムの導入施設は除き算出

(3) 電子カルテシステムにおける実装している厚生労働省標準規格の活用事例

電子カルテシステムにおいて厚生労働省標準規格を「実装していて活用している」と回答した施設を対象に、その主な活用事例について確認した。以下の表は「コード・用語」に関する標準規格ごとの主な活用方法であるが、カルテ情報における薬剤コードや、用法コード、病名コード、歯式コード、検査コードとして使用されているケースが大半であった。

1) コード・用語(複数回答)

① 電子カルテシステムにおける「HS001 医薬品 HOT コードマスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(106 件中 58 件、54.7%)
診療所	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(21 件中 17 件、81.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(15 件中 14 件、93.3%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビッグデータとして収集(3 件) ・ 薬剤のチェック機能に使用(2 件) ・ 持参薬の医事連携に使用(1 件) ・ 医事会計システムとの連携(1 件) ・ 薬価基準収載医薬品コード(YJ コード)取得(1 件) ・ 物流システムのコードとして使用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

② 電子カルテシステムにおける「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における用法コードとして使用」(54 件中 33 件、61.1%)
診療所	「カルテ情報における用法コードとして使用」(22 件中 17 件、77.3%)
歯科診療所	「カルテ情報における用法コードとして使用」(14 件中 11 件、78.6%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビッグデータとして収集(1 件) ・ 国立大学遠隔バックアップ(1 件) ・ 用法作成時の参考として活用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

③ 電子カルテシステムにおける「HS005 標準病名マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(322 件中 292 件、90.7%)
診療所	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(40 件中 34 件、85.0%)
歯科診療所	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(22 件中 18 件、81.8%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医事連携に活用(2 件) ・ DPC 分析に活用(1 件) ・ 診療情報の遠隔バックアップとして活用(1 件)
----	---

診療所	・ 病名チェック統計など(1件)
歯科診療所	・ なし

④ 電子カルテシステムにおける「HS013 標準歯科病名マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(135件中122件、90.4%)
診療所	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(7件中6件、85.7%)
歯科診療所	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(37件中34件、91.9%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医事連携に活用(1件) ・ DPC分析に活用(1件) ・ 診療情報の遠隔バックアップとして活用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

⑤ 電子カルテシステムにおける「HS033 標準歯式コード仕様」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(46件中41件、89.1%)
診療所	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(6件中5件、83.3%)
歯科診療所	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(35件中34件、97.1%)

(その他の回答)

病院	・ 診療情報の遠隔バックアップとして活用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ 診療報酬請求に使用(1件)

⑥ 電子カルテシステムにおける「HS014 臨床検査マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報の検査コードとして使用」(58件中38件、65.5%)
診療所	「カルテ情報の検査コードとして使用」(15件中11件、73.3%)
歯科診療所	「カルテ情報の検査コードとして使用」(2件中2件、100.0%)

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビッグデータとして収集(3件) ・ 国立大学遠隔バックアップ(1件)
診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査結果表示の分析コード別分類(1件) ・ 検査結果表示の並び順制御(1件)
歯科診療所	・ なし

⑦ 電子カルテシステムにおける「HS017 HIS,RIS,PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携指針」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(50 件中 29 件、58.0%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(6 件中 5 件、83.3%)
歯科診療所	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(5 件中 4 件、80.0%)

(その他の回答)

病院	・ 電子カルテシステムとの連携コードとして使用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

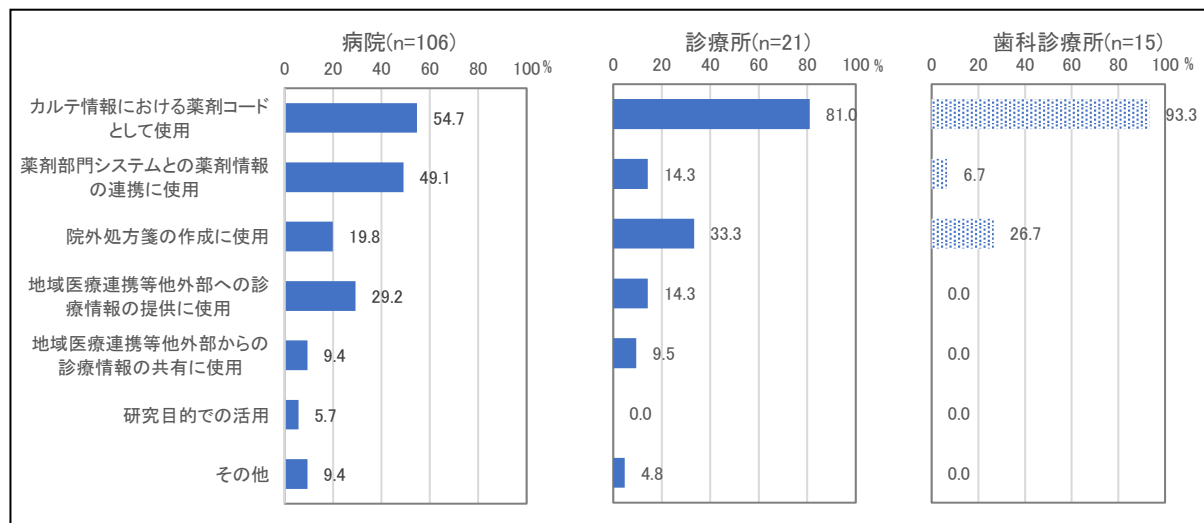
⑧ 電子カルテシステムにおける「HS024 看護実践用語標準マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報の看護関連用語として使用」(83 件中 82 件、98.8%)
診療所	「カルテ情報の看護関連用語として使用」(1 件中 1 件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

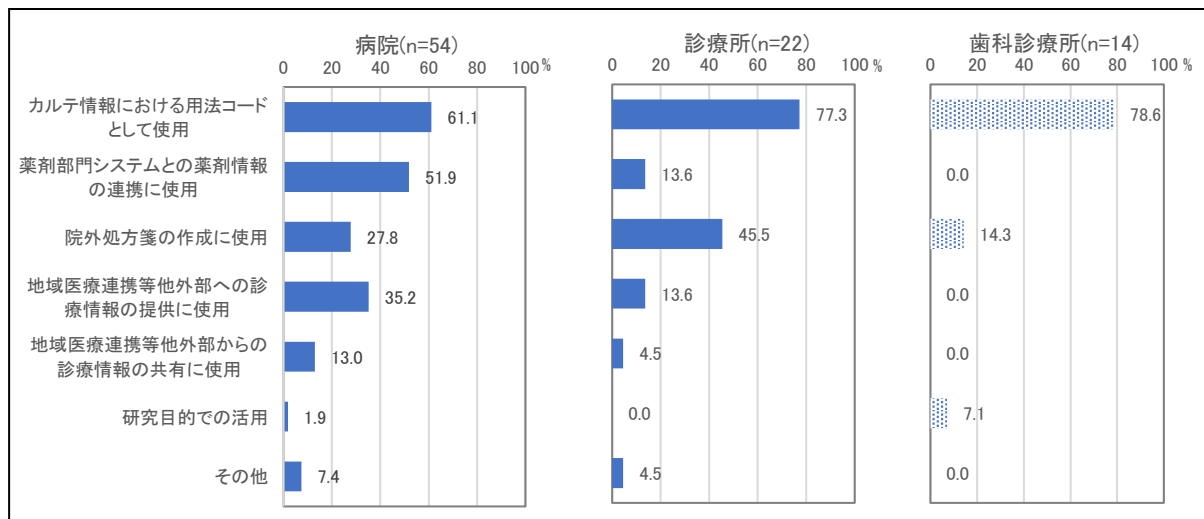
(その他の回答)

病院	・ 部門システムとの連携(1 件) ・ 電子カルテ上に実装されている看護データベース上で活用(1 件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

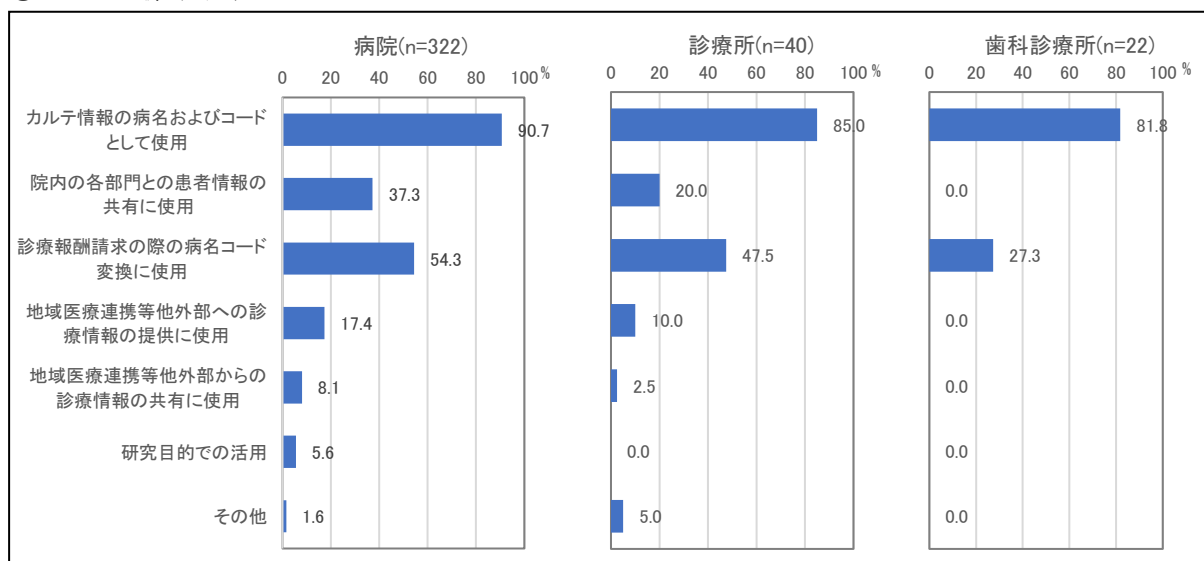
① HS001 医薬品 HOT コードマスター



② HS027 処方・注射オーダー標準用法規格

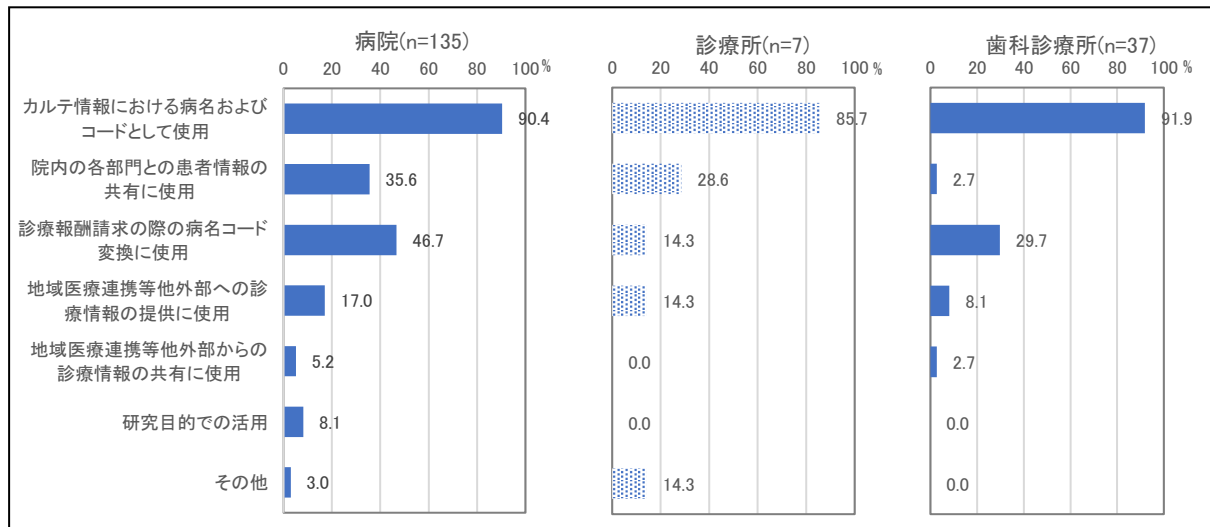


③ HS005 標準病名マスター

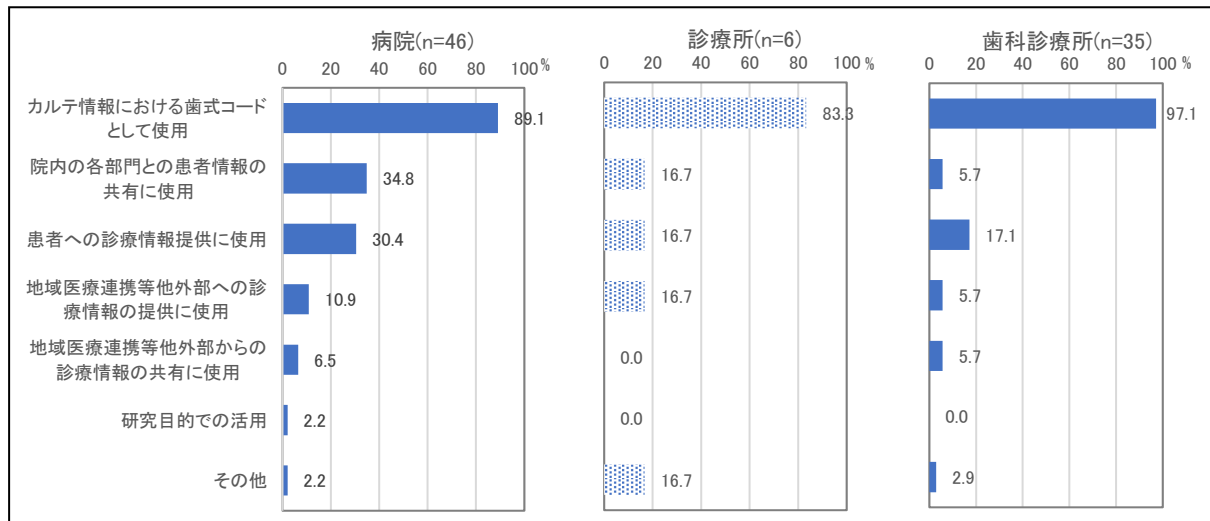


※ n=20 未満は網掛け表示

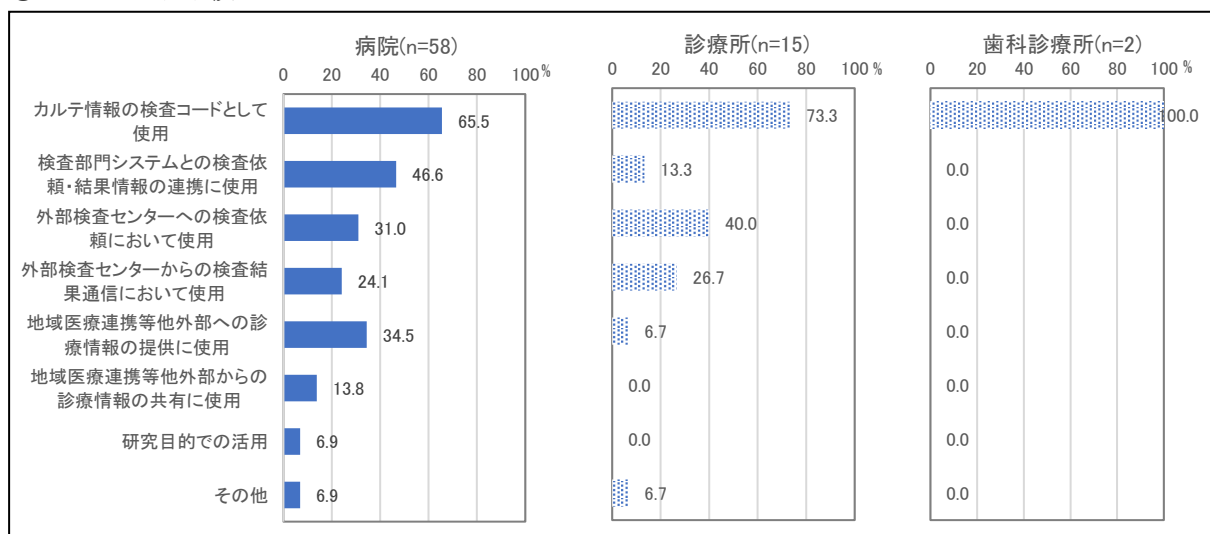
④ HS013 標準歯科病名マスター



⑤ HS033 標準歯式コード仕様

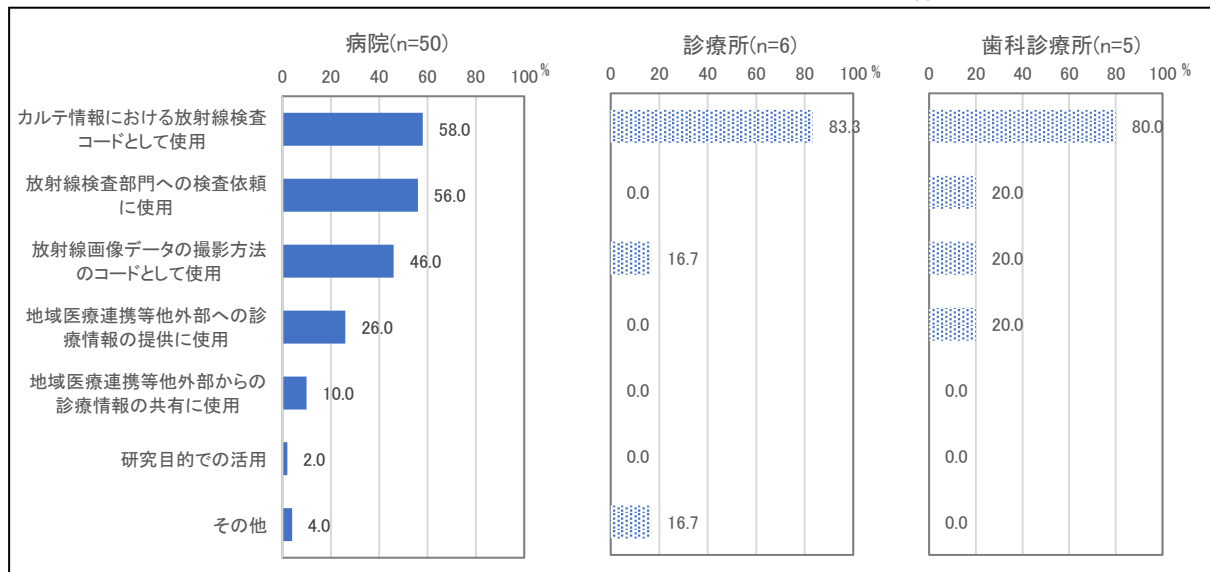


⑥ HS014 臨床検査マスター

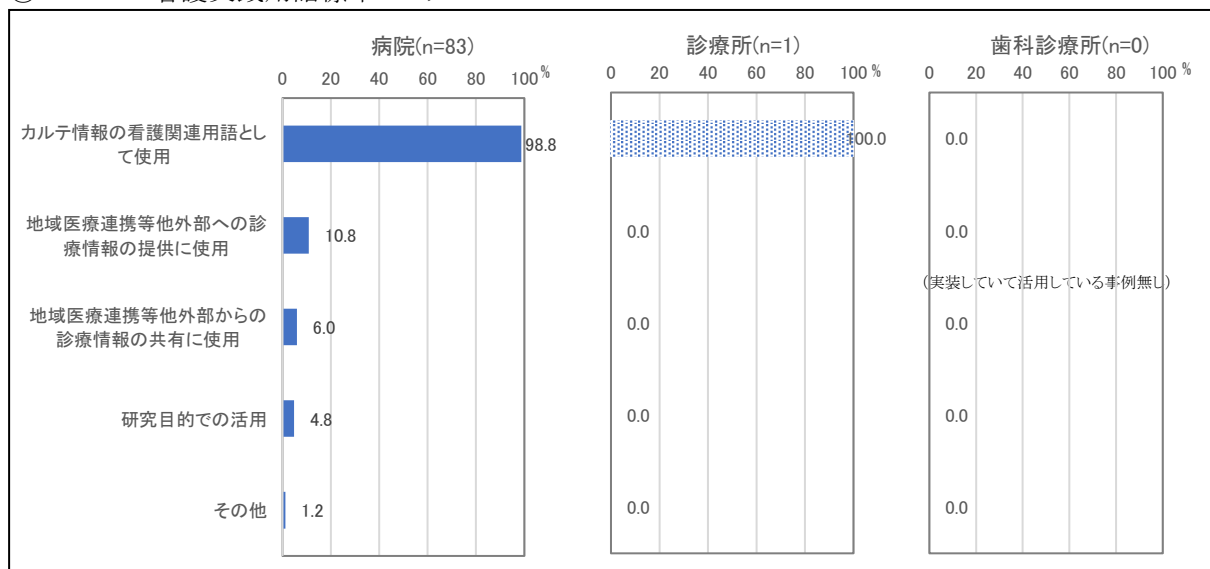


※ n=20 未満は網掛け表示

⑦ HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携指針(JJ1017 指針)



⑧ HS024 看護実践用語標準マスター



※ n=20 未満は網掛け表示

2) データ形式(複数回答)

電子カルテシステムにおける「データ形式」に関する各標準規格の主な活用方法は、下表のとおりであった。

① 電子カルテシステムにおける「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」(67件中33件、49.3%)
診療所	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」(8件中7件、87.5%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)

病院	・ 検査部門システムとの連携に使用(3件) ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビッグデータとして収集(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

② 電子カルテシステムにおける「HS016 JAHIS 放射線データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における放射線検査依頼・実施情報として使用」(63件中36件、57.1%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査依頼・実施情報として使用」(3件中3件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)

病院	・ 線量管理システムの運用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

③ 電子カルテシステムにおける「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」(69件中31件、44.9%)
診療所	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」(8件中8件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)

病院	・ お薬手帳連携、服用薬情報連携(1件) ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビッグデータとして収集(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

④ 電子カルテシステムにおける「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」の主な活用事例

病院	「患者への診療情報開示に使用」(22件中19件、86.4%)
診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(16件中11件、68.8%)
歯科診療所	「患者への診療情報開示に使用」(16件中13件、81.3%)

(その他の回答)なし

⑤ 電子カルテシステムにおける「HS008 診療情報提供書」の主な活用事例

病院	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(54件中52件、96.3%)
診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(22件中20件、90.9%)
歯科診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(30件中28件、93.3%)

(その他の回答)なし

⑥ 電子カルテシステムにおける「HS032 HL7CDAに基づく退院時サマリー規約」の主な活用事例

病院	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(22件中20件、90.9%)
診療所	実装していて活用している事例無し
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)なし

⑦ 電子カルテシステムにおける「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」の主な活用事例

病院	「診療において放射線検査画像の閲覧に使用」(76件中59件、77.6%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」(10件中8件、80.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」(9件中6件、66.7%)

(その他の回答)

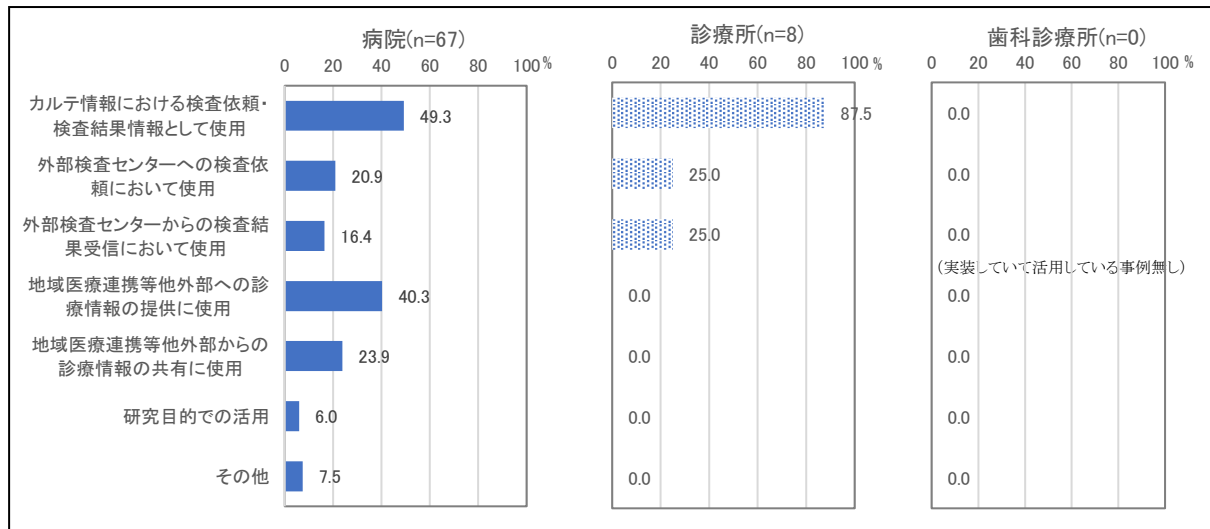
病院	・ 遠隔読影で使用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

⑧ 電子カルテシステムにおける「HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則」の主な活用事例

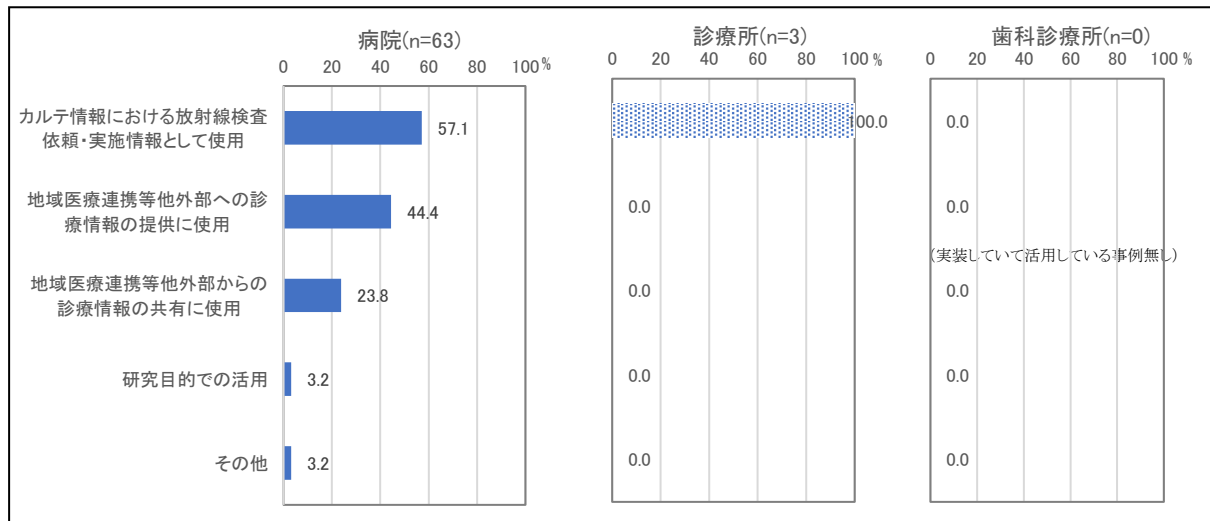
病院	「カルテ情報における医用波形データとして使用」(23件中18件、78.3%)
診療所	「カルテ情報における医用波形データとして使用」(2件中2件、100.0%) 「診療において生理検査の波形データの閲覧に使用」(2件中2件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)なし

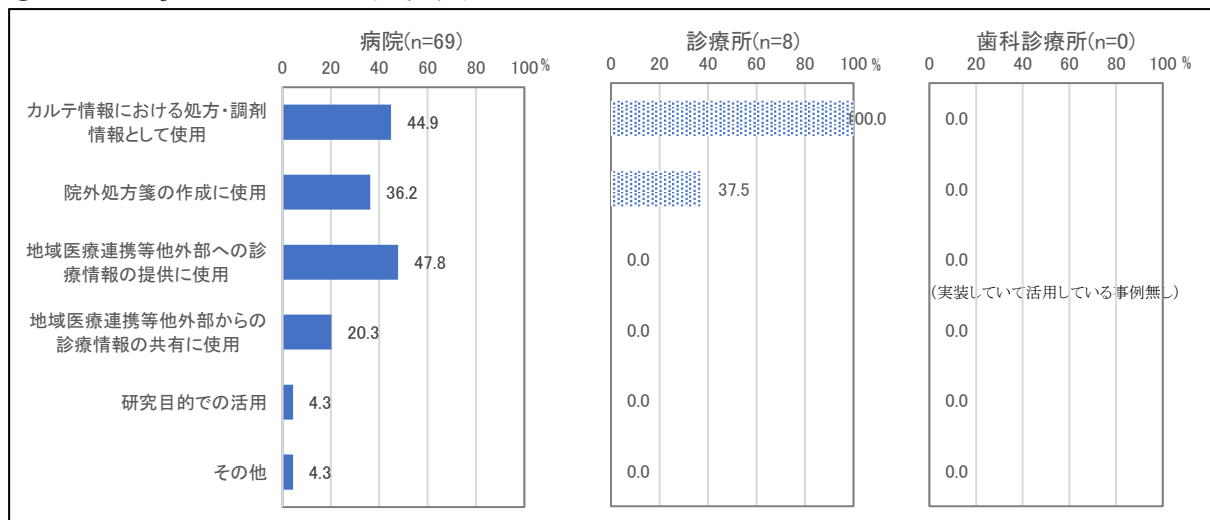
① HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約



② HS016 JAHIS 放射線データ交換規約

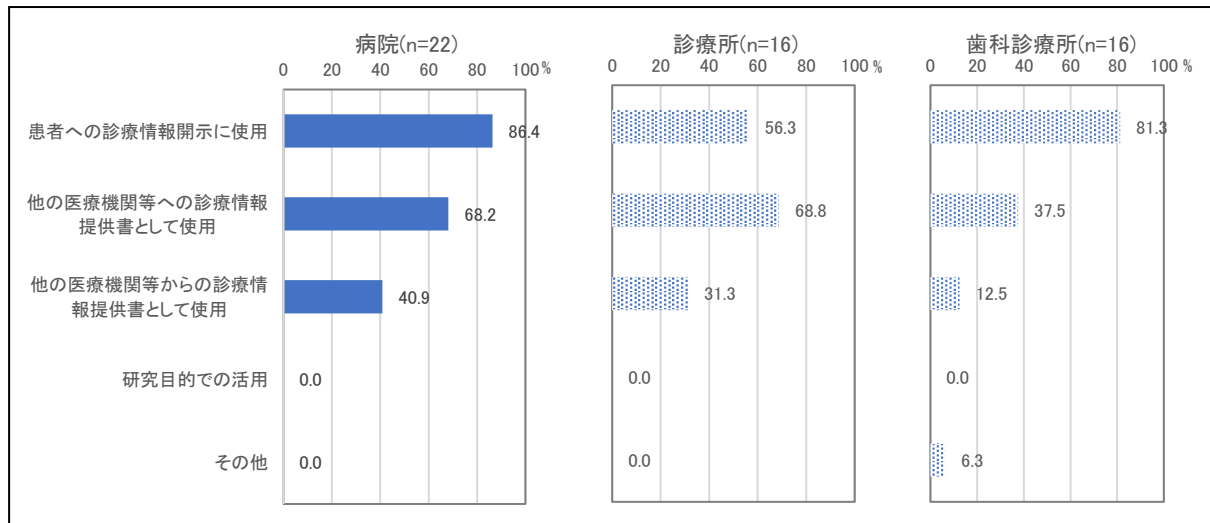


③ HS022 JAHIS 処方データ交換規約

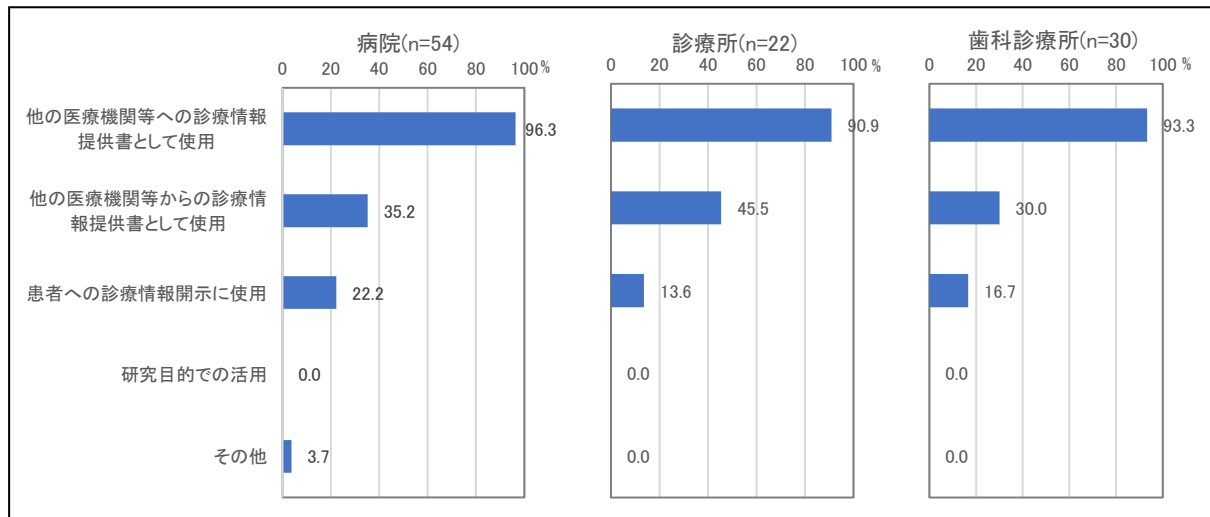


※ n=20 未満は網掛け表示

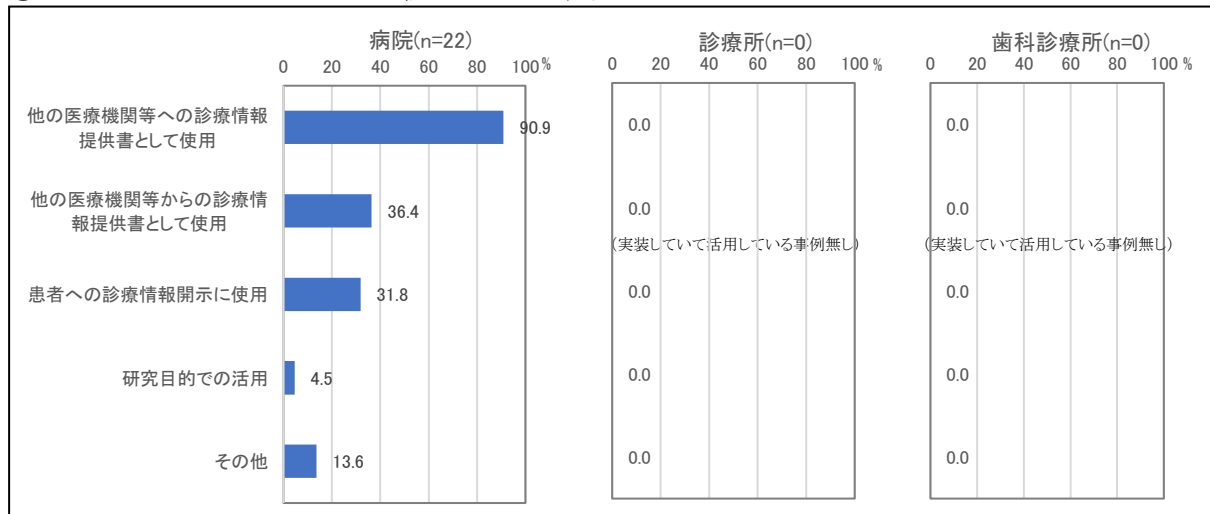
④ HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書



⑤ HS008 診療情報提供書

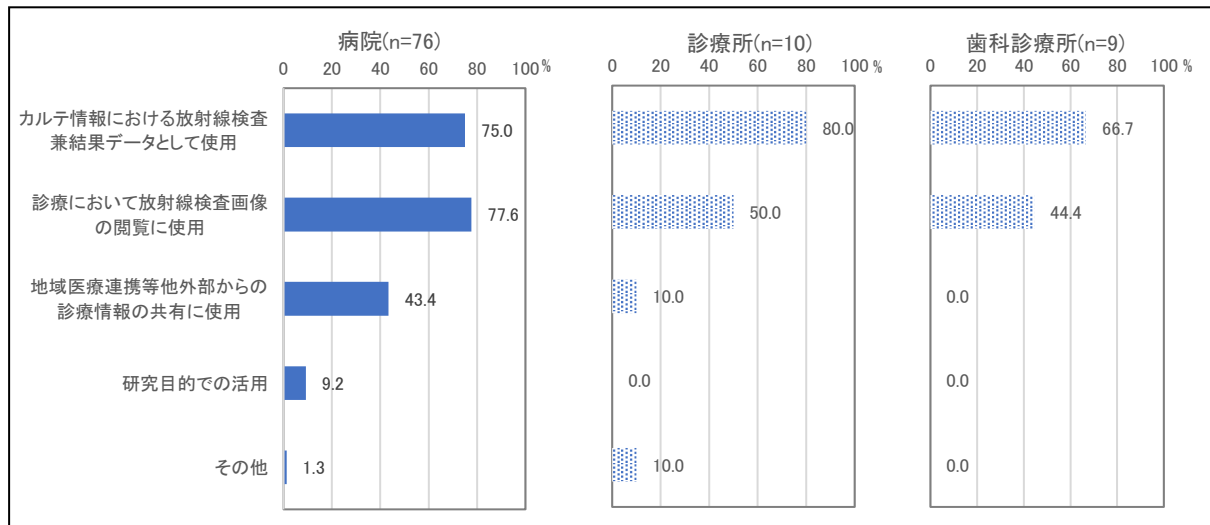


⑥ HS032 HL7CDAに基づく退院時サマリー規約

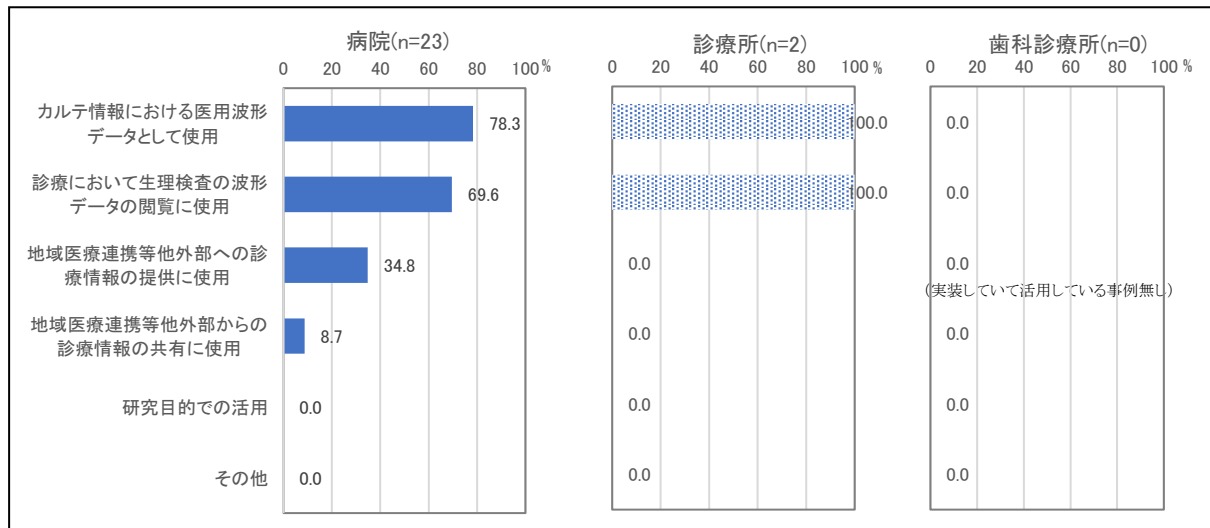


※ n=20 未満は網掛け表示

⑦ HS011 医療におけるデジタル画像と通信



⑧ HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則



※ n=20 未満は網掛け表示

3) データ交換(複数回答)

電子カルテシステムにおける「データ交換」に関する各標準規格の主な活用方法は下表のとおりであった。

① 電子カルテシステムにおける「HS009 IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」およびその運用指針」の主な活用事例

病院	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(46件中34件、73.9%)
診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(2件中2件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)

病院	・ 他医療機関からの画像の取り込みで使用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

② 電子カルテシステムにおける「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」の主な活用事例

病院	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」(152件中113件、74.3%)
診療所	「診療情報のバックアップとして使用」(4件中2件、50.0%) 「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」(4件中2件、50.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)

病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ BCP 対策参照用データ、災害カルテ情報共有(3件) ・ 他社システム属性連携(2件) ・ 医療文書作成支援システムにて使用(1件) ・ 国立病院機構診療情報集積基盤(NCDA)のビックデータとして収集(1件) ・ 部門関係(患者情報)で使用(1件) ・ 地域連携用のデータ出力として(1件) ・ J-DREAMS にて利用(1件)
診療所	・ なし
歯科診療所	・ なし

③ 電子カルテシステムにおける「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様」の主な活用事例

病院	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(7件中5件、71.4%)
診療所	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(4件中3件、75.0%)
歯科診療所	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(3件中3件、100.0%)

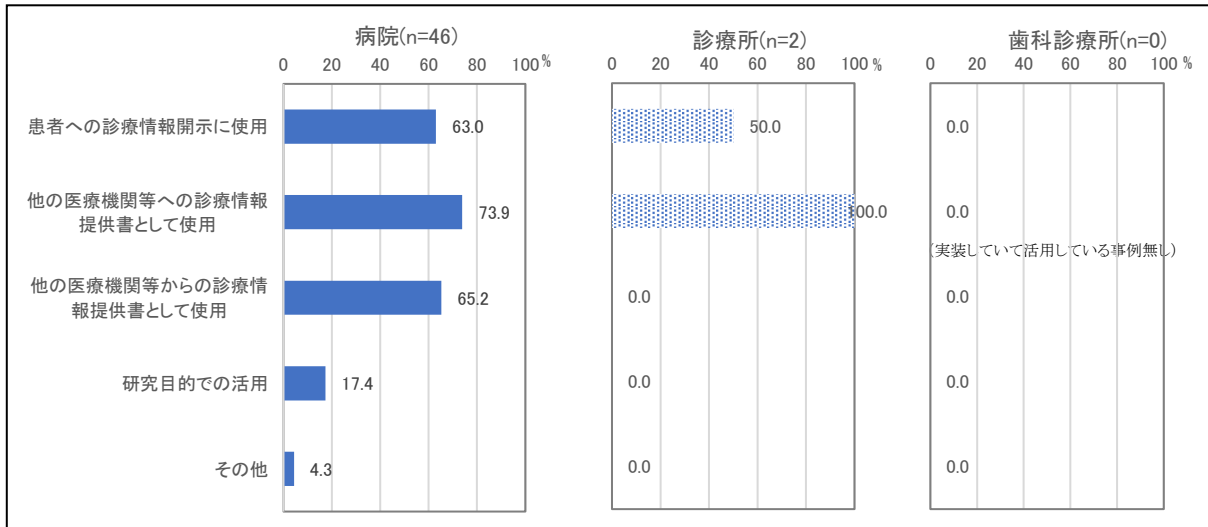
(その他の回答)なし

④ 電子カルテシステムにおける「HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」の主な活用事例

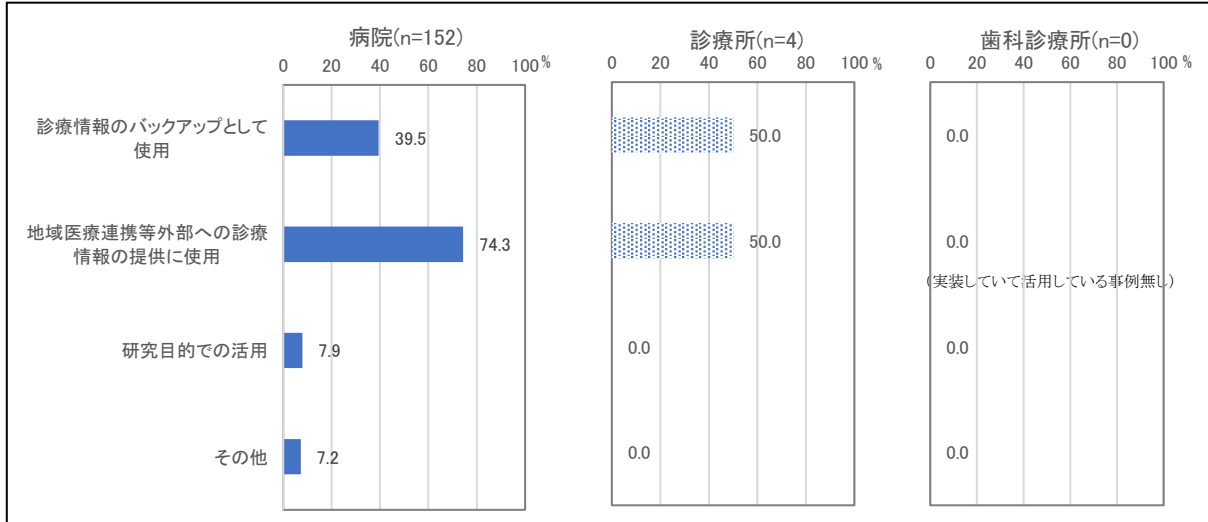
病院	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(50件中49件、98.0%)
診療所	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(2件中2件、100.0%)
歯科診療所	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(2件中2件、100.0%)

(その他の回答)なし

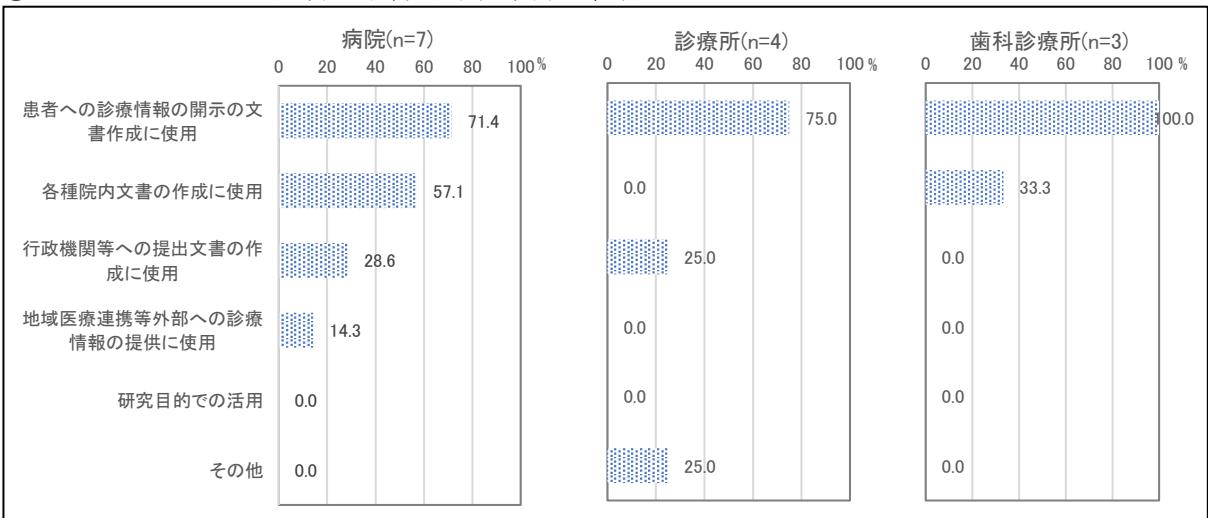
① HS009 IHE 統合プロフィール「可搬型医用画像」およびその運用指針



② HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン

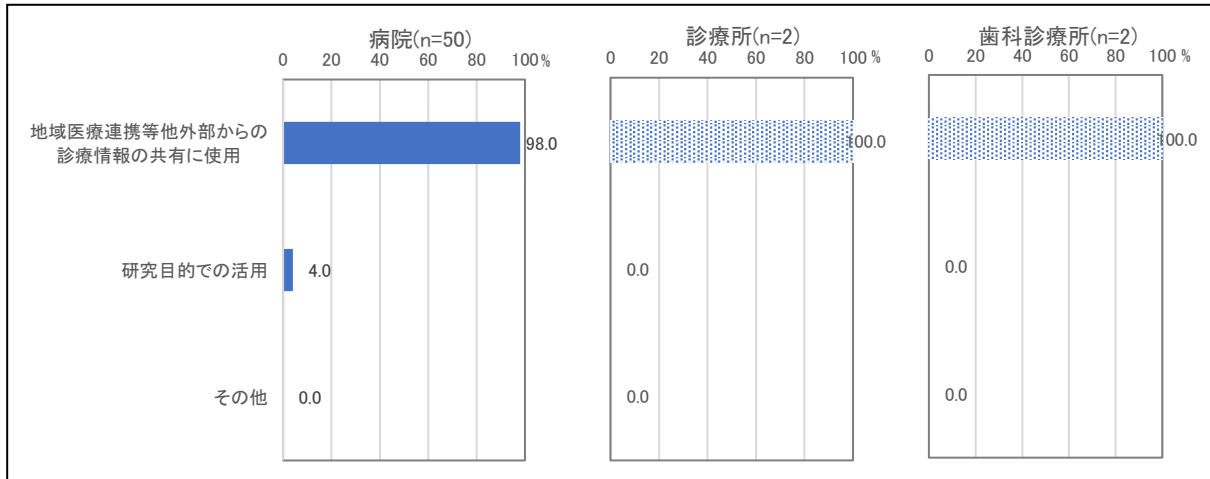


③ HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様



※ n=20 未満は網掛け表示

④ HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様



※ n=20 未満は網掛け表示

(4) 電子カルテシステムにおいて実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由

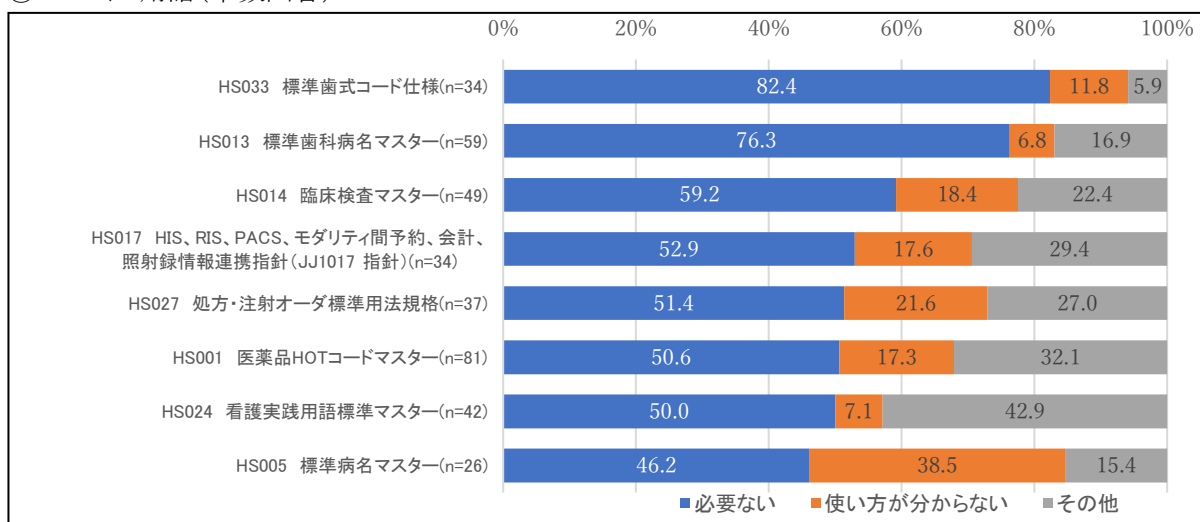
<病院>

電子カルテシステムに厚生労働省標準規格を「実装しているが活用していない」と回答した病院にその理由を確認した。その結果、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター」を除く全ての標準規格について半数以上が「必要ない」と回答した。

「データ形式」に関しては、「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」を除く全ての標準規格について半数以上が「必要ない」と回答した。

「データ交換」に関しては、「HS009 IHE 統合プロファイル」「可搬型医用画像」およびその運用指針を除く全ての標準規格で「必要ない」という回答が6割を超えた。

① コード・用語(単数回答)

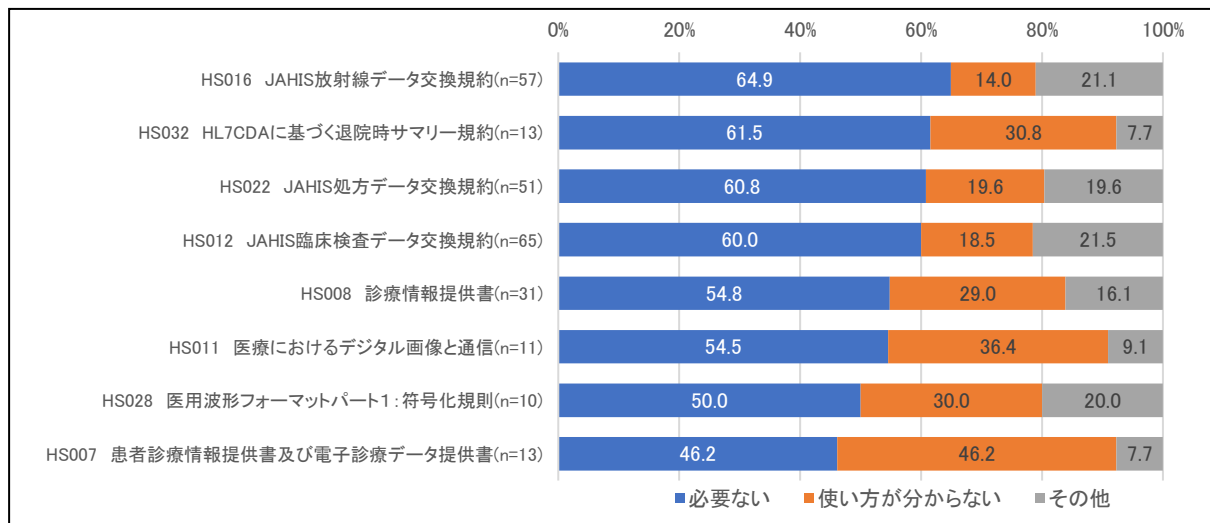


(その他の回答)

HS033 標準歯式コード仕様	<ul style="list-style-type: none"> オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(1件) マスター登録、活用方法が未検討(1件)
HS013 標準歯科病名マスター	<ul style="list-style-type: none"> 歯科診療を行っていないため(6件) オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(1件)
HS014 臨床検査マスター	<ul style="list-style-type: none"> 独自マスターを使用しているため(2件) オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(2件) 臨床検査項目分類コード JLAC11 移行検討中のため(1件) マスター整理の担当者がいないため(1件) マスター登録、活用方法が未検討(1件)
HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)	<ul style="list-style-type: none"> オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(2件) 独自マスターを使用しているため(1件) PACS が別メーカーのため(1件) マスター作成の労力が大きいため(1件) マスター整理の担当者がいないため(1件)
HS027 処方・注射オーダ標準用法規格	<ul style="list-style-type: none"> 院内独自コードを使用しているため(2件) 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(2件) オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(2件) 旧システムからのマスターを引き継いでいるため(1件) 既存のマスターを変換するのが面倒なため(1件) マスター登録、活用方法が未検討のため(1件)

HS001 医薬品 HOT コードマスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ YJ コード(薬価基準収載医薬品コード)を使用しているため(7 件) ・ 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(2 件) ・ 従来の連携インターフェースを継承しているため(2 件) ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(2 件) ・ 標準化以前からのマスターを利用しているため(1 件) ・ 院内独自コードを使用しているため(3 件) ・ 手入力が必要になるため、既存コードを使用している(1 件)
HS024 看護実践用語標準マスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入当初のマスターを継続して使用しているため(3 件) ・ コード体系の見直しが必要となるため(2 件) ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かる(1 件) ・ マスター作成の労力が大きいため(1 件) ・ マスター整理の担当者がいないため(1 件)
HS005 標準病名マスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で使用用途が決定していない(1 件) ・ MEDIS に基づくメーカー標準マスターを使用のため(1 件) ・ 会計システムのマスターを使用しているため(1 件)

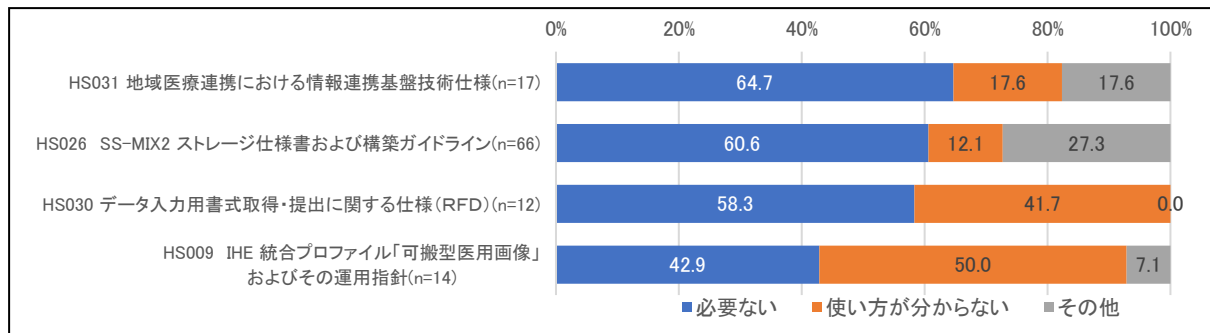
② データ形式(単数回答)



(その他の回答)

HS016 JAHIS 放射線データ交換規約	<ul style="list-style-type: none"> 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(2件) 地域連携システムを導入していないため(1件) パッケージ標準を使用(1件) オプションのためデータ形式を使用するには構築費用が掛かるため(1件)
HS032 HL7CDA に基づく退院時サマリー規約	<ul style="list-style-type: none"> なし
HS022 JAHIS 処方データ交換規約	<ul style="list-style-type: none"> オプションのためデータ形式を使用するには構築費用が掛かるため(1件) 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(2件) 地域連携システムを導入していないため(1件)
HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約	<ul style="list-style-type: none"> 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(2件) 地域連携システムを導入していないため(1件) データ交換に独自仕様を用いているため(1件) 従来の連携インターフェースを継承しているため(1件) オプションのためデータ形式を使用するには構築費用が掛かるため(1件) パッケージ標準を使用(1件)
HS008 診療情報提供書	<ul style="list-style-type: none"> HPKI の運用ができていないため(1件) オプションのためデータ形式を使用するには構築費用が掛かるため(1件)
HS011 医療におけるデジタル画像と通信	<ul style="list-style-type: none"> オプションのためデータ形式を使用するには構築費用が掛かるため(1件)
HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則	<ul style="list-style-type: none"> 活用するケースが少ないため(1件)
HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書	<ul style="list-style-type: none"> 手入力で行っているため(1件)

③ データ交換(単数回答)



(その他の回答)

HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様	<ul style="list-style-type: none"> 他の地域連携システムと連携していないため(1件)
HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> 外部への診療情報提供をシステムで行っていないため(3件) オプションのためデータ交換を使用するには構築費用が掛かるため(2件) 現状で使用用途が無いため(2件) SS-MIXを使用するシステムの利用を終了したため(1件) 地域連携システムを導入していないため(1件)
HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様	<ul style="list-style-type: none"> なし
HS009 IHE 統合プロフィール「可搬型医用画像」およびその運用指針	<ul style="list-style-type: none"> なし

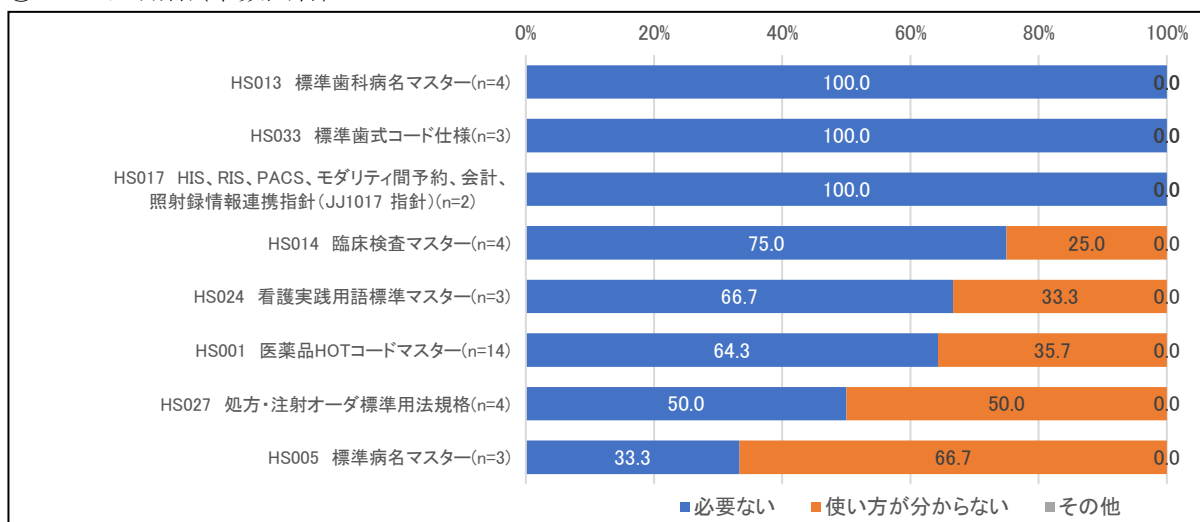
<診療所>

診療所については、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター」を除く全ての標準規格について半数以上が「必要ない」と回答した。

「データ形式」に関しては、「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」を除く全ての標準規格で半数以上が「必要ない」と回答した。

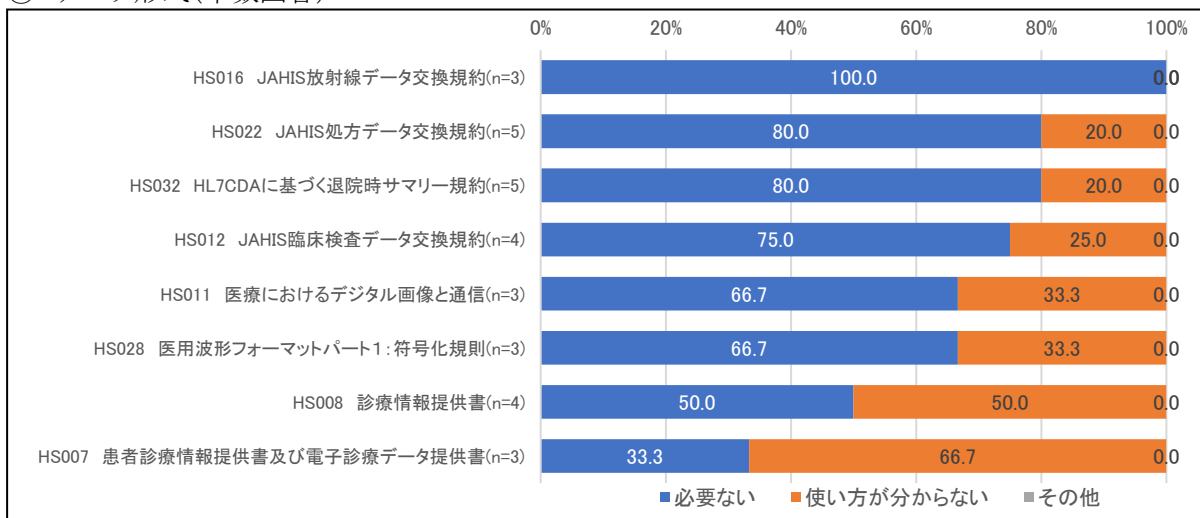
「データ交換」に関しては、「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」と「HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」は66.7%が「必要ない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)



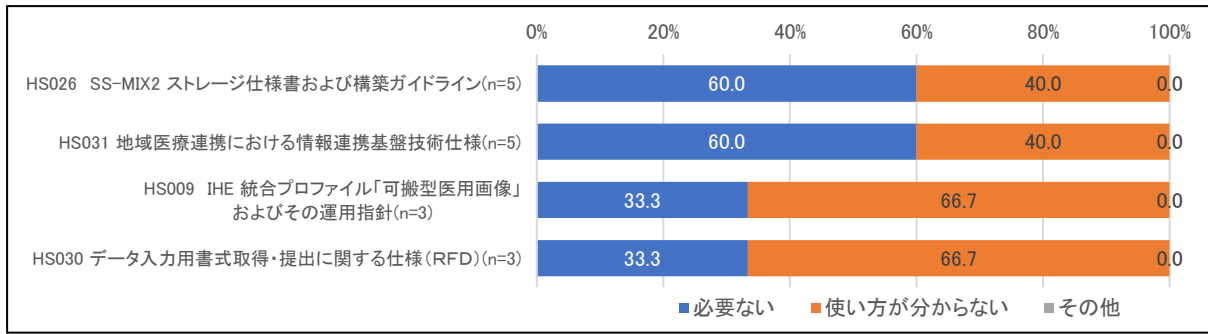
(その他の回答)なし

② データ形式(単数回答)



(その他の回答)なし

③ データ交換(単数回答)



(その他の回答)なし

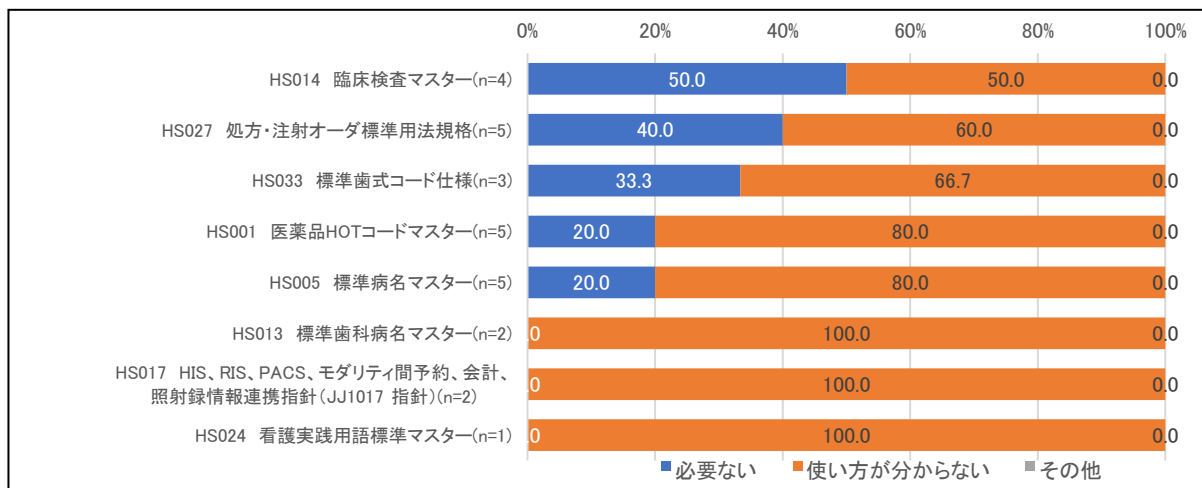
< 歯科診療所 >

歯科診療所については、「コード・用語」に関しては、ほぼ全ての準規格について「使い方が分からない」と回答。

「データ形式」に関しては、「HS008 診療情報提供書」、「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」、「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」については半数以上が「必要ない」と回答。

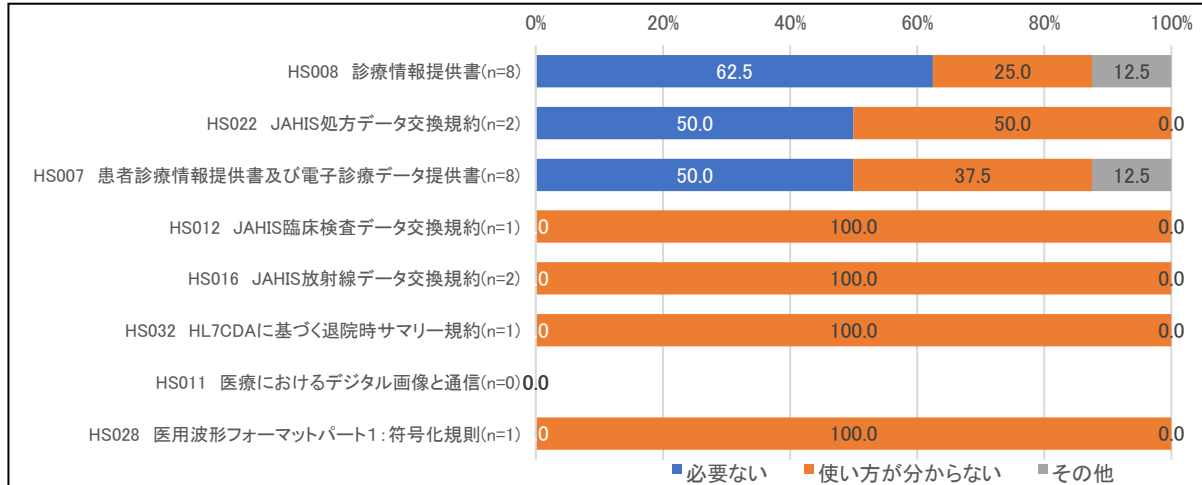
「データ交換」に関しては全ての標準規格について半数以上が「使い方が分からない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)



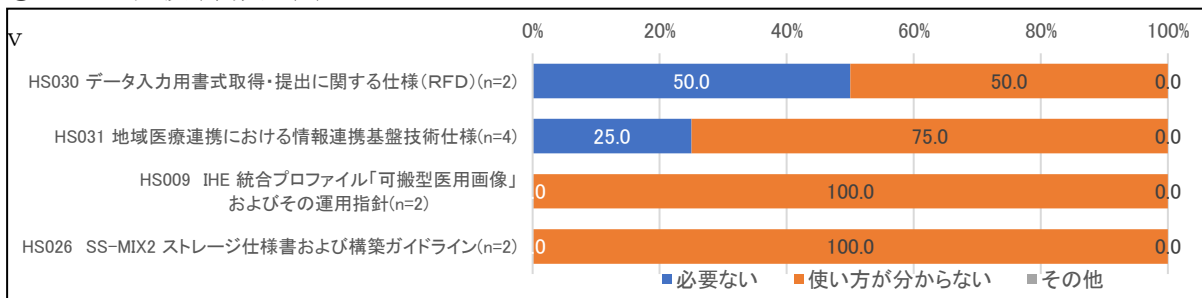
(その他の回答)なし

② データ形式(単数回答)



(その他の回答)なし

③ データ交換(単数回答)

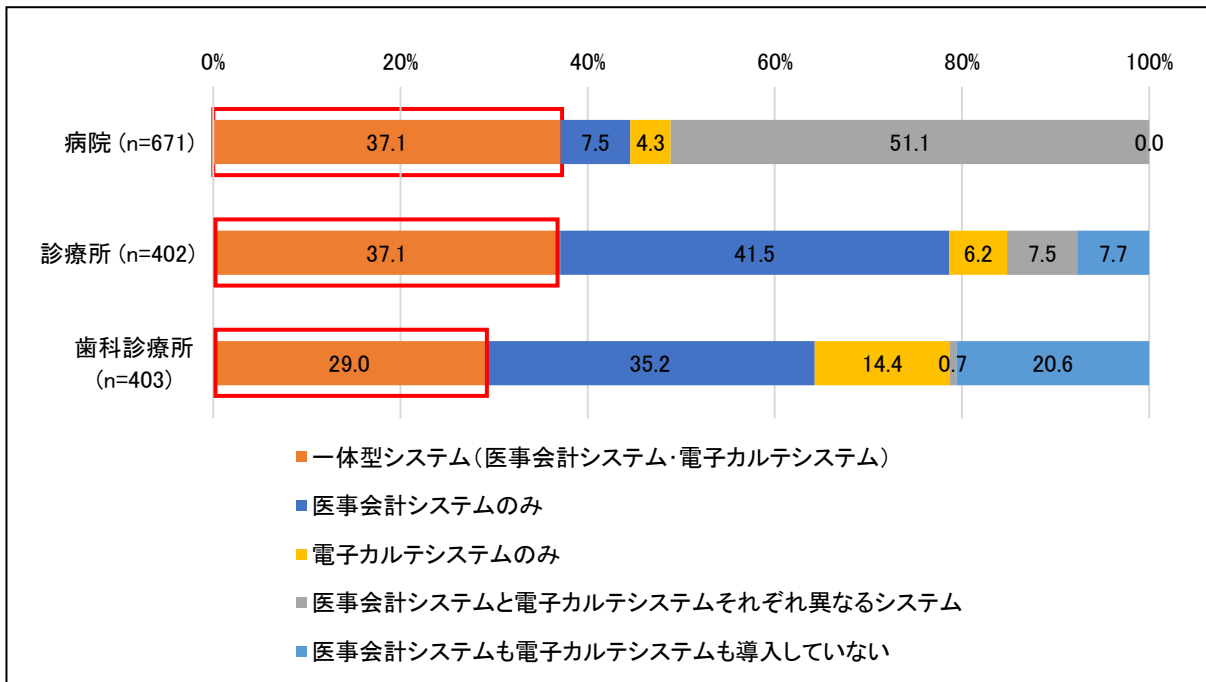


(その他の回答)なし

3. 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装状況

(1) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)の導入状況(単数回答)

一体型システムの導入率は、病院 37.1% (n=671)、診療所 37.1% (n=402)、歯科診療所 29.0% (n=403)であった。



(2) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における厚生労働省標準規格の実装状況

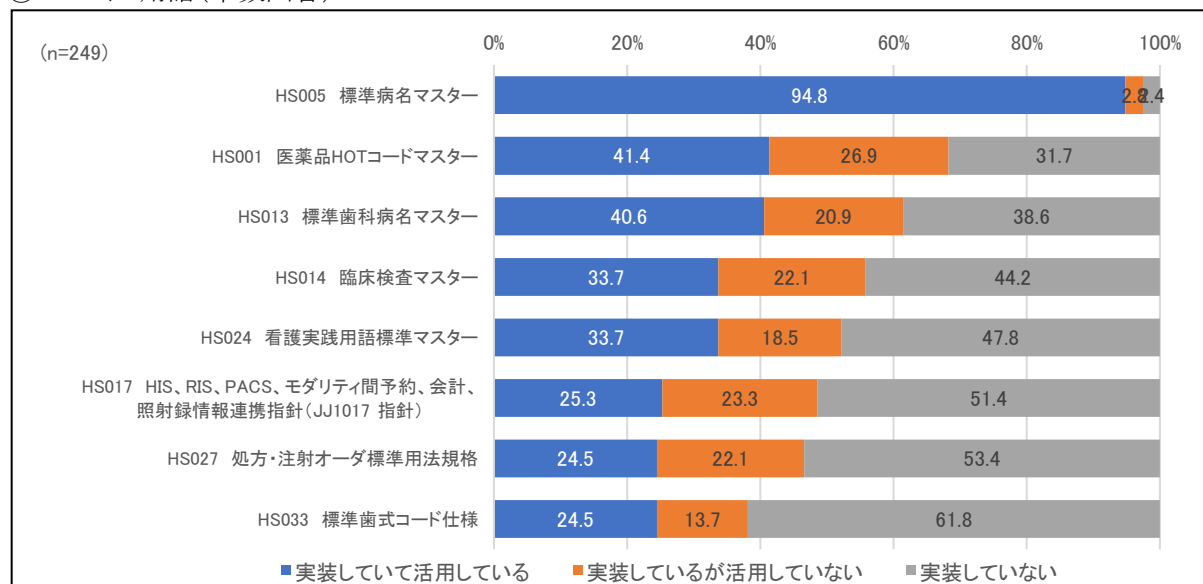
< 病院 >

病院における一体型システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(94.8%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS001 医薬品 HOTコードマスター(41.1%)」、「HS013 標準歯科病名マスター(40.6%)」であった。

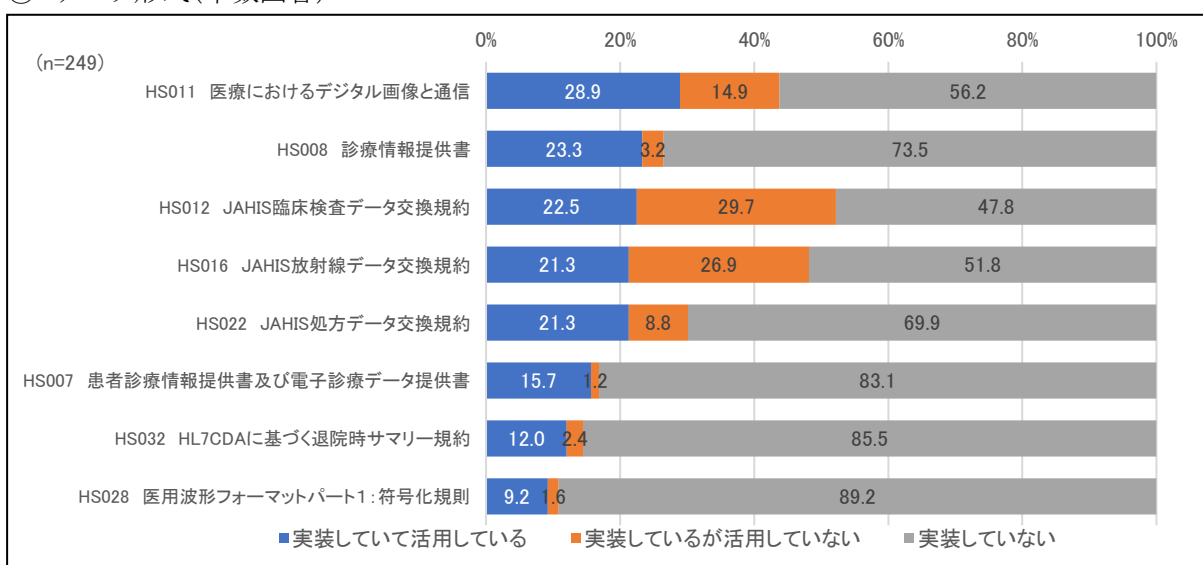
「データ形式」に関しては、「HS011 医療におけるデジタル画像と通信(28.9%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS008 診療情報提供書(23.3%)」、「HS012 JAHIS臨床検査データ交換規約(22.5%)」であった。

「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン(37.3%)」であった。

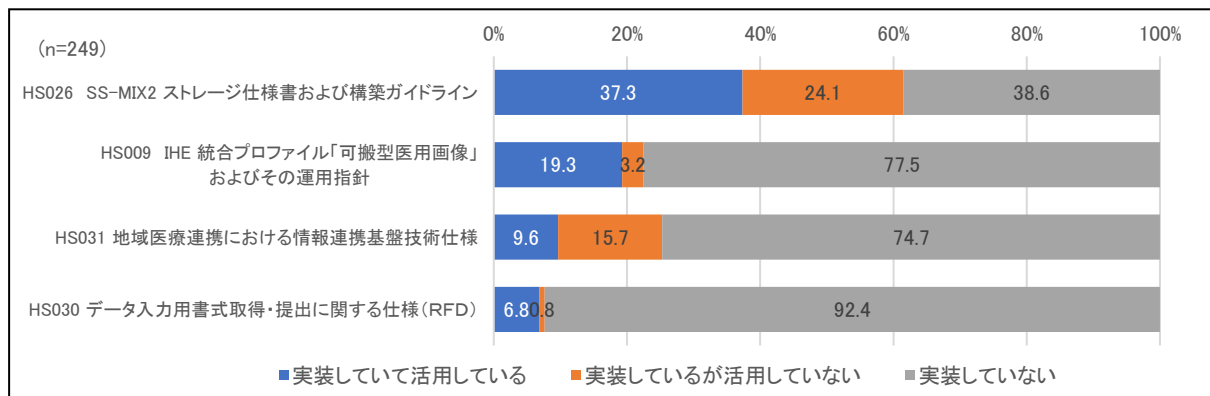
① コード・用語(単数回答)



② データ形式(単数回答)



③ データ交換(単数回答)



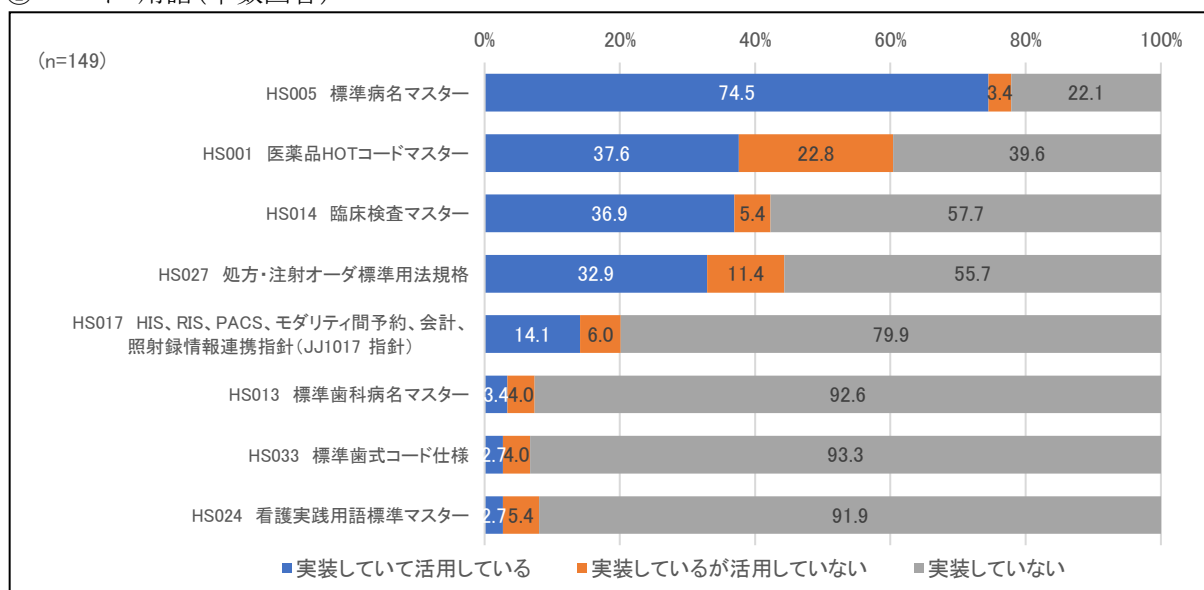
<診療所>

診療所における一体型システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター(74.5%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS001 医薬品HOTコードマスター(37.6%)」、「HS014 臨床検査マスター(36.9%)」であった。

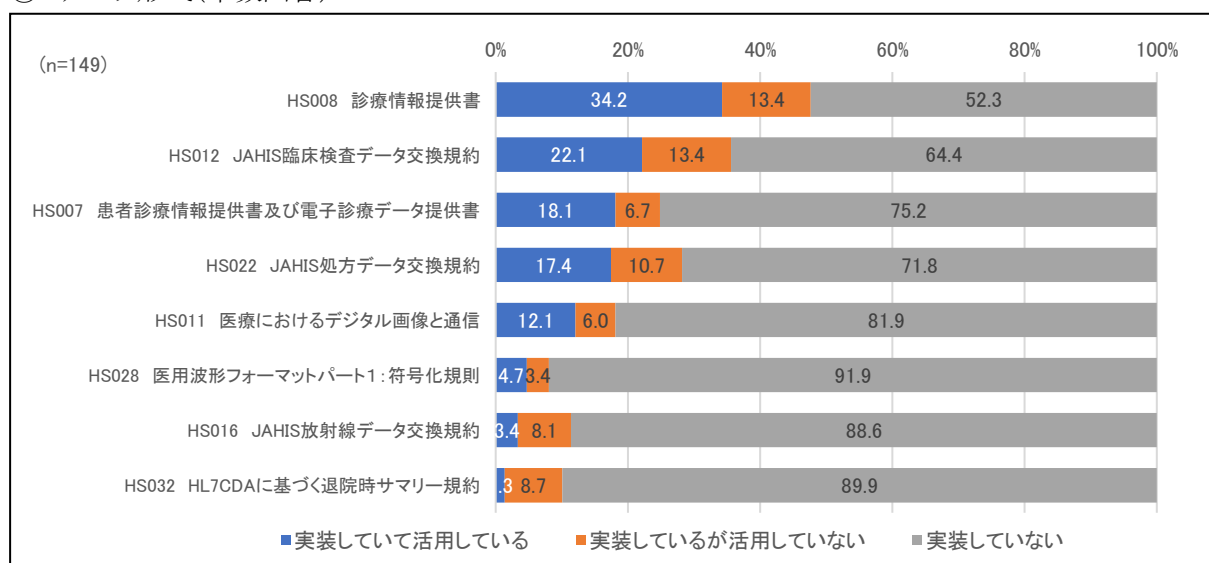
「データ形式」に関しては、「HS008 診療情報提供書(34.2%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS012 JAHIS臨床検査データ交換規約(22.1%)」、「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(18.1%)」であった。

「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン(8.1%)」であった。

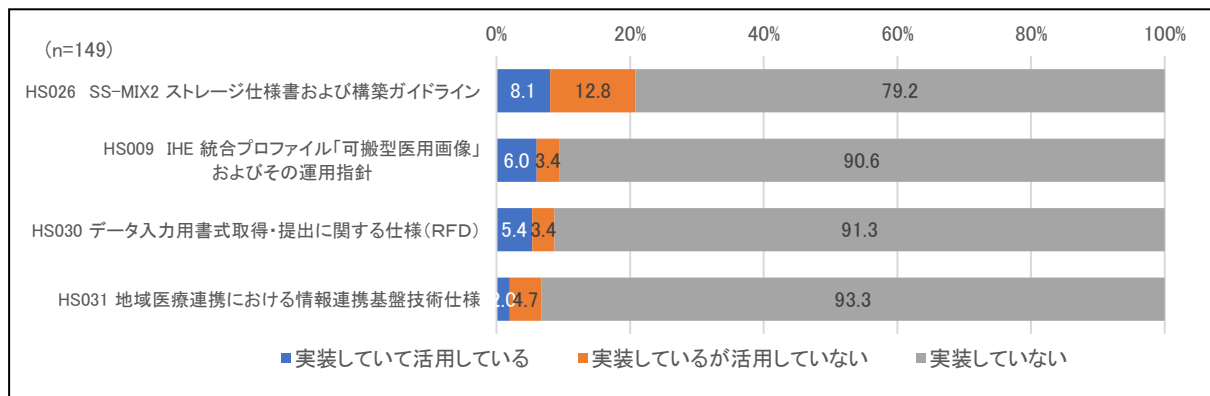
① コード・用語(単数回答)



② データ形式(単数回答)



③ データ交換(単数回答)



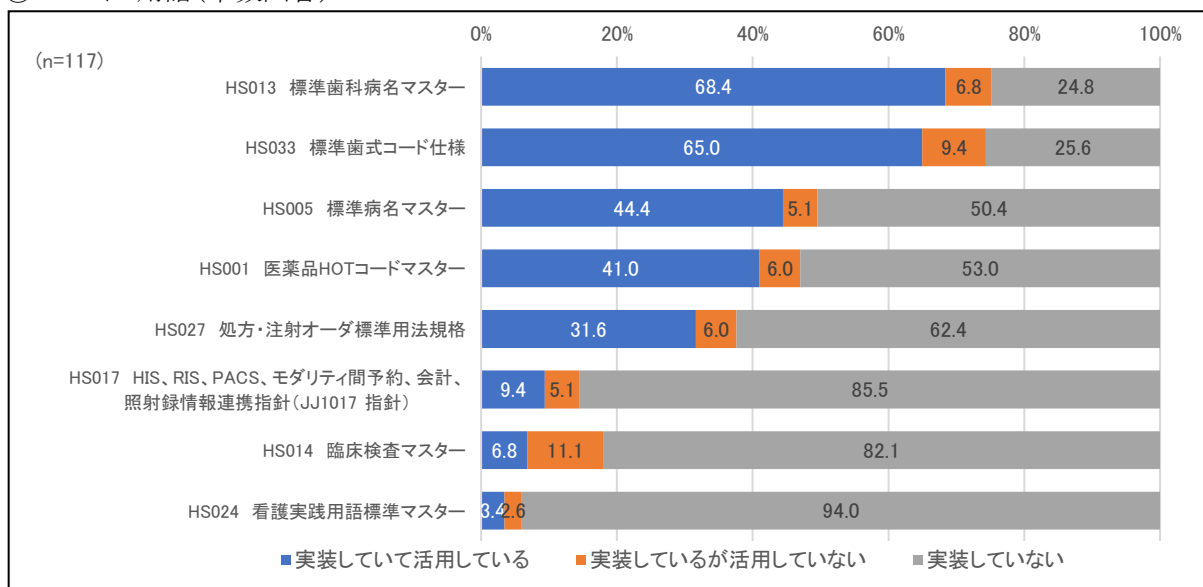
< 歯科診療所 >

歯科診療所における一体型システムの厚生労働省標準規格の実装状況について、「コード・用語」に関しては、「HS013 標準歯科病名マスター (68.4%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS033 標準歯式コード仕様(65.0%)」、「HS005 標準病名マスター (44.4%)」であった。

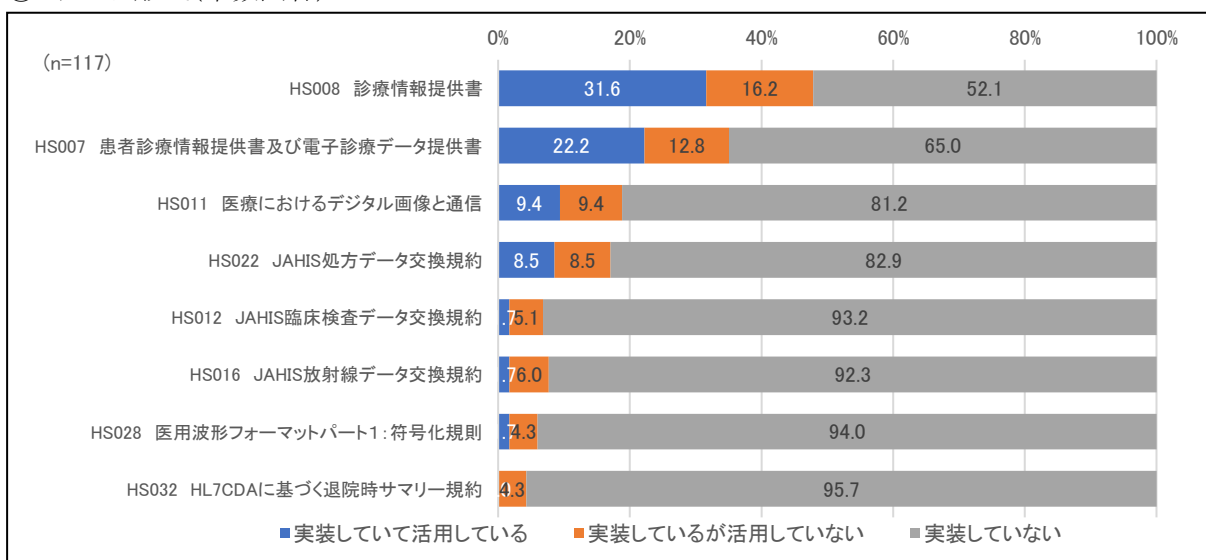
「データ形式」に関しては、「HS008 診療情報提供書(31.6%)」が最も実装して活用されており、次いで「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書(22.2%)」であった。

「データ変換」に関しては、最も実装して活用されている標準規格は「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD) (7.7%)」であった。

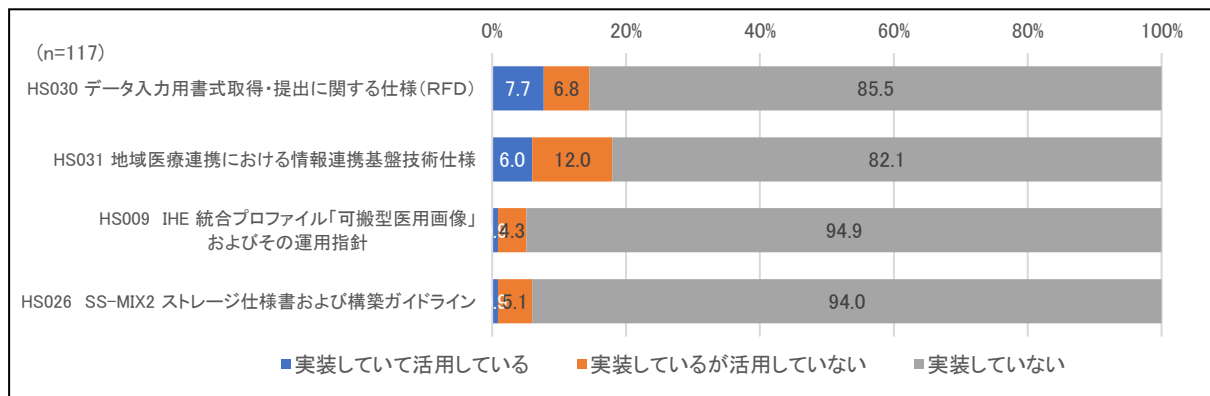
① コード・用語(単数回答)



② データ形式(単数回答)



③ データ交換(単数回答)



(3) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における実装している厚生省標準規格の活用事例

一体型システムにおいて厚生労働省標準規格を「実装して活用している」と回答した施設を対象に、その主な活用事例について確認した。以下の表は「コード・用語」に関する標準規格ごとの主な活用方法であるが、カルテ情報における薬剤コードや、用法コード、病名コード、歯式コード、検査コードとして使用されているケースが大半であった。

1) コード・用語(複数回答)

① 一体型システムにおける「HS001 医薬品 HOT コードマスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(103 件中 78 件、75.7%)
診療所	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(56 件中 46 件、82.1%)
歯科診療所	「カルテ情報における薬剤コードとして使用」(48 件中 39 件、81.3%)

(その他の回答)

病院	・ 物品管理に利用(1 件)
診療所	・ 病院独自コードから医薬品 HOT コードマスターへの変換(1 件)
歯科診療所	・ なし

② 一体型システムにおける「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における用法コードとして使用」(61 件中 55 件、90.2%)
診療所	「カルテ情報における用法コードとして使用」(49 件中 41 件、83.7%)
歯科診療所	「カルテ情報における用法コードとして使用」(37 件中 31 件、83.8%)

(その他の回答)なし

③ 一体型システムにおける「HS005 標準病名マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(236 件中 223 件、94.5%)
診療所	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(111 件中 92 件、82.9%)
歯科診療所	「カルテ情報の病名およびコードとして使用」(52 件中 40 件、76.9%)

(その他の回答)

病院	・ なし
診療所	・ 病名チェック、統計など(8 件)
歯科診療所	・ なし

④ 一体型システムにおける「HS013 標準歯科病名マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(101 件中 91 件、90.1%)
診療所	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(5 件中 3 件、60.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における病名およびコードとして使用」(80 件中 68 件、85.0%)

(その他の回答)なし

⑤ 一体型システムにおける「HS033 標準歯式コード仕様」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(61件中57件、93.4%)
診療所	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(4件中3件、75.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における歯式コードとして使用」(76件中67件、88.2%)

(その他の回答)なし

病院	・ なし
診療所	・ 診療報酬請求に使用(1件)
歯科診療所	・ 診療報酬請求に使用(8件)

⑥ 一体型システムにおける「HS014 臨床検査マスター」の主な活用事例

病院	「カルテ情報の検査コードとして使用」(84件中68件、81.0%)
診療所	「カルテ情報の検査コードとして使用」(55件中45件、81.8%)
歯科診療所	「カルテ情報の検査コードとして使用」(8件中8件、100.0%)

(その他の回答)

病院	・ なし
診療所	・ 検査結果表示の分析コード別分類、検査結果表示の並び順制御(6件)
歯科診療所	・ なし

⑦ 一体型システムにおける「HS017 HIS,RIS,PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(63件中46件、73.0%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(21件中17件、81.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における放射線検査コードとして使用」(11件中10件、90.9%)

(その他の回答)

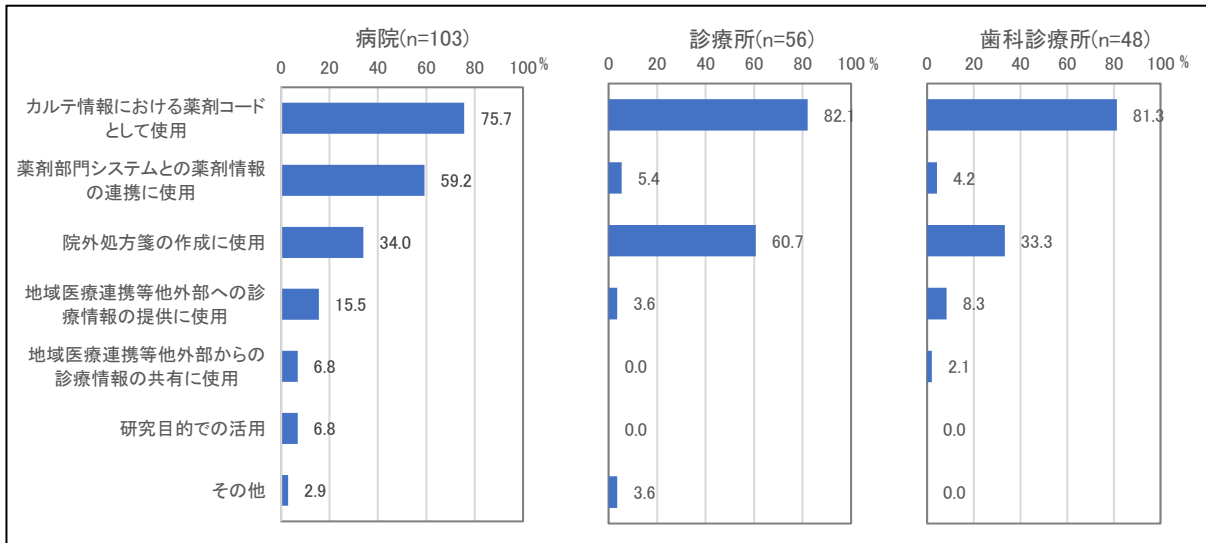
病院	・ 放射線治療管理システムとの連携に使用(2件)
診療所	・ 会計で使用(1件)
歯科診療所	・ なし

⑧ 一体型システムにおける「HS024 看護実践用語標準マスター」の主な活用事例

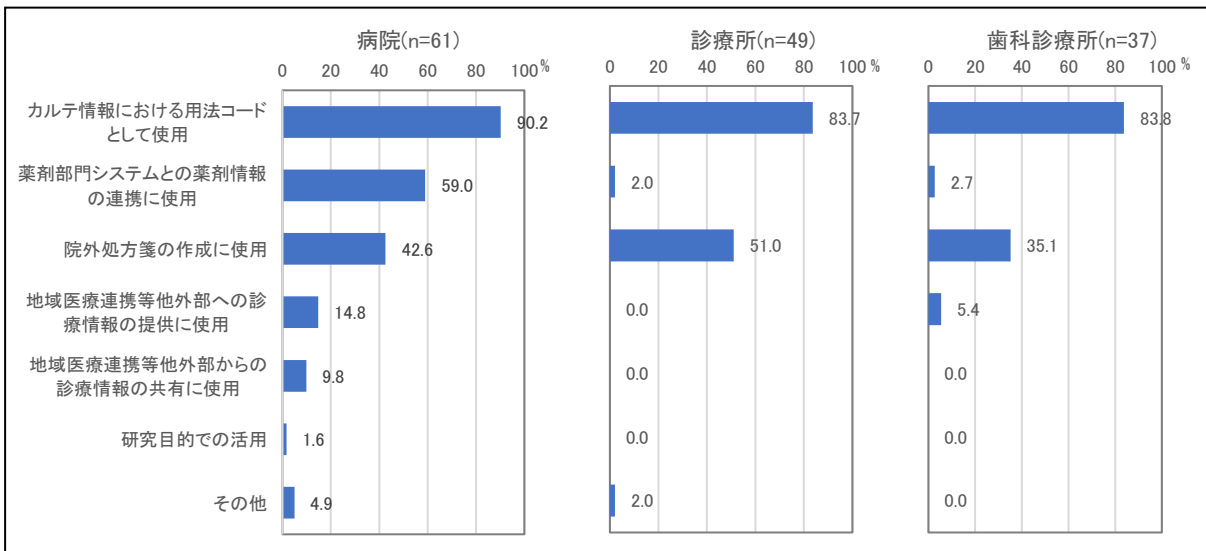
病院	「カルテ情報の看護関連用語として使用」(82件中79件、96.3%)
診療所	「カルテ情報の看護関連用語として使用」(4件中4件、100.0%)
歯科診療所	「カルテ情報の看護関連用語として使用」(3件中3件、100.0%)

(その他の回答)なし

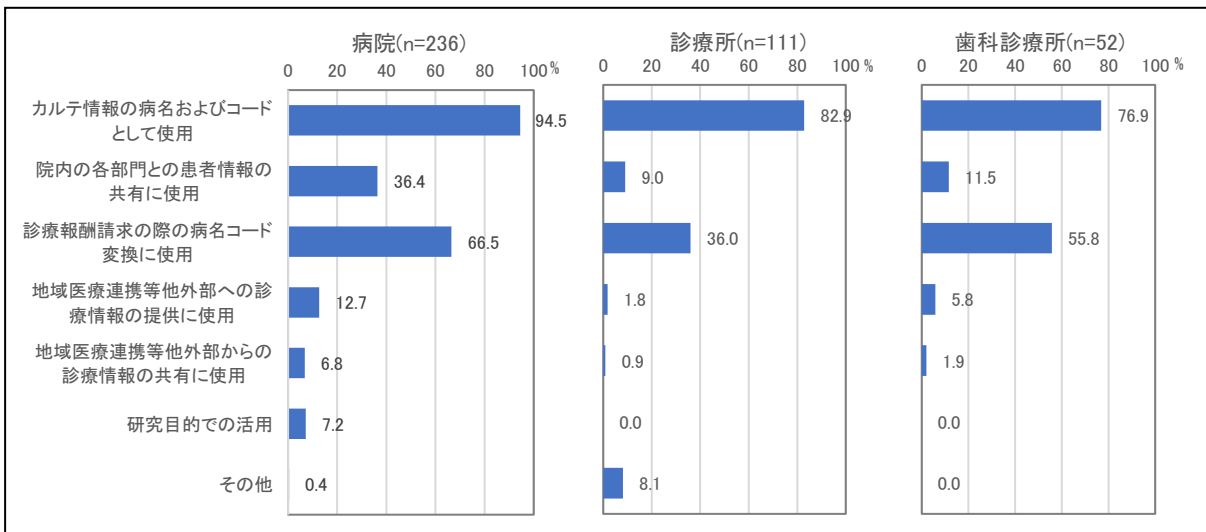
① HS001 医薬品 HOT コードマスター



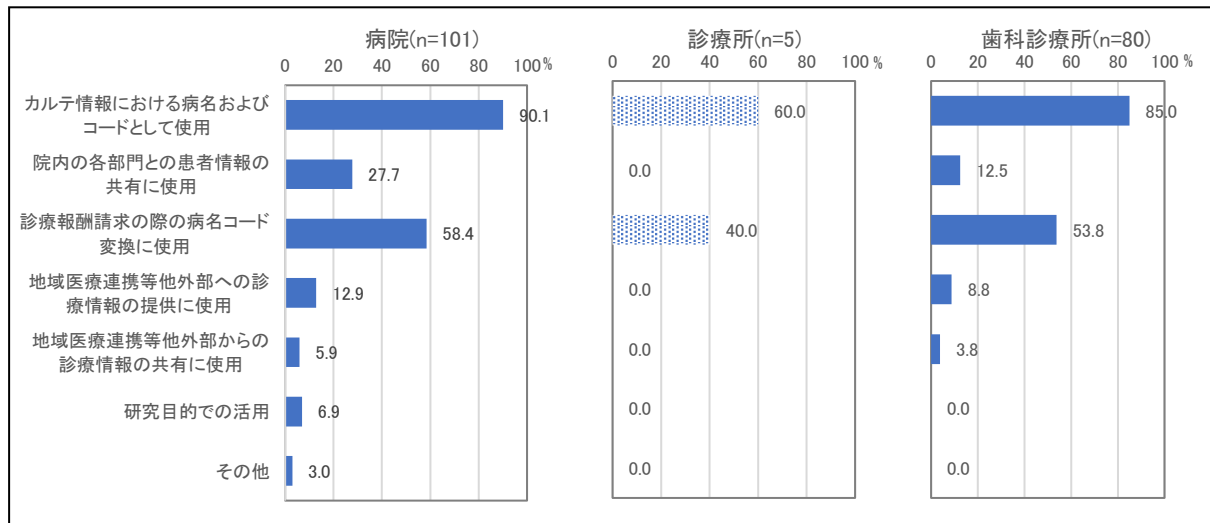
② HS027 処方・注射オーダ標準用法規格



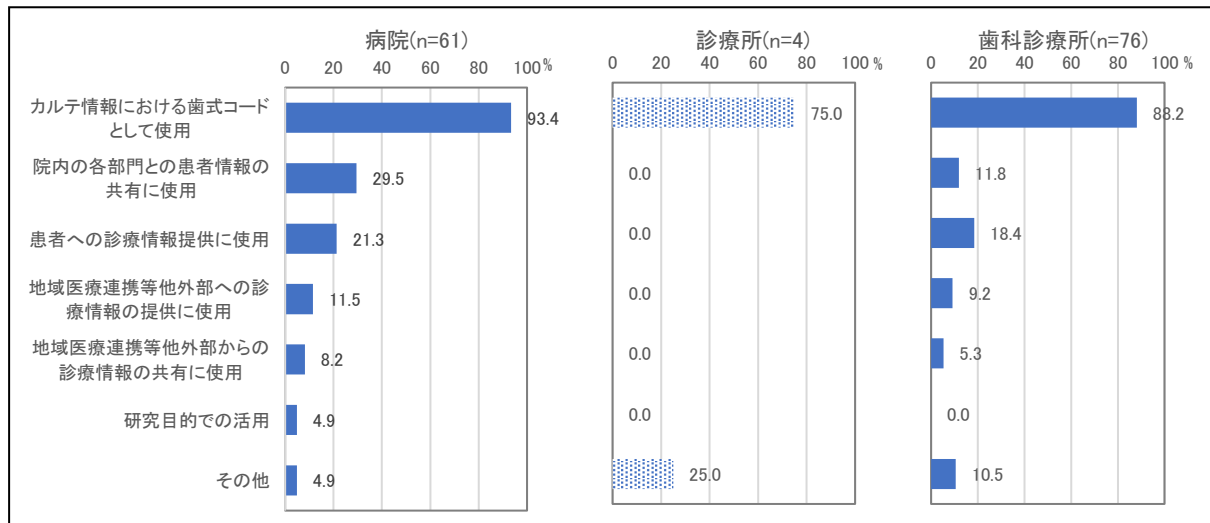
③ HS005 標準病名マスター



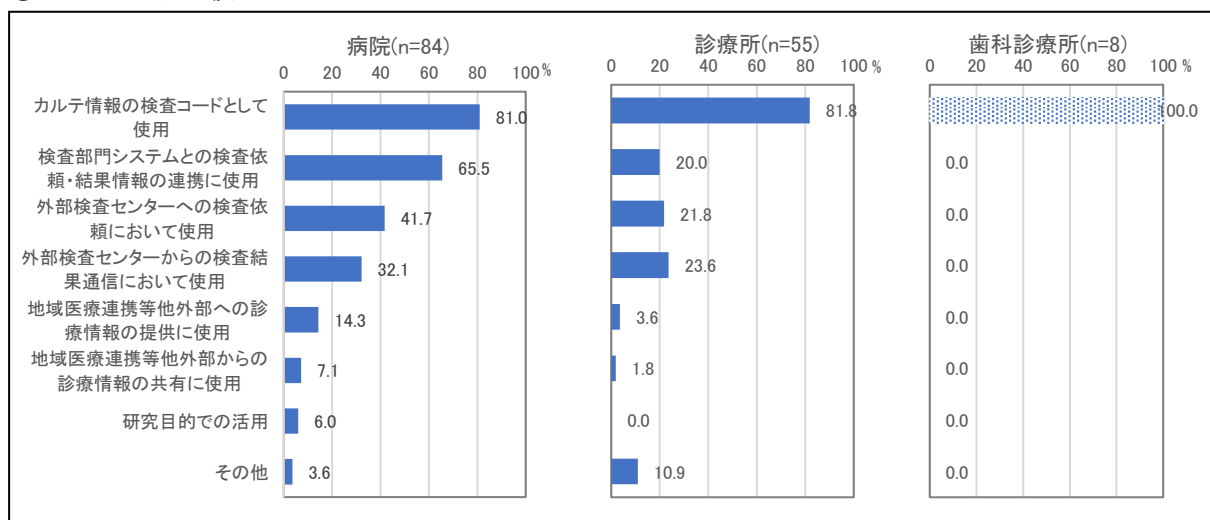
④ HS013 標準歯科病名マスター



⑤ HS033 標準歯式コード仕様

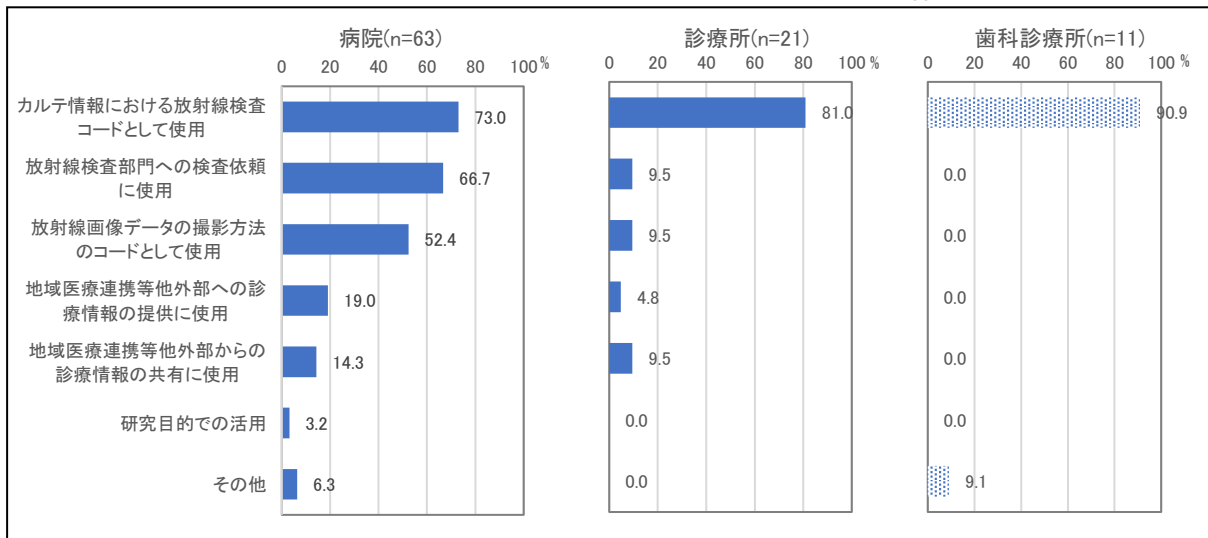


⑥ HS014 臨床検査マスター

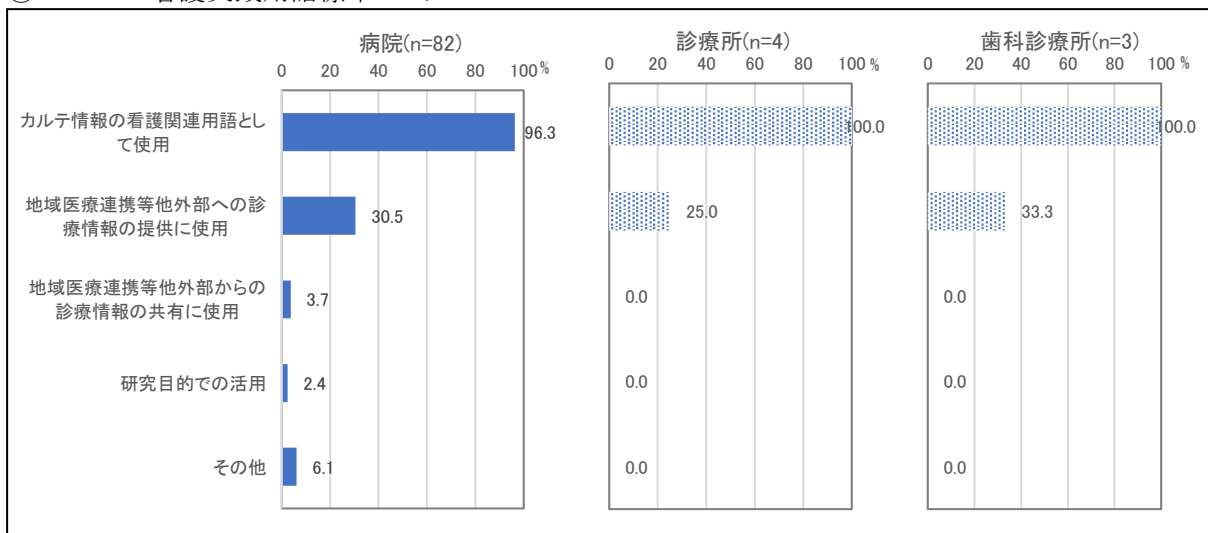


※ n=20 未満は網掛け表示

⑦ HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携指針(JJ1017 指針)



⑧ HS024 看護実践用語標準マスター



※ n=20 未満は網掛け表示

2) データ形式(複数回答)

一体型システムにおける「データ形式」に関する各標準規格の活用方法は下表のとおりであった。

① 一体型システムにおける「HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」(56 件中 43 件、76.8%)
診療所	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」(33 件中 30 件、90.9%)
歯科診療所	「カルテ情報における検査依頼・検査結果情報として使用」(2 件中 2 件、100.0%)

(その他の回答)なし

② 一体型システムにおける「HS016 JAHIS 放射線データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における放射線検査依頼・実施情報として使用」(53 件中 45 件、84.9%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査依頼・実施情報として使用」(5 件中 5 件、100.0%)
歯科診療所	「カルテ情報における放射線検査依頼・実施情報として使用」(2 件中 2 件、100.0%)

(その他の回答)なし

③ 一体型システムにおける「HS022 JAHIS 処方データ交換規約」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」(53 件中 44 件、83.0%)
診療所	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」(26 件中 22 件、84.6%)
歯科診療所	「カルテ情報における処方・調剤情報として使用」(10 件中 10 件、100.0%)

(その他の回答)なし

④ 一体型システムにおける「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」の主な活用事例

病院	「患者への診療情報開示に使用」(39 件中 30 件、76.9%)
診療所	「患者への診療情報開示に使用」(27 件中 19 件、70.4%)
歯科診療所	「患者への診療情報開示に使用」(26 件中 19 件、73.1%)

(その他の回答)なし

⑤ 一体型システムにおける「HS008 診療情報提供書」の主な活用事例

病院	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(58 件中 56 件、96.6%)
診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(51 件中 50 件、98.0%)
歯科診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(37 件中 36 件、97.3%)

(その他の回答)なし

⑥ 一体型システムにおける「HS032 HL7CDA に基づく退院時サマリー規約」の主な活用事例

病院	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(30 件中 27 件、90.0%)
診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(2 件中 2 件、100.0%)
歯科診療所	実装していて活用している事例無し

(その他の回答)なし

⑦ 一体型システムにおける「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」の主な活用事例

病院	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」(72 件中 59 件、81.9%)
診療所	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」(18 件中 15 件、83.3%)
歯科診療所	「カルテ情報における放射線検査兼結果データとして使用」(11 件中 9 件、81.8%)

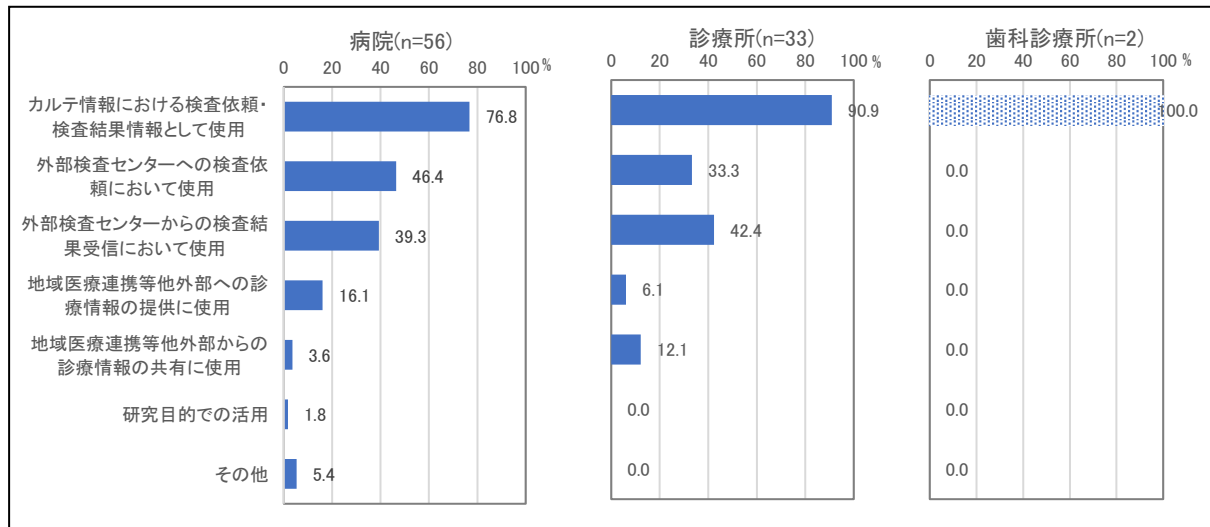
(その他の回答)なし

⑧ 一体型システムにおける「HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則」の主な活用事例

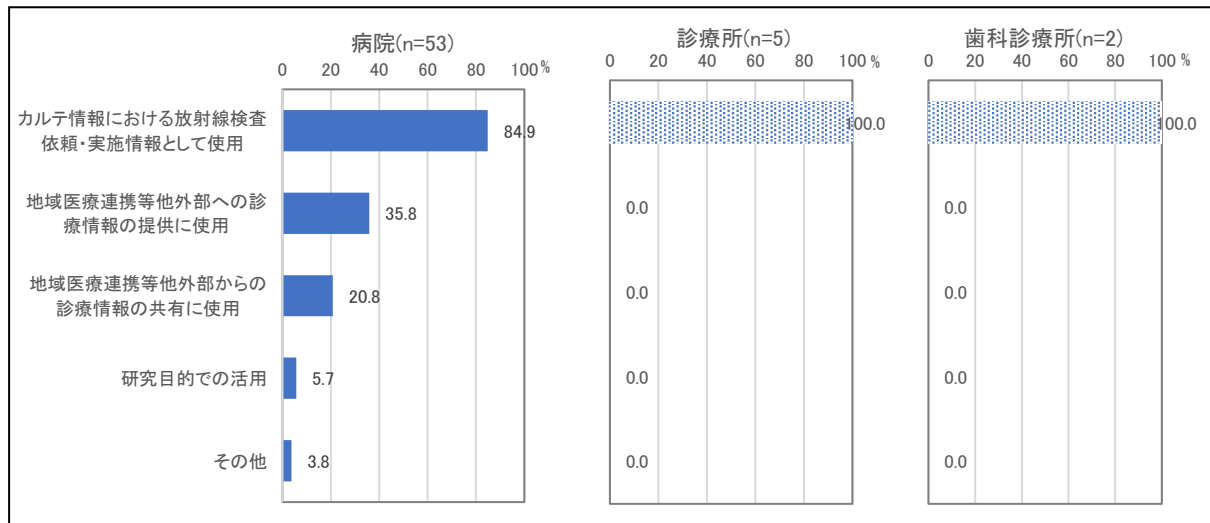
病院	「カルテ情報における医用波形データとして使用」(23 件中 17 件、73.9%)
診療所	「カルテ情報における医用波形データとして使用」(7 件中 5 件、71.4%)
歯科診療所	「カルテ情報における医用波形データとして使用」(2 件中 2 件、100.0%)

(その他の回答)なし

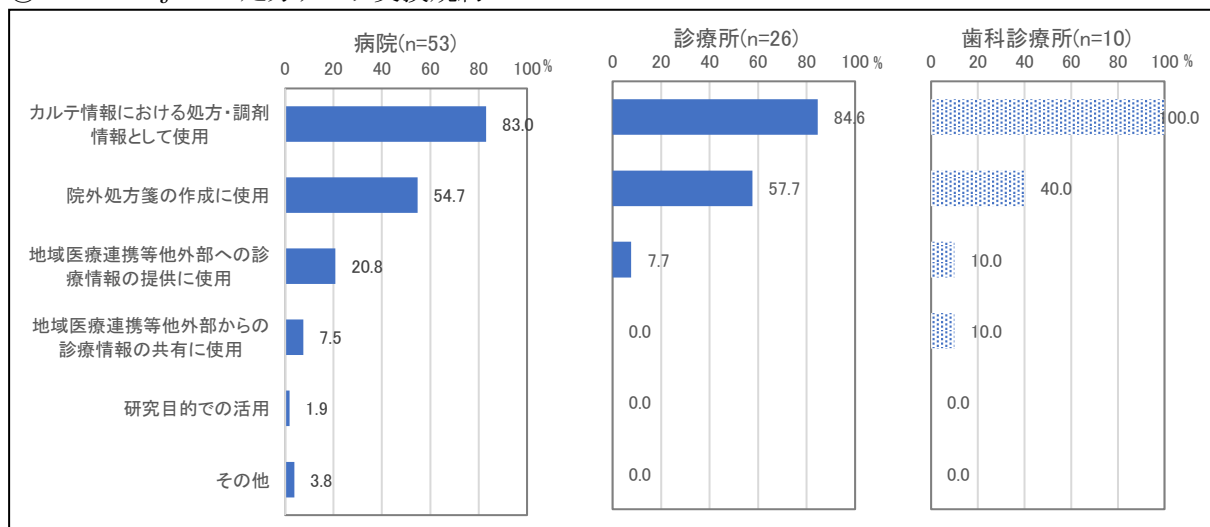
① HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約



② HS016 JAHIS 放射線データ交換規約

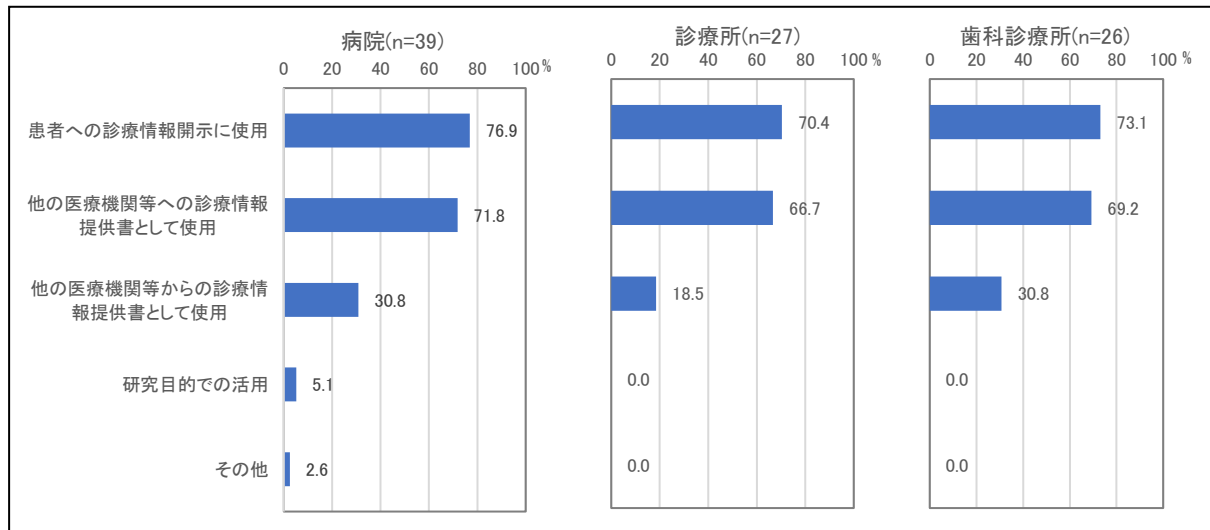


③ HS022 JAHIS 処方データ交換規約

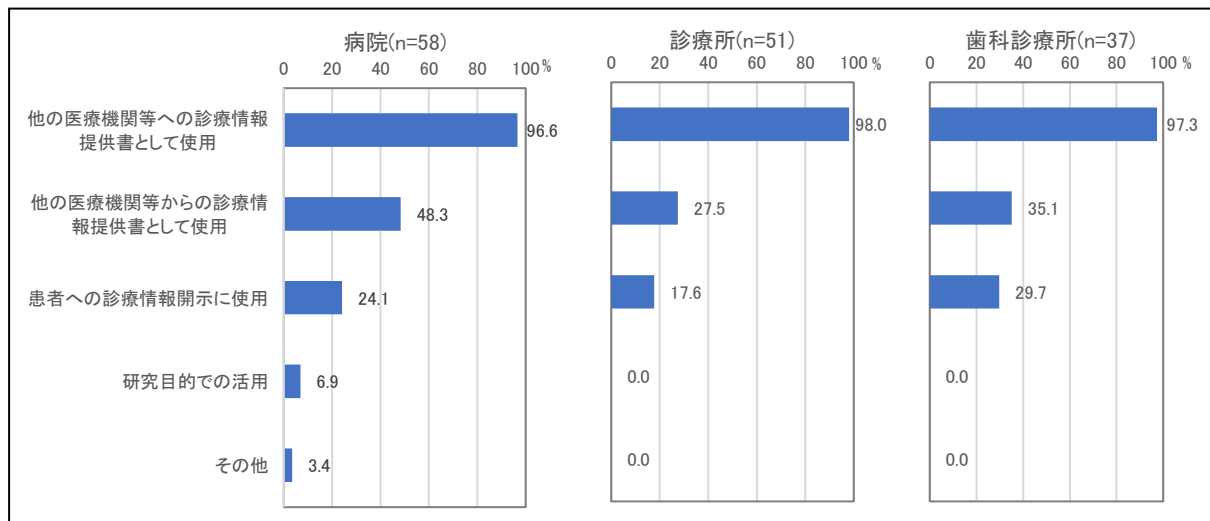


※ n=20 未満は網掛け表示

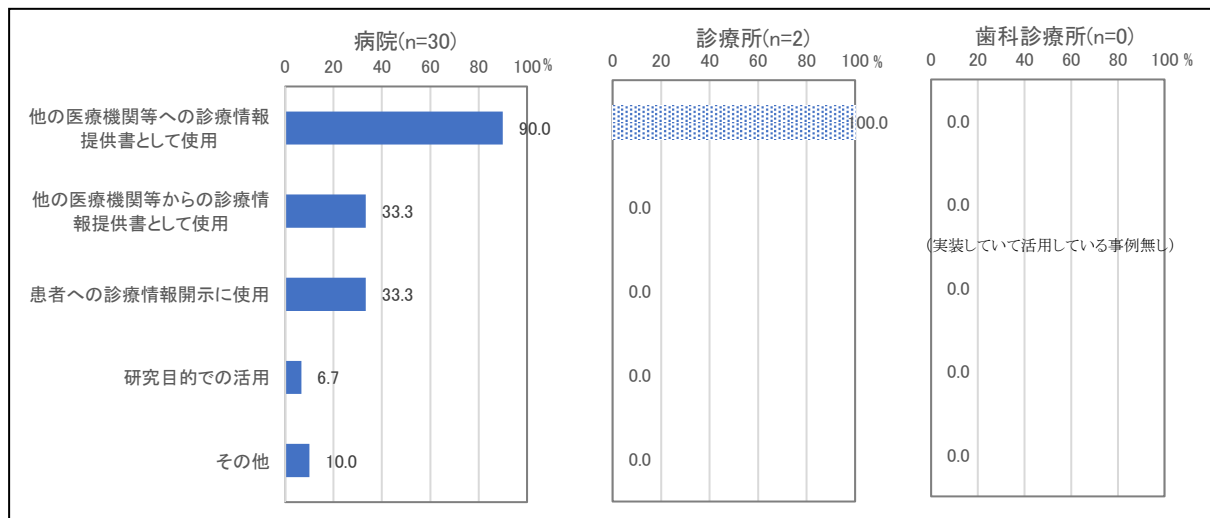
④ HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書



⑤ HS008 診療情報提供書

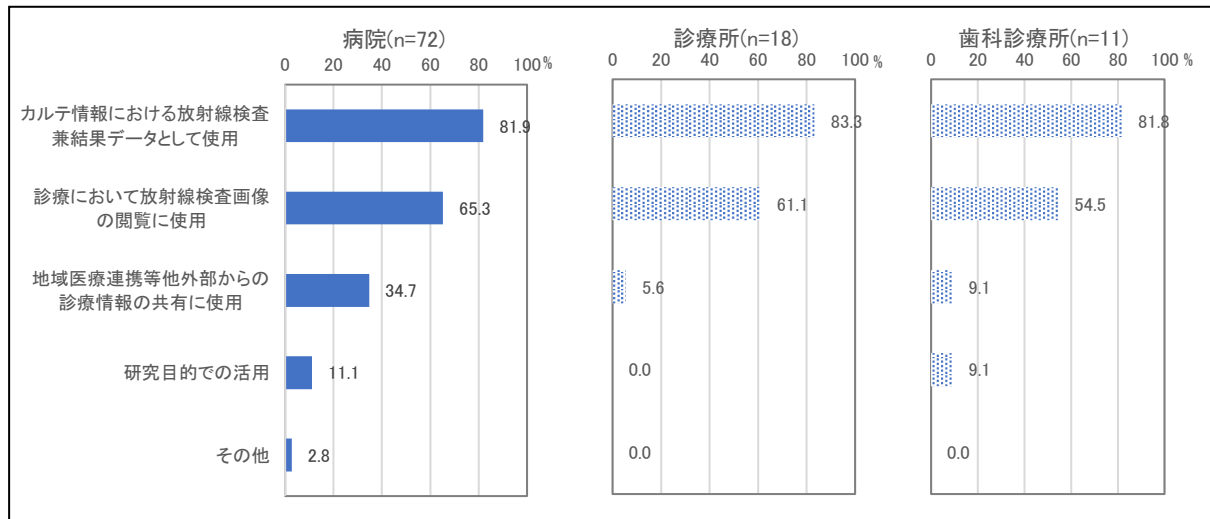


⑥ HS032 HL7CDAに基づく退院時サマリー規約

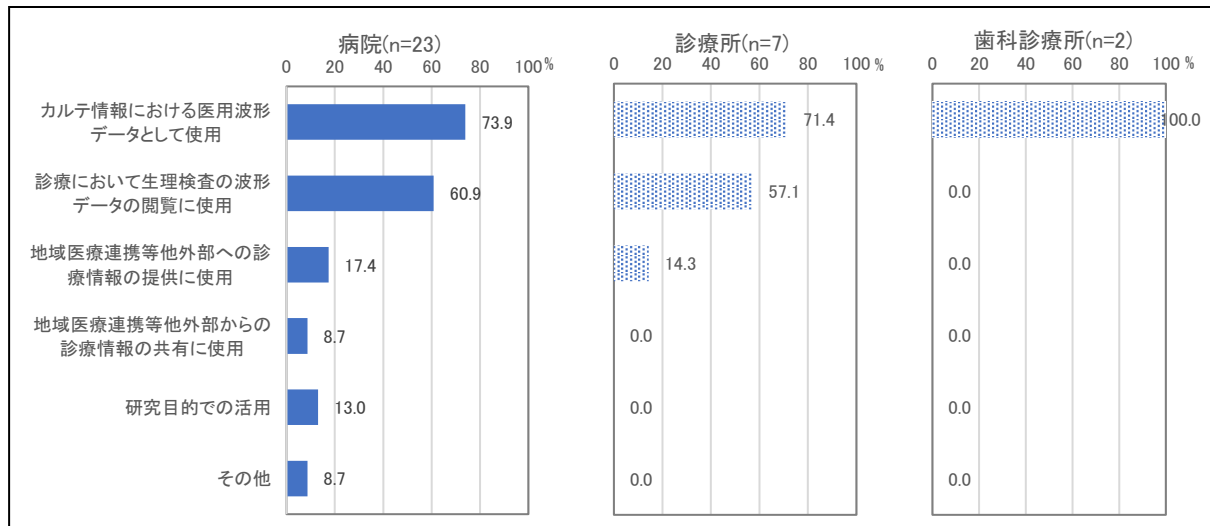


※ n=20 未満は網掛け表示

⑦ HS011 医療におけるデジタル画像と通信



⑧ HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則



※ n=20 未満は網掛け表示

3) データ交換 (複数回答)

一体型システムにおける「データ交換」に関する各標準規格の活用方法は下表のとおりであった。

① 一体型システムにおける「HS009 IHE 統合プロフィール「可搬型医用画像」およびその運用指針」の主な活用事例

病院	「患者への診療情報開示に使用」(48 件中 35 件、72.9%)
診療所	「患者への診療情報開示に使用」(9 件中 6 件、66.7%)
歯科診療所	「他の医療機関等への診療情報提供書として使用」(1 件中 1 件、100.0%)

(その他の回答)なし

② 一体型システムにおける「HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン」の主な活用事例

病院	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」(93 件中 61 件、65.6%)
診療所	「地域医療連携等外部への診療情報の提供に使用」(12 件中 8 件、66.7%)
歯科診療所	「診療情報のバックアップとして使用」(1 件中 1 件、100.0%)

(その他の回答)なし

③ 一体型システムにおける「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様」の主な活用事例

病院	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(17 件中 15 件、88.2%)
診療所	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(8 件中 5 件、62.5%) 「各種院内文書の作成に使用」(8 件中 5 件、62.5%)
歯科診療所	「患者への診療情報の開示の文書作成に使用」(10 件中 7 件、70.0%)

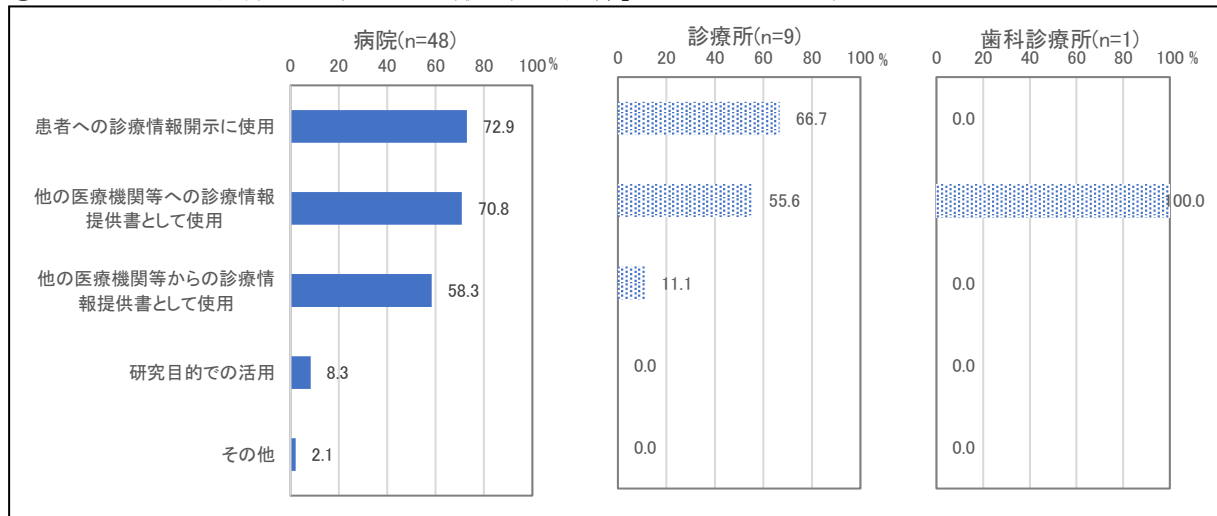
(その他の回答)なし

④ 一体型システムにおける「HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」の主な活用事例

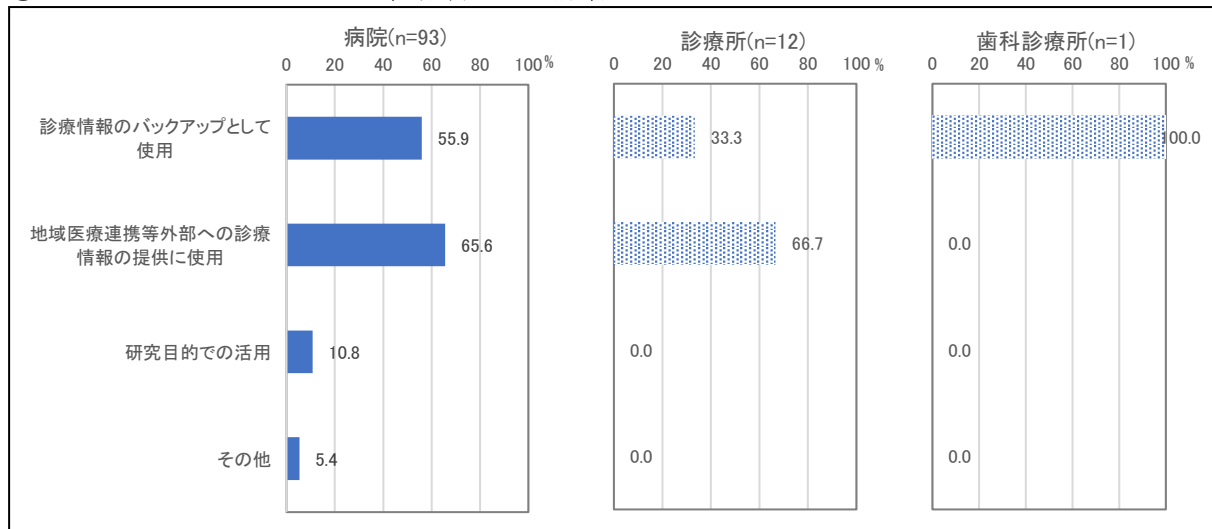
病院	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(24 件中 24 件、100.0%)
診療所	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(3 件中 3 件、100.0%)
歯科診療所	「地域医療連携等他外部からの診療情報の共有に使用」(7 件中 7 件、100.0%)

(その他の回答)なし

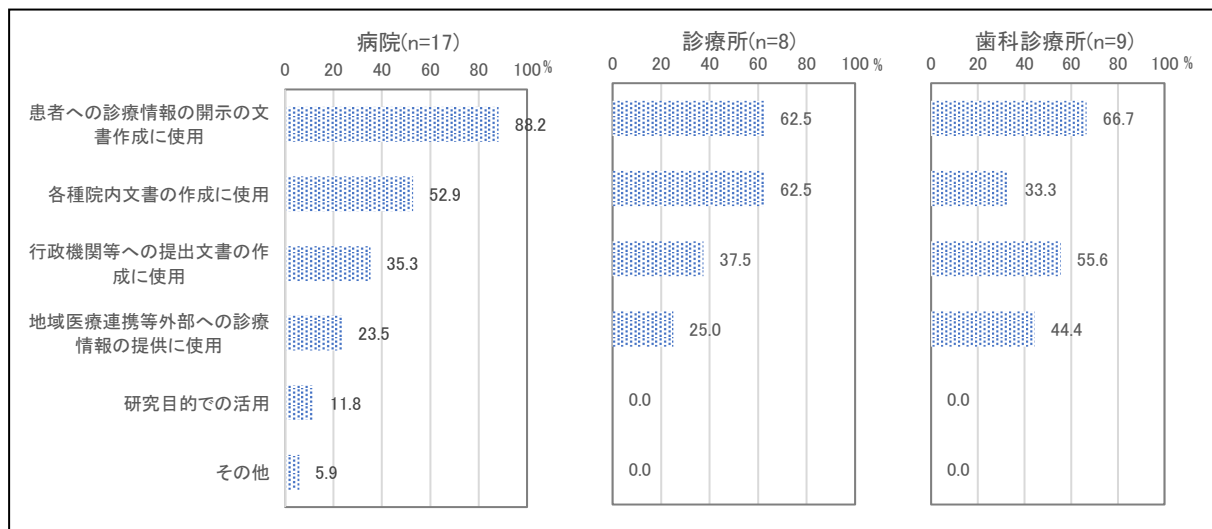
① HS009 IHE 統合プロフィール「可搬型医用画像」およびその運用指針



② HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン

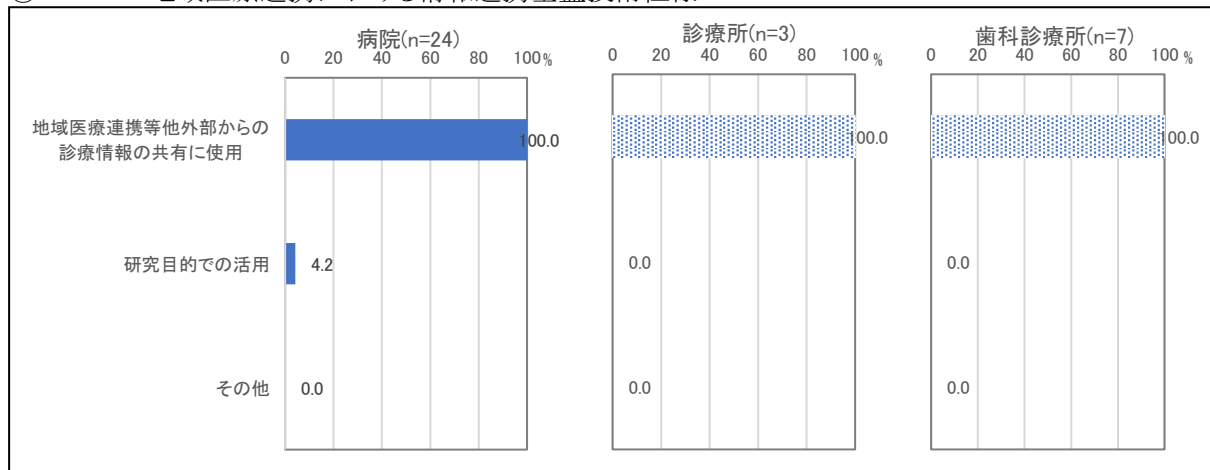


③ HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様



※ n=20 未満は網掛け表示

④ HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様



※ n=20 未満は網掛け表示

(4) 一体型システム(医事会計・電子カルテ)における実装している厚生労働省標準規格を活用していない理由

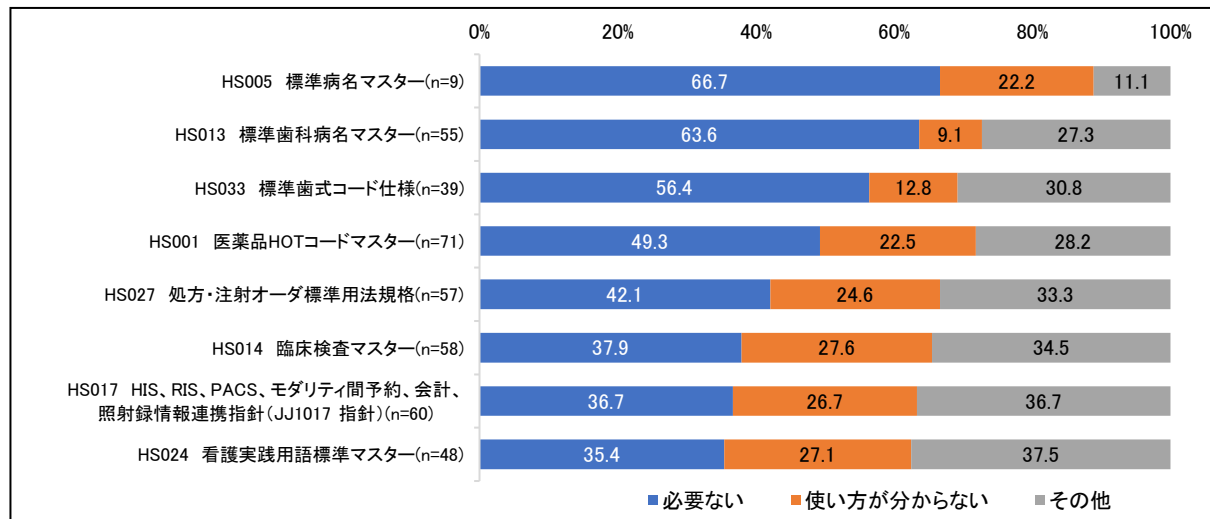
<病院>

一体型システムについて厚生労働省標準規格を「実装しているが活用していない」と回答した病院にその理由を確認した。その結果、「コード・用語」に関しては、「HS005 標準病名マスター」、「HS013 標準歯科病名マスター」については6割以上が「必要ない」と回答した。

「データ形式」に関しては、「HS032 HL7CDA に基づく退院時サマリー規約」、「HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書」、「HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則」、「HS008 診療情報提供書」について6割以上が「必要ない」と回答した。

「データ交換」に関しては、「HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)」について7割以上が「必要ない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)

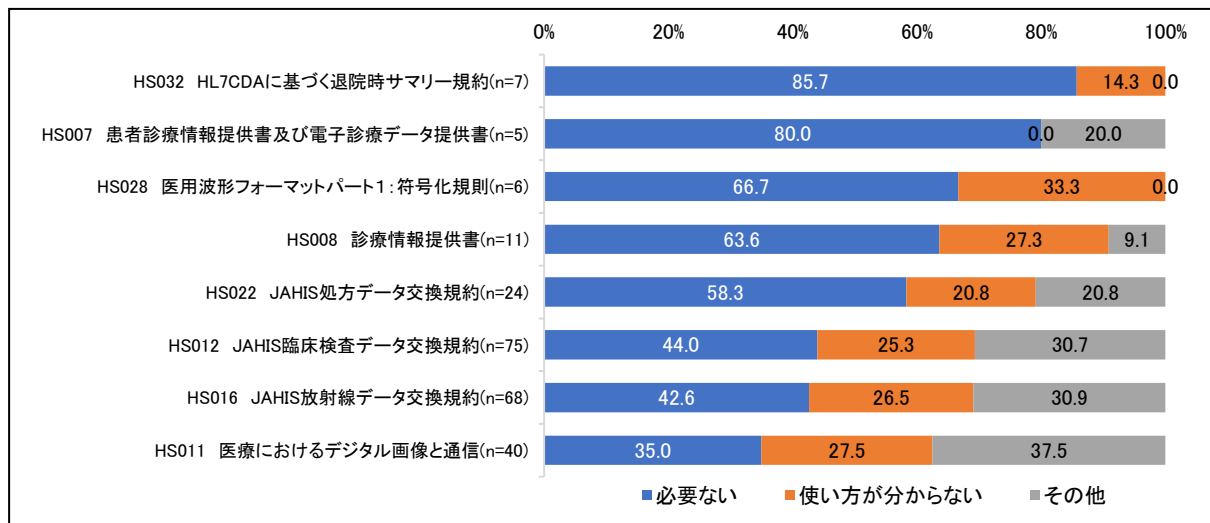


(その他の回答)

HS005 標準病名マスター	・ 当院システム稼働後に標準規格に採択されたため(1件)
HS013 標準歯科病名マスター	・ 歯科が無いため(5件) ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(2件) ・ 支払基金レセプト請求用傷病名マスターの病名コードを使用しているため(1件) ・ 部門システムを利用しており、カルテ側は受信のみであるため(1件)
HS033 標準歯式コード仕様	・ ローカルコードを使用しているため(3件) ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(3件) ・ 歯科が無いため(2件) ・ 部門システムを利用しており、カルテ側は受信のみであるため(1件)
HS001 医薬品 HOT コードマスター	・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(6件) ・ YJコード(薬価基準収載医薬品コード)を使用しているため(5件) ・ 従前のベンダ規格によりシステム連携が構築できているため(1件) ・ JLAC10コードを利用しているため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(1件)

HS027 処方・注射オーダー標準用法規格	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(12件) ・ 旧システムからのデータを移行したため(1件) ・ 電子カルテ更新時に検討するため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(1件)
HS014 臨床検査マスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(9件) ・ ローカルコードを利用しているため(5件) ・ 臨床検査部門で活用していないため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がないため(1件)
HS017 HIS、RIS、PACS、モダリティ間予約、会計、照射録情報連携 指針(JJ1017 指針)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(11件) ・ 独自のコードを使用しているため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(2件) ・ 電子カルテ更新時に検討するため(1件)
HS024 看護実践用語標準マスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(4件) ・ 独自のコードを使用しているため(3件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(1件) ・ 電子カルテ更新時に検討するため(1件) ・ 従前のベンダ規格によりシステム連携が構築できているため(1件)

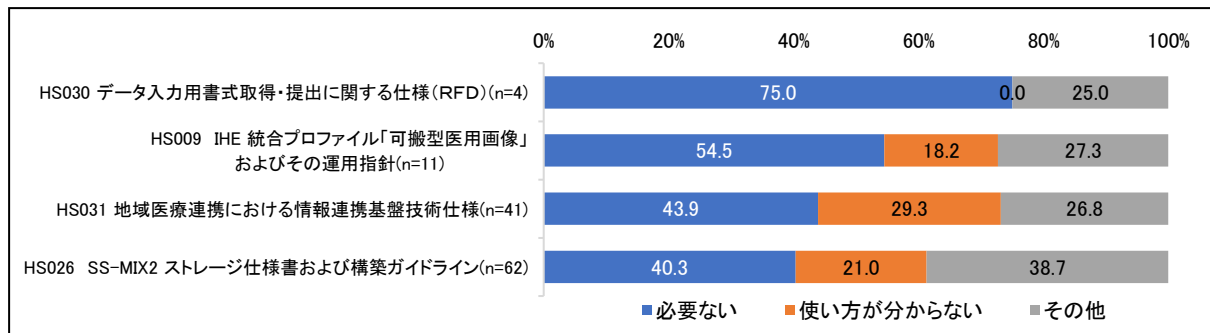
② データ形式(単数回答)



(その他の回答)

HS032 HL7CDA に基づく退院時サマリー規約	・ なし
HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書	・ なし
HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則	・ なし
HS008 診療情報提供書	・ 現行の運用になじまないため(1件)
HS022 JAHIS 処方データ交換規約	・ ローカルコードを利用しているため(3件) ・ 従前のベンダ仕様によりシステム連携が構築できている(1件)
HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約	・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(10件) ・ ローカルコードを利用しているため(3件) ・ 従前のベンダ規格によりシステム連携が構築できているため(2件) ・ 臨床検査システムが古く対応が難しいため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(1件)
HS016 JAHIS 放射線データ交換規約	・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため電子カルテ更新時に検討するため(9件) ・ 従前のベンダ仕様によりシステム連携が構築できている(1件) ・ ローカルコードを利用しているため(3件) ・ インターフェース仕様がHL7 対応版でないため(1件)
HS011 医療におけるデジタル画像と通信	・ オプションのためコードを使用するには構築費用が掛かるため(12件) ・ 電子カルテ更新時に検討するため(1件) ・ 活用を検討しているが、時間と費用と労力に余裕がない(1件)

③ データ交換(単数回答)



(その他の回答)

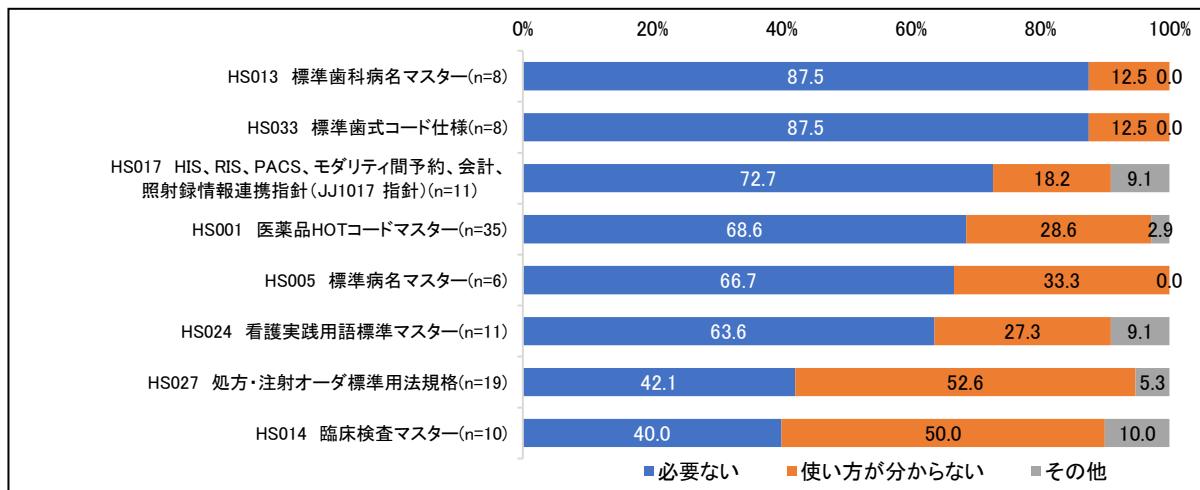
HS030 データ入力用書式取得・提出に関する仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の運用になじまないため(1件)
HS009 IHE 統合プロフィール「可搬型医用画像」	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのため、使用するには構築費用が掛かるため(10件) ・ 現行の運用になじまないため(1件) ・ 使用する段階までに至っていないため(1件) ・ 運用が定まっていないため(1件) ・ 運用にむけて別途検討が必要なため(1件)
HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのため使用するには構築費用が掛かるため(4件) ・ 院外連携未対応(1件) ・ 運用が定まっていないため(1件) ・ 運用にむけて別途検討が必要なため(1件) ・ 使用する段階までに至っていないため(1件)
HS026 SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプションのため使用するには構築費用が掛かるため(10件) ・ SS-MIX 連携開始時に使用するため(3件) ・ 運用にむけて別途検討が必要なため(1件) ・ 現行の運用になじまないため(1件) ・ 使用する段階までに至っていないため(1件) ・ 運用が定まっていないため(1件)

<診療所>

診療所については、「コード・用語」に関しては「HS027 処方・注射オーダ標準用法規格」および「HS014 臨床検査マスター」を除く全ての標準規格で6割以上が「必要ない」と回答した。

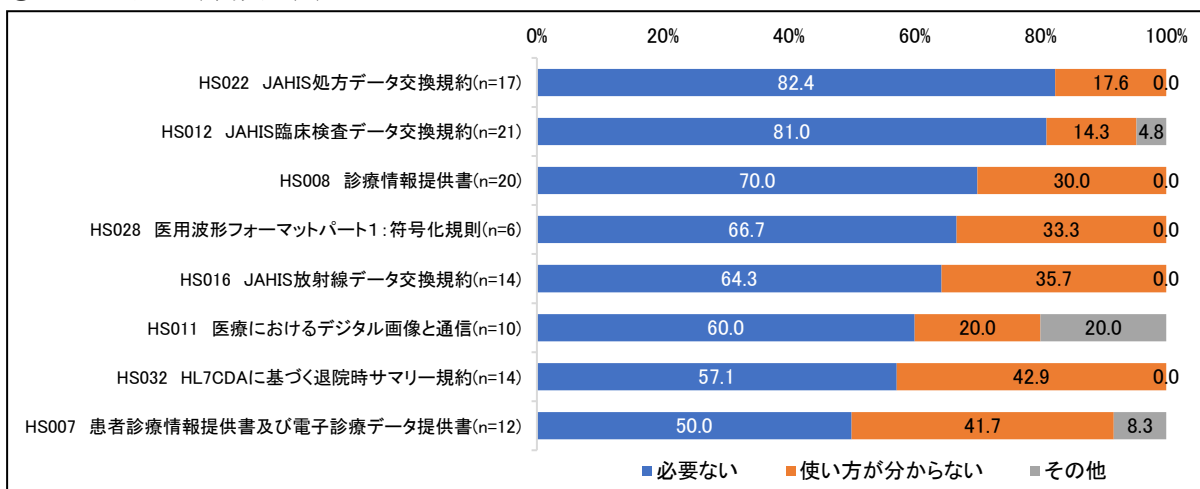
「データ形式」および「データ交換」に関しては、全ての標準規格で半数以上が「必要ない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)



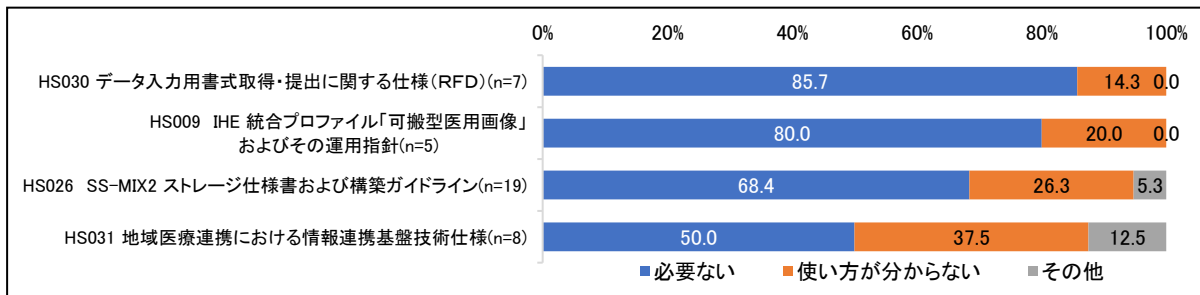
(その他の回答)なし

② データ形式(単数回答)



(その他の回答)なし

③ データ交換(単数回答)



(その他の回答)なし

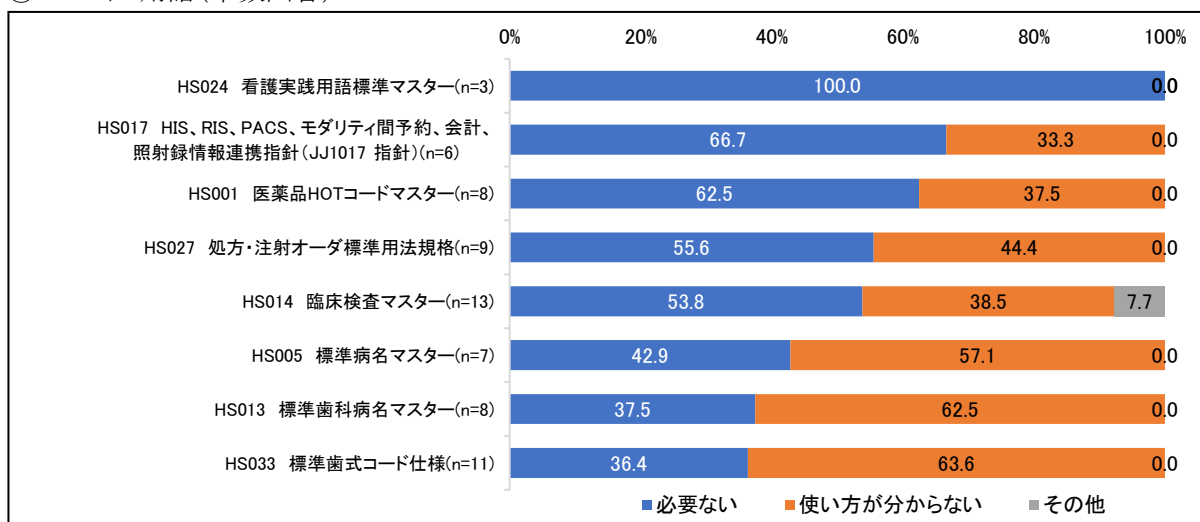
< 歯科診療所 >

歯科診療所については、「コード・用語」に関しては「HS024 看護実践用語標準マスター」については100.0%が「必要ない」と回答した。「HS005 標準病名マスター」、「HS013 標準歯科病名マスター」、「HS033 標準歯式コード仕様」については半数以上が「使い方が分からない」と回答。

「データ形式」に関しては、「HS011 医療におけるデジタル画像と通信」と「HS032 HL7CDA に基づく退院時サマリー規約」について 6 割以上が「必要ない」と回答。「HS028 医用波形フォーマットパート1: 符号化規則」については 6 割が「使い方が分からない」と回答した。

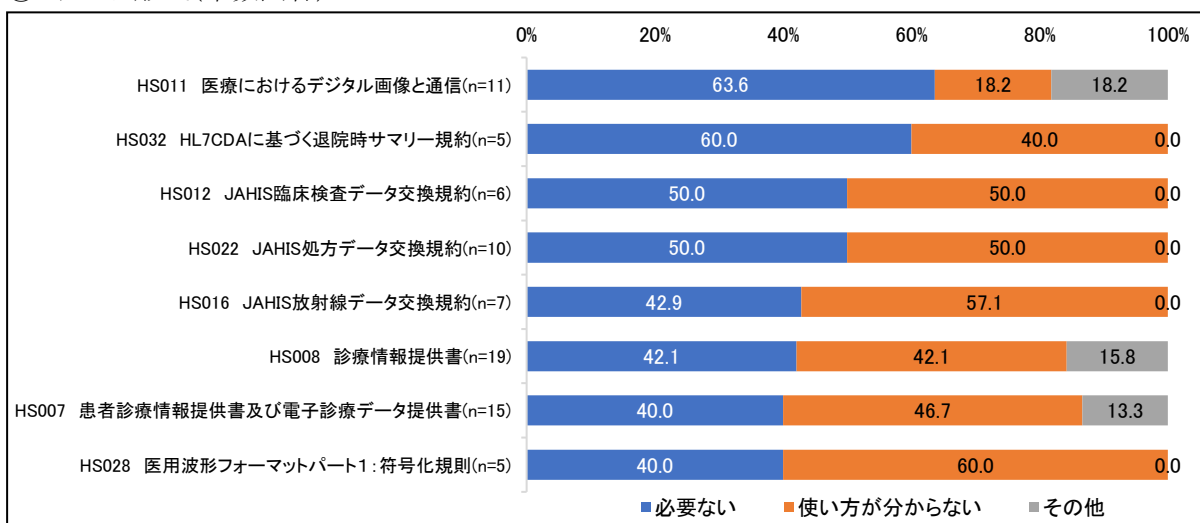
「データ交換」に関しては、「HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」について半数が「必要ない」と回答。その他の標準規格についてはいずれも 6 割以上が「使い方が分からない」と回答した。

① コード・用語(単数回答)



(その他の回答)なし

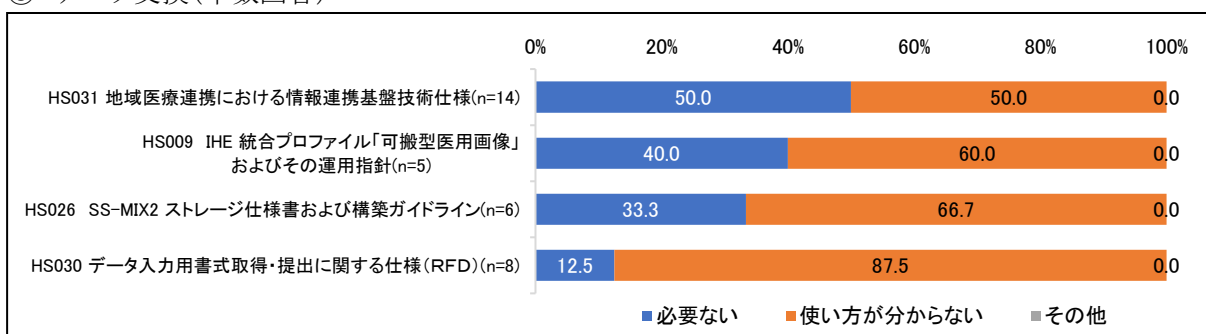
② データ形式(単数回答)



(その他の回答)

HS011 医療におけるデジタル画像と通信	・ デジタル化していないため(1件)
HS032 HL7CDAに基づく退院時サマリー規約	・ なし
HS012 JAHIS 臨床検査データ交換規約	・ なし
HS022 JAHIS 処方データ交換規約	・ なし
HS016 JAHIS 放射線データ交換規約	・ なし
HS008 診療情報提供書	・ ワードで雛形を作成し使用(1件) ・ 他にフォーマットしたものを使用している(1件)
HS007 患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書	・ ワードで雛形を作成し使用(1件) ・ デジタル化していないため(2件)
HS028 医用波形フォーマットパート1:符号化規則	・ なし

③ データ交換(単数回答)



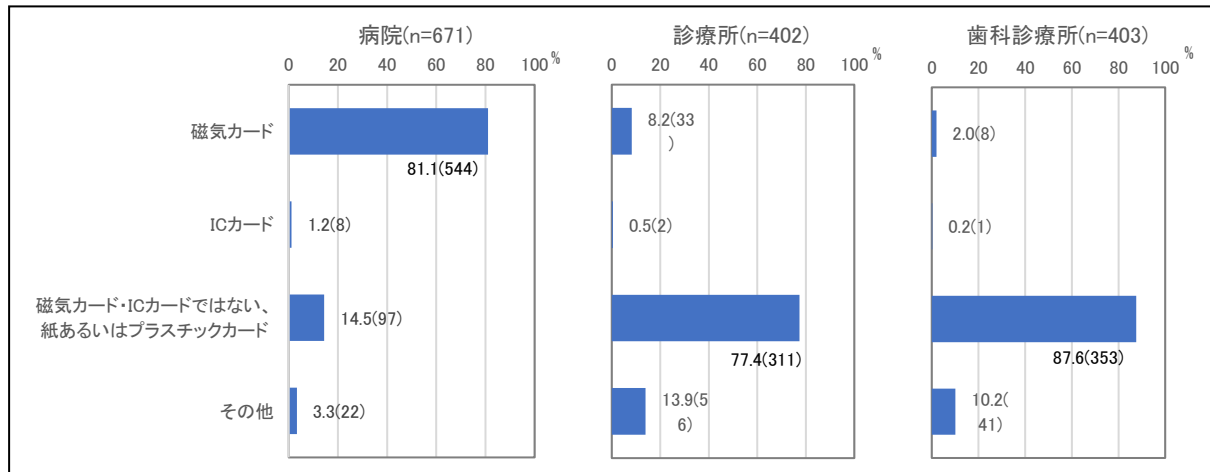
(その他の回答)なし

4. マイナンバーカードの活用状況

(1) 診察券の種類(単数回答)

病院で使用している診察券の種類は、「磁気カード」が 81.1% (n=544) であった。

診療所および歯科診療所で使用している診察券は、「磁気カード・IC カードではない、紙あるいはプラスチックカード」がそれぞれ 77.4% (n=311) と 87.6% (353) で、8 割前後が紙またはプラスチックカードであった。



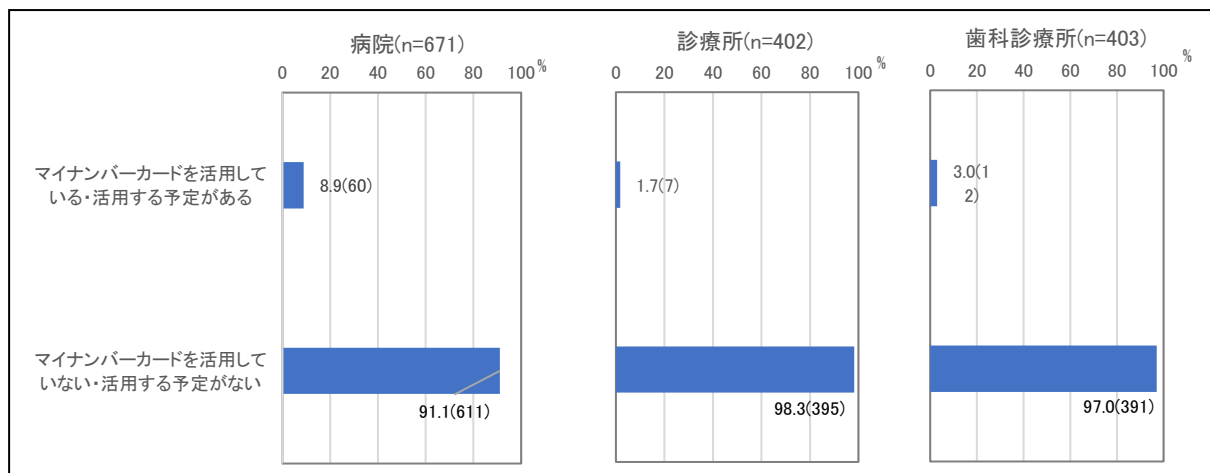
※()内は n 数

(その他の回答)

病院	・ なし
診療所	・ 応急診療所のため、診察券は作成していない(2 件) ・ 外来受診が無い訪問診療専門医療機関のため診察券は無し(1 件) ・ 診察券の発行は無し(25 件)
歯科診療所	・ 外来受診が無い訪問診療専門医療機関のため診察券は無し(2 件) ・ 診察券の発行は無し(3 件)

(2) マイナンバーカードの活用状況(単数回答)

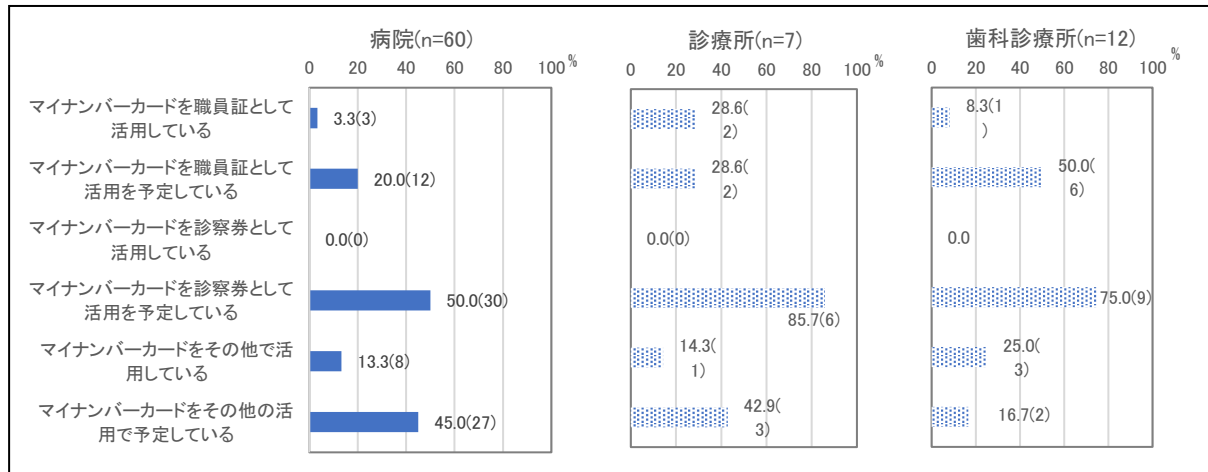
マイナンバーの活用状況は、「マイナンバーカードを活用していない・活用する予定がない」が病院 91.1% (n=611)、診療所 98.3% (n=395)、歯科診療所 97.0% (n=391) といずれも 9 割以上であった。



※()内は n 数

(3) マイナンバーカードの活用用途(複数回答)

「マイナンバーカードを活用している・活用している予定がある」と回答した施設を対象に、その活用用とを確認した。「マイナンバーカードを診察券として活用を予定している」との回答が最も多く、病院 50.0% (n=30)、診療所 85.7% (n=6)、歯科診療所 75.0% (n=9)であった。



※n=20 未満は網掛け表示、()内は n 数

(「マイナンバーカードをその他で活用している」と回答した施設の「その他」の記述)なし

(「マイナンバーカードをその他の活用で予定している」と回答した施設の「その他」の記述)

病院	・ オンライン資格確認(5件)、保険証の資格確認(22件)、患者の本人確認(2件)
診療所	・ 患者の本人確認(1件)
歯科診療所	・ 被保険者資格の確認(1件)

5. 医療機関への電話ヒアリング調査結果

本事業調査によって得られた情報をもとに、医療情報技術推進室員が医療機関へ電話でヒアリングを実施し、医療機関の標準化状況等について、実態把握を行った。下記に医療機関へのヒアリング結果を記載する。

(1) 厚生労働省標準規格の活用状況について

厚生労働省標準規格を実装しているが活用していない医療機関に対し、主に下記点についてヒアリングを行った。

- A なぜ実装しているのに活用しないのか
- B 何が理由(課題)で活用しないのか
- C 標準規格の何が改善したら活用するか

(回答)

歯科診療所

- ・ A: 元々レセコンに実装されていた。
- ・ B: 厚生労働省標準規格について、現場では特に意識していない。レセ請求で使うのであれば使うが、あまり把握していない。
- ・ C: 例えば歯式コードであれば、歯科・歯科間の連携であれば使うが、歯科と医科の間で用語が異なると疎通できないので、共通用語があればよい。

病院

- ・ A/B: 導入システムで既に YJ コードを提供されている
- ・ C: 特段なし

病院

- ・ A/B: 標準パッケージとして実装されているが、当院は療養型病院(内科)であり、使用することがない。今後 Human bridge の使用を検討予定。
情報連携の場面としては、二次救急からリハ目的で転院した際、転院元病院情報を閲覧、その逆もケースとしてはありうる。患者が地元に戻ればクリニックの先生が閲覧する等の連携で十分である。
ただし、都心部での診療や、災害等で状況が変わる可能性はある。
- ・ C: また今後、地域連携ネットワーク等に話を伺い、連携について検討していく。システム改修などがなく対応可能かも確認を行う予定。

(2) マイナンバーカードの医療機関での活用状況について

診察券等で活用する予定の医療機関へ、主に活用する予定とした経緯・理由に関してヒアリングを実施した。

(回答)

病院

- ・ 今後、マイナンバーカードを保険証の代わりとして使用できるため、あわせて診察券としての活用を考えているが、まだ詳細に検討はしていない。

診療所

- ・ 一時期話題になったため検討したが、現状、マイナンバーカードが周知されておらず、自院でマイナンバーカードの説明をすることが必要になる等対応が難しいため、現在は活用の検討をやめたところ。

また職員証として活用していると回答をしたが、職員証ではなく納税等について対応するために使用しているとのこと。

病院

- ・ 明確な時期は決まっていないが、地域連携での患者識別子的手段として使用できるか等、ベンダと検討中。

そのため、どのようなシステムを導入するかまでの検討には至っていない。

マイナンバーカード導入の検討の他に、現在診察券は、磁気カードを受付機で読み取るものの他に、スマホを用いて QR コードを読み込む、あるいは BCOM を設置して患者が来院すると受付され、患者自身は特に受付せずにできるようなシステムも導入済み。